

宮園遺跡 V

—大阪府営堺宮園第3期高層住宅（建て替え）新築工事に伴う発掘調査—

令和7年3月

大阪府教育委員会

宮園遺跡 V

—大阪府営堺宮園第3期高層住宅（建て替え）新築工事に伴う発掘調査—

大阪府教育委員会

序文

本書で報告します宮園遺跡は、堺市中区宮園町に所在する府営宮園住宅を囲む範囲に広がる古墳時代から中世、近世にかけての遺跡です。

宮園住宅は昭和40年代初頭に建築された団地で、近年の建て替え計画を受け試掘調査を実施したところ、中世を中心とした遺物、遺構が確認されたことから新たな埋蔵文化財包蔵地として周知されました。平成28年度より第1期住宅新築工事に伴う発掘調査が実施され、古墳時代と考えられる自然流路や中世の粘土探掘土坑、近世の井戸などの遺構が確認されています。

今回の調査は開発道路や集会所部分を対象として実施したもので、既刊の報告書で報告されている中世の粘土探掘土坑を多数検出するとともに、新たに古代の粘土探掘土坑を確認することができました。

これらの成果は、これまでの宮園遺跡の調査成果に新たな知見を加えるもので、この地域の歴史を解明していくうえで、重要な指標となるものです。

調査にあたっては、地元自治会の皆さま並びに堺市文化財課、本府都市整備部住宅建築局の方々に、多大なるご理解とご協力を頂戴しました。厚く御礼申し上げます。

本府教育委員会では文化財の保護事業をさらに推進してまいります。今後ともいっそうのご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

令和7年3月

大阪府教育庁文化財保護課長
道上 正俊

例言

1. 本書は、大阪府教育委員会が大阪府都市整備部住宅建築局の依頼を受けて令和4・5年度に実施した、大阪府営堺宮園第3期高層住宅（建て替え）新設工事に伴う、堺市中区宮園町所在の宮園遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は令和4年度は文化財保護課調査事業グループ技師 大澤 嶺、同グループ技師 白河巳桜子を担当者として、令和5年度は同グループ技師 白河巳桜子を担当者として実施した（職名は各年度当時）。
3. 遺物整理は、文化財保護課調査管理グループ専門員 藤田道子、同グループ技師 竹原伸次、調査事業グループ副主査 大澤、同グループ技師 白河を担当者として実施した（職名は各年度当時）。
4. 発掘調査の調査番号は22012、23003である。
5. 本書に掲載した遺構写真の撮影は発掘調査担当者が行い、遺物写真は、イトーフोटに委託した。
6. 発掘調査にあたっては、令和4年度の空中写真測量、図化作業を写測エンジニアリング株式会社に、令和5年度の空中写真測量、図化作業を株式会社ジオテクノ関西にそれぞれ委託して実施した。
7. 本書は、文化財保護課調査事業グループ副主査 大澤が第3章第4節を、その他は同グループ技師 白河（第3章第4節を除く全章）が執筆した。編集は白河が行った。
8. 発掘調査の出土遺物や写真・図面等の記録資料は、大阪府教育委員会で保管している。
9. 発掘調査・遺物整理にあたっては、以下の方々よりご指導・ご教示・ご協力いただきました。
堺市教育委員会、都市整備部住宅整備課・住宅建築課、八田荘団地自治会（順不同）
10. 発掘調査・遺物整理ならびに本書の作成に要した費用は、大阪府都市整備部が負担した。

凡例

1. 本書で用いる座標値は世界測地系（国土地理座標第Ⅵ系）に基づき、方位針は座標北を示す。水準値は T.P. 値（東京湾平均海面）を用い、本文および挿図中では T.P. +○m と表記する。
2. 遺構番号は、遺構の種類に関係なく、各年度で検出した順に付している。これは発掘調査での記録と合致する。また、掲載遺物に付した番号は通し番号で、挿図と図版の番号は一致している。
3. 土層および遺物の色調については、『新版 標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄 / 2006 年度版）に拠る。
4. 引用・参考文献は巻末に一括した。

目次

序文	
例言	
凡例	
第1章 調査に至る経緯・経過	1
第1節 調査の経緯	1
第2節 調査の経過と方法	2
第2章 地理的・歴史的環境と既往の調査成果	4
第1節 地理的環境	4
第2節 歴史的環境	6
第3章 令和4年度の調査成果	11
第1節 基本層序	11
第2節 1区の調査成果	12
第3節 2区の調査成果	24
第4節 3区の調査成果	33
第5節 4区の調査成果	48
第4章 令和5年度の調査成果	51
第1節 基本層序	51
第2節 1区の調査成果	52
第3節 2区の調査成果	58
第4節 3区の調査成果	64
第5節 4区の調査成果	73
第5章 総括	76
観察表	78
報告書抄録	

挿図目次

図1 調査地位置図	1	図12 R4・1区第2面遺構断面図②	19
図2 調査区地区割図	3	図13 R4・1区第2面出土遺物①	20
図3 宮園遺跡周辺土地条件図	4	図14 R4・1区第2面出土遺物②	21
図4 宮園遺跡周辺の地形	5	図15 R4・1区第1面平面図	22
図5 宮園遺跡周辺の遺跡	7	図16 R4・1区第1面遺構断面図	23
図6 周辺の主要調査地点	8	図17 R4・1区第1面・包含層出土遺物	23
図7 R4・1区土層断面図	13	図18 R4・2区西壁断面図	25
図8 R4・1区第2面(第4層上面)平面図	15	図19 R4・2区第2面平面図	26
図9 R4・1区粘土探掘土坑アゼ断面図①	16	図20 R4・2区第2面遺構断面図	27
図10 R4・1区粘土探掘土坑アゼ断面図②	17	図21 R4・2区第1面平面図	28
図11 R4・1区第2面北側拡大図、遺構断面図①	18	図22 R4・2区第1面遺構断面図①	29

図 23	R4・2区第1面遺構断面図②.....	30	図 43	R5・1区平面図.....	54
図 24	R4・2区第1面遺構断面図③.....	31	図 44	R5・1区遺構断面図①.....	55
図 25	R4・2区第1面遺構断面図④.....	32	図 45	R5・1区遺構断面図②.....	56
図 26	R4・2区出土遺物.....	33	図 46	R5・1区出土遺物.....	57
図 27	R4・3区断面図.....	35	図 47	R5・2区西壁断面図.....	59
図 28	R4・3区遺構平面図.....	37	図 48	R5・2区第2面平面図.....	60
図 29	R4・3区地山層上面遺構 123 平面図.....	39	図 49	R5・2区第2面遺構断面図.....	60
図 30	R4・3区地山層上面遺構断面図①.....	40	図 50	R5・2区第1面平面図.....	61
図 31	R4・3区地山層上面遺構断面図②.....	41	図 51	R5・2区第1面遺構断面図.....	63
図 32	R4・3区出土遺物①.....	42	図 52	R5・2区出土遺物.....	64
図 33	R4・3区出土遺物②.....	43	図 53	R5・3区南壁断面図.....	65
図 34	R4・3区第Ⅱ層上面遺構断面図①.....	44	図 54	R5・3区第2面平面図.....	68
図 35	R4・3区第Ⅱ層上面遺構断面図②.....	45	図 55	R5・3区第2面遺構断面図①.....	69
図 36	R4・3区出土遺物③.....	46	図 56	R5・3区第2面遺構断面図②・遺構平面図.....	70
図 37	R4・3区出土遺物④.....	47	図 57	R5・3区第1面平面図・遺構断面図.....	72
図 38	R4・4区平面図.....	49	図 58	R5・3区出土遺物.....	73
図 39	R4・4区土層断面図.....	50	図 59	R5・4区東壁断面図.....	74
図 40	R4・4区溝 066 遺構断面図.....	50	図 60	R5・4区平面図・遺構断面図.....	74
図 41	R4・4区出土遺物.....	50	図 61	R5・4区 054 断面図・出土遺物.....	75
図 42	R5・1区西壁断面図.....	53			

表目次

表 1	周辺の主要調査地点.....	8	表 3	土層と遺構の関係.....	51
表 2	土層と遺構の関係.....	11			

図版目次

図版 1	令和 4 年度	1 区	図版 13	令和 5 年度	3 区 (1)
図版 2	令和 4 年度	1・2 区	図版 14	令和 5 年度	3 区 (2)
図版 3	令和 4 年度	2 区 (1)	図版 15	令和 5 年度	3 区 (3)
図版 4	令和 4 年度	2 区 (2)	図版 16	令和 5 年度	4 区
図版 5	令和 4 年度	3 区 (1)	図版 17	令和 4 年度	1 区遺構出土遺物 (1)
図版 6	令和 4 年度	3 区 (2)	図版 18	令和 4 年度	1 区遺構出土遺物 (2)
図版 7	令和 4 年度	3 区 (3)	図版 19	令和 4 年度	1 区遺構及び土層出土遺物
図版 8	令和 4 年度	3 区 (4)	図版 20	令和 4 年度	2 区遺構及び土層出土遺物
図版 9	令和 4 年度	4 区	図版 21	令和 4 年度	3 区遺構出土遺物 (1)
図版 10	令和 5 年度	1 区	図版 22	令和 4 年度	3 区遺構出土遺物 (2)
図版 11	令和 5 年度	2 区	図版 23	令和 4 年度	3 区遺構出土遺物 (3)
図版 12	令和 5 年度	2・3 区	図版 24	令和 4 年度	3 区遺構及び土層出土遺物

図版 25 令和 4 年度 3 区土層出土遺物・4 区遺構
及び土層出土遺物

図版 26 令和 5 年度 1 区遺構及び土層出土遺物・
2 区遺構出土遺物

図版 27 令和 5 年度 2 区土層出土遺物・3 区遺構
出土遺物

図版 28 令和 5 年度 3 区遺構及び土層出土遺物・
4 区遺構出土遺物

第1章 調査に至る経緯・経過

第1節 調査の経緯

宮園遺跡は、堺市中区宮園町に所在する中世を中心とした遺跡である。遺跡の範囲は京北高速鉄道深井駅より300mほど西側に位置し、東西約600m、南北約400mの府営宮園住宅（旧八田荘住宅）範囲のほぼ全域を含むものである（図1）。

府営団地は1960年代後半に建設され、約40年を経て平成21年に宮園住宅の複数年次わたる建て替え計画が示された。計画は一部住棟の建て替え工事、耐震改修工事、エレベーター設置工事を主たる内容とするものであった。文化財保護課では、周辺の埋蔵文化財包蔵地の状況も鑑みて、埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を実施した。

試掘調査は平成22年に実施し、23箇所に調査区を設定した。その結果、18箇所で遺物と包含層を検出し、そのうち6箇所で溝や土坑などの遺構を確認した。これらの調査成果から、遺構・遺物が当該地の周辺に広がり遺跡であることが判明し、事業課に対して事前調査が必要な旨を伝えた。発見通知が提出され、埋蔵文化財包蔵地「宮園遺跡」として周知された。

その後住宅まちづくり部（現 都市整備部）は第1期・第2期・第3期工事を進め、それに伴い本課でも調査を実施した。これらの調査の成果は『宮園遺跡Ⅰ』、『宮園遺跡Ⅱ』、『宮園遺跡Ⅲ』、『宮園遺跡Ⅳ』の各報告書で詳細に報告されている。

今回の調査区は第3期建て替え工事の開発道路や集会所部分であり、調査面積は1,602㎡である。令和4年3月都市整備部長より発掘調査実施の依頼を受け、令和4年7月から同年11月まで発掘調査を実施した。その後旧集会所の解体工事などを終えた後に令和4年度に調査できなかった箇所を後半の調査として、令和5年4月から同年6月まで発掘調査を実施した。調査番号は前者を22012、後者を23003とした。

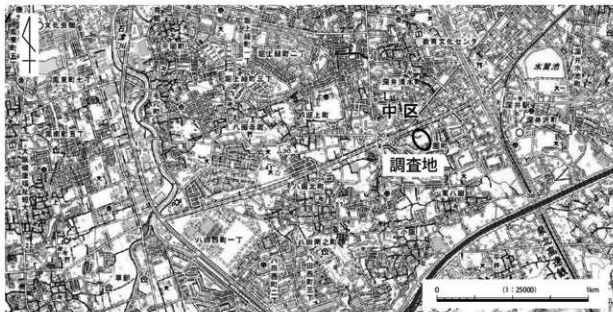


図1 調査地位置図（標準地図（国土地理院）に加筆）

第2節 調査の経過と方法

調査区分

調査番号 22012 で4区、23003 で4区の合計8区を設定した。各調査区の大きさは22012の1区(7×20m)、2区(7×17m)、3区(8×48m)、4区(25×20m)、23003の1区(5×14m)、2区(8×30m)、3区(4×53m)、4区(6×10m)である。また各調査区は座標軸に合わせて地区割を行い、遺物の取り上げもこの地区割に基づいて行った(図2)。

発掘作業

22012は調査区を設定し、令和4年7月から2区、1区、4区、3区の順で調査を開始した。23003は令和5年4月から3区、2区、4区、1区の順で調査を開始した。

調査はまず重機によって盛土及び現代の耕作土を除去した。それ以下の遺物包含層を、スコップや鋤簾などを使用し人力によって掘削した。掘削した土はベルトコンベアーにより調査区外へ搬出した。遺構の検出及び掘削は主に草削り及び移植ゴテを使用した。過去の調査成果から地山と考えられる灰白色粘質土層まで、一層ずつ掘り下げ人力掘削を行った。

空中写真測量を行い50分の1の図面を作成した。それに加え、土の堆積状況を示す土層断面図や各遺構の詳細図面をエスロンテープやメジャーを用いて作成した。その後、下層確認のため灰白色粘質土の掘削を行い、堆積状況を確認して記録した。重機によって搬出した土の埋戻しを行い、調査を終了した。

写真撮影

遺跡全体を撮影するため高所作業車を利用して全景写真を撮影するとともに、個別の遺構に対して半裁を行い堆積状況の確認や構造分析のための断面写真を撮影した。写真撮影はデジタルカメラ(フルサイズセンサー)を主に使用して撮影を行った。

整理等作業

報告書の作成は令和5年3月から実施した。現地で記録した図面・写真の整理を行うとともに、遺物の洗浄・復元、実測を行った。遺物の量はコンテナ27箱分であった。

遺物実測図は、スキャナーで原図を取り込んでデジタルトレースを行い、必要に応じてデジタル化した拓本を貼り込み、挿図を作成した。

遺構図面は原図の取り込みを外部に発注し、デジタルトレースを行って挿図を作成した。

現地で撮影した写真に関しては、現像及びデジタルプリントを行いファイルに格納した。また、報告書に掲載する遺物については、委託によって写真撮影を行った。

以上の作業と並行して報告文を作成し、報告書の編集作業を行った。

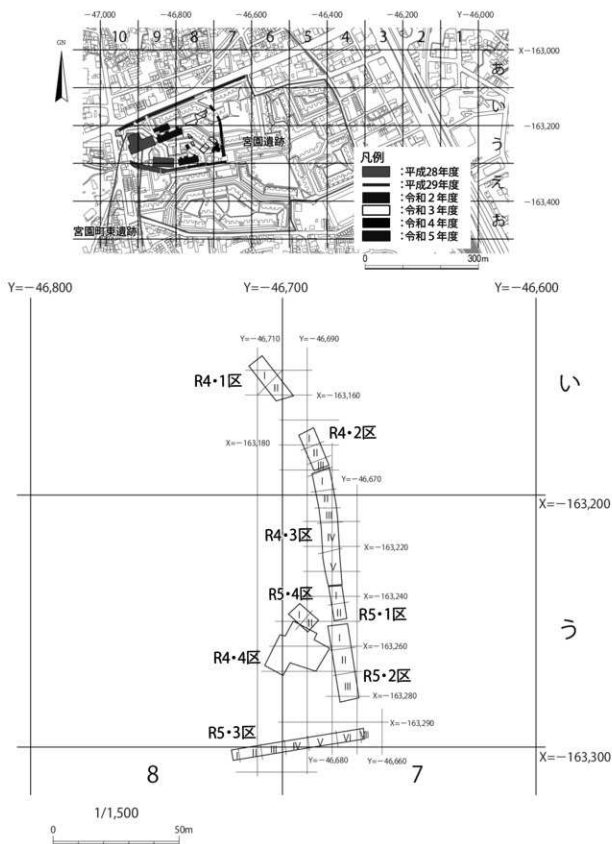


図2 調査地区区割図（標準地図（国土地理院）に加筆）

第2章 地理的・歴史的環境と既往の調査成果

第1節 地理的環境

大阪府の景観は中央部の大阪平野、その平野を南北から挟むように高度を減減させる丘陵と台地、府域の東と南を画する生駒・金剛・和泉山地に分けられる。その地形の変遷は、地殻変動と海水面の変動で継起された結果として説明され、とくに縄文海進が大阪の人類史に大きな影響を与えたことはよく知られている。

宮園遺跡がある堺市は大阪の南部、旧和泉国にあたり、現在も泉州と呼ばれる地域の北部に位置する。大阪南部は和泉山地と金剛山地を背に、大阪層群よりなる羽曳野丘陵、泉北丘陵、信太山丘陵などの丘陵が高度を減じつつ北西及び北に延び、その前面は広く段丘地形を呈する。この段丘は羽曳野丘陵付近の河内台地と、泉北丘陵・信太山丘陵の泉北台地に大きく分かれ、ともに緩傾斜地が拡がり古くから耕作地や居住空間として利用されてきた。また、河内台地は御廟山古墳（応神天皇陵古墳）を中心とする古市古墳群の、泉北台地は大山古墳（仁徳天皇陵古墳）を中心とする百舌鳥古墳群の舞台でもある。本遺跡は泉北台地の中ほどに位置し、遺跡北西端付近の現在の標高はおおよそ T.P.+28 m だが、調査区内の盛土を除却した旧耕作面（昭和30年代）の高さは南東（平成28年度第3調査区）が約 T.P.+27.5 m、北西（平成30年度第1調査区）が T.P.+26.3 m で、北西に下がる本来の地形に合った緩傾斜を呈している。

土地条件図を見ると、遺跡の西側には石津川が北西に向かって流れ、その周囲には谷底平野が広がる。宮園遺跡の範囲は団地の建設時に大きく改変を受けているものの、周辺の様相から更新世（中位）段丘面にあたる（図3）。この段丘面（台地上）には北西～北北西に向かう大小の開析谷が無数に存在していた。



図3 宮園遺跡周辺土地条件図（数値地図25000（国土院）に加筆）

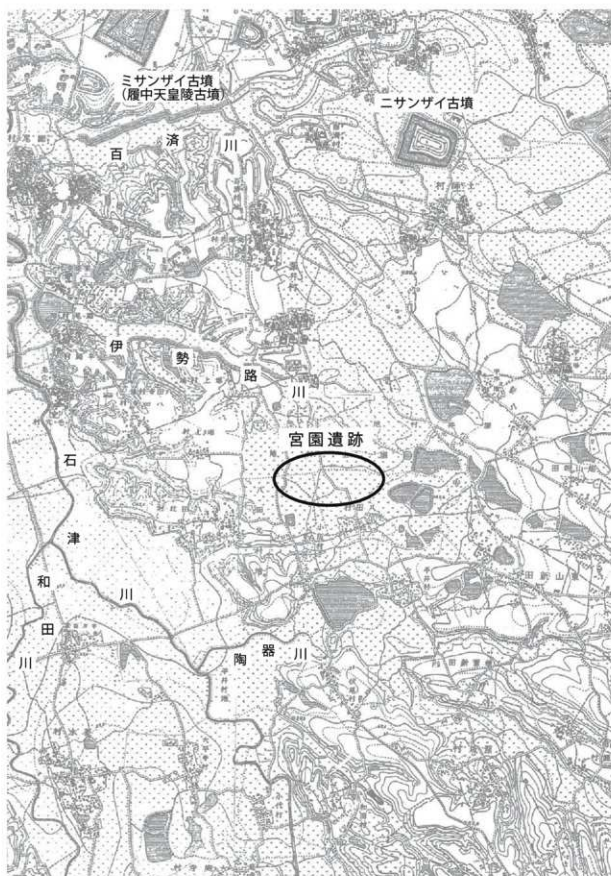


図4 宮園遺跡周辺の地形 (明治18年 陸地測量部地図 1:20,000)

図4に示した明治18年陸地測量部地図からも、近現代の開発による地形改变以前の様相を知ることができる。多数存在する開析谷の中でも、大きな谷筋には近世の池溝開発で溜池が築かれ、その下流域は平坦化された耕作地となっている。しかし、概ね北西に延びる旧河道の痕跡をたどることはできる。地図で見ると、宮園遺跡は南の八田村と北の堀上村の間にある平坦な耕作地の部分に位置することになるが、本書や過去の調査成果（大阪府教育委員会2018・2020）に記すように下層からは蛇行する自然流路を検出している。おそらく、緩傾斜となった谷筋を蛇行して流れる河川が多く存在していたことが考えられる。出土した遺物で判断すると古代は未だ河道の痕跡が残って谷底平野の相を呈し、中世以降に耕地化が始まったらしい。

さらに、本遺跡付近には石津川に向かう西向きの小支谷も見られる。石津川は堺市南部の丘陵に源を発し、北西流して大阪湾に注いでいる。中流域で和田川が左岸に流入し、右岸には陶器川、伊勢路川、百済川など小河川が台地を刻んで石津川に注いでいる。石津川水系は水運にも利用され、「陶邑」で製作された須恵器運搬の要ともなった河川である。

このように、本遺跡周辺は比較的低平な土地であり、人の生業及び居住に適した場所と言える。ただし水利は十分とは言えず、中世には深い井戸を掘り上げている。多くの谷筋が残るものの、流れの争奪があったようである。17世紀代に溜池が造られているが供給先として十分な河川は丘陵上方に存在せず、明治時代にはさらに南東から水を引いている。平坦な地形であり、海陸風にも恵まれた穏やかな気候でありながら、後世に続く集落が発達しなかったのは不十分な水利環境が影響したのかも知れない。

第2節 歴史的環境

宮園遺跡（1）は堺市中区宮園町に所在する府宮宮園住宅（旧八田荘団地）の建て替え工事に伴い、平成22（2010）年に実施された試掘調査によって新規に発見された遺跡である。堺市を代表する遺跡群として、北部では令和元（2019）年に世界文化遺産に登録された大山古墳（仁徳天皇陵古墳）などの巨大前方後円墳等で構成される百舌鳥古墳群、南部では古墳時代から平安時代までの数百年にわたって須恵器を生産した陶邑窯跡群が広がる。百舌鳥古墳群、そして陶邑窯跡群はともに、日本の歴史の動向に重要な位置を占める遺跡である。

宮園遺跡はこのうちの陶邑窯跡群の範囲の北限に相当する位置にある。本遺跡周辺は古くからの豊かな歴史環境を有する地域であり、遺跡も多く存在している。本遺跡の周辺地域の歴史的環境について、時代順に簡単に概説したい（図5・6、表1）。

旧石器～縄文時代

旧石器時代では鈴の宮遺跡（26）と平井遺跡（19）、堀上町遺跡（3）、小阪遺跡（22）で剥片や石核、ナイフ形石器の出土が報告されている程度で、確実な遺構は検出されていない。

縄文時代では鈴の宮遺跡（26）で晩期の遺構・遺物の存在が報告されている。また小阪遺跡（22）では前期から晩期までの縄文土器が出土し、中期末以降から遺構が現われる。堀上町遺跡（3）では石鏃が出土している。

総じて、宮園遺跡周辺は旧石器時代の遺構・遺物が希薄で、縄文時代から人間活動の痕跡がみえ始めたといえるであろう。

弥生時代

鈴の宮遺跡（26）では12基の方形周溝墓が発見され、同時に中期～後期の壺や甕などの弥生土器が出土した。また当遺跡の北に隣接する毛穴遺跡（31）は、この墓に葬られた人びとの集落ではないか

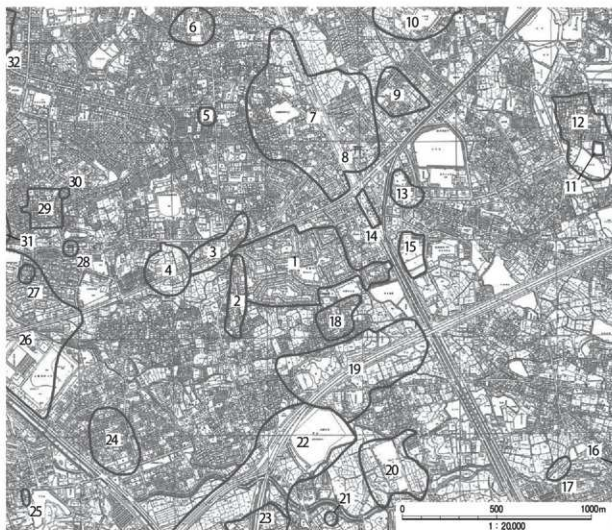


図5 宮園遺跡周辺の遺跡（1：20,000）

1. 宮園遺跡 2. 宮園町東遺跡 3. 堀上町遺跡 4. 八田北町遺跡 5. 観音山古墳 6. 深井中町遺跡
7. 深井清水町A遺跡 8. 野々宮神社 9. 深井水池遺跡 10. 土師南遺跡 11. 土塔 12. 大野寺跡
13. 深井清水町B遺跡 14. 深井清水町C遺跡 15. 深井幡池遺跡 16. 陶器千塚 17. 東山遺跡
18. 東八田遺跡 19. 平井遺跡 20. 平井南遺跡 21. 関宿藩陣屋跡 22. 小坂遺跡 23. 伏尾遺跡
24. 八田西町遺跡 25. 万田遺跡 26. 鈴の宮遺跡 27. 仏光寺跡 28. 蜂田神社遺跡 29. 華林寺跡
30. 坊主山古墳 31. 毛穴遺跡 32. 家原寺町遺跡

と推測されている。

宮園遺跡周辺では今のところ目立つ弥生時代の遺跡はこれぐらいであるが、弥生時代に至り人間活動が活発化し始めたものと考えられる。

古墳時代

鈴の宮遺跡（26）からは方墳や埴輪棺、土器棺が発見されており、時期は前期末～中期前半とされている。これは北に数km離れて所在する百舌鳥古墳群との関係を考えることができる墓群といえるであろう。

宮園遺跡は上述したように陶器窯跡群の範囲の北限に相当する位置にあるので、周辺からは須恵器窯に関係する遺跡が発見されている。深井幡池遺跡（15）では5世紀末（TK23・TK47型式頃）の窯本

表1 周辺の主要調査地点

遺跡名	番号	調査番号	調査期間	面積 (㎡)	調査機関	報告書
宮園遺跡	1-1	10087	H22.11.29-12.20	140	大阪府教育委員会	大阪府教委 2011
	1-2	16015	H28.6.7-H29.3.14	4,614	大阪府教育委員会	大阪府教委 2018
	1-3	17010	H29.8-R2.12	534	大阪府教育委員会	大阪府教委 2020
	1-4	20003・20016	R2.5.8-R3.2.26	3,337	大阪府教育委員会	大阪府教委 2021
	1-5	21030	R3.10-R4.2	1,347	大阪府教育委員会	大阪府教委 2022
宮園町東遺跡	2-1	HAC2	S60.12.9-12.24	約 320	堺市教育委員会	堺市教委 1987
	2-2	MZCH-1	H18.7.25	-	堺市教育委員会	堺市教委 2008
堀上町遺跡	3-2	HAC-3	H7.3.6-3.24	140	堺市教育委員会	堺市教委 1997
	4-1	HDK1	S61.1.13-2.1	約 386	堺市教育委員会	堺市教委 1989a
八田北町遺跡	4-2	HDK2	S61.5.19-7.4	約 450	堺市教育委員会	堺市教委 1989a
	4-3	HDK3	S61.7.14-12.29	約 4,608	堺市教育委員会	堺市教委 1989b
	13-1	第1地区	S54.8.6-9.7	約 750	堺市教育委員会	堺市教委 1981
深井清水町遺跡 B地点	13-2	第2地区	S54.12.10-S55.2.3	660	堺市教育委員会	堺市教委 1981
	13-3	第3地区	S56.9.1-9.30	約 145	堺市教育委員会	堺市教委 1981
深井清水町 C遺跡	14-1	4010	H16.5.10-6.7	336	大阪府教育委員会	大阪府教委 2005
深井幅池遺跡	15-1	FHH1	H1.7.17-H2.3.30	2,621	堺市教育委員会	堺市教委 1992
平井遺跡	19-1	-	S61.8-S62.12	27,850	堺市教育委員会	堺市教委 1988

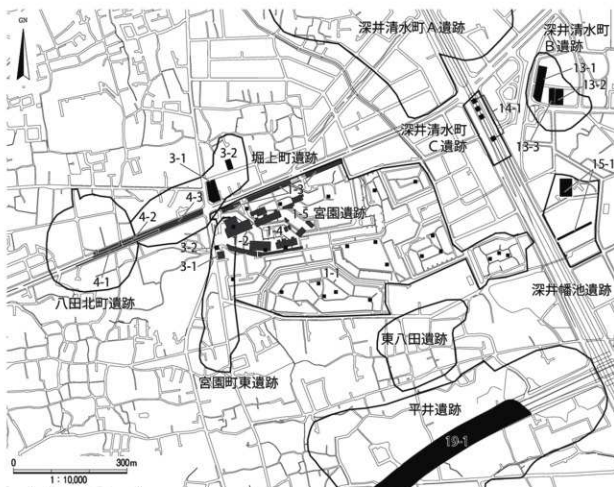


図6 周辺の主要調査地点（調査箇所の番号は表1と対応）

体が発掘調査され、大阪遺跡(22)では同じく5世紀の灰原が発見され、近くに窯本体が存在することが確実である。

この時代の集落としては、大阪遺跡(22)で竪穴住居や掘立柱建物、井戸等の集落が営まれた痕跡が検出されている。また深井清水町C遺跡(14)では古墳時代末～飛鳥時代の柱穴や溝が検出され、集落の一角の様相が明らかになった。この遺跡では秤の錘である「權」を模した土製品が出土し注目された。

古代

宮園遺跡周辺は古代律令制下では和泉国大鳥郡常陵郷・蜂田郷に属する。ただ、先述した大阪遺跡において飛鳥時代まで継続する集落の痕跡が検出されているが、これを除けば7世紀の段階では宮園遺跡における遺構・遺物は希薄である。この状況が一変するのは8世紀である。

当地一帯は行基が活躍した場所として知られるが、これと符合するように、宮園遺跡から東へ1.5km離れた位置に、行基が建立したとされる土塔(11)や大野寺(12)が所在する。このうち土塔(11)は国指定史跡として整備され、公開されている。また華林寺跡(29)は行基建立の伝承を持つ寺院として後世に信仰を集めた。

深井幡池遺跡(15)では、奈良時代の土師器窯とそれに関係する土師器溜まりが発見されている。深井清水町B遺跡(13)では、奈良時代の掘立柱建物や溝、土師器溜まり等の遺構が検出され、当時の集落の一部が明らかとなった。これらの遺跡の年代は8世紀前半で、行基の活躍した時期と重なることが注目される。

鈴の宮遺跡(26)では奈良時代の井戸や溝、火葬墓が検出されている。またこの遺跡からは平安時代後期の寺院跡が発見され、所在の小字名から仏光寺跡(27)と考えられている。

蜂田神社(28)は延喜式神名帳に記載される式内社であるが、室町時代末期に現在地に移転したと伝えられる。

中世

中世になると、常陵郷には春日社領深井郷、蜂田郷には石清水八幡宮領蜂田庄あるいは摂関家大番領八田庄といった荘園が成立し、開発が盛んとなっていく。

平井遺跡(19)では瓦器窯跡ともに掘立柱建物跡がまともに検出されている。ここが中世の開発拠点となる集落の可能性はある。

八田北町遺跡(4)では土器焼成用の粘土採取土坑が検出されている。若干距離が離れているが、平井遺跡(19)の瓦器窯跡との関係が考えられる。

宮園遺跡周辺では中世の瓦器・瓦質土器・土師器・須恵器等が出土し、土坑や溝、柱穴等の遺構が検出されるが、遺物は包含層から細片で出土することが多く、また粘土採取土坑以外の遺構がまとまった形で検出される例は少ない。この地域で中世に田畑の開発が進んでいった様相を見て取れる。また中世の段階で形成された、田園の中に集落が点在する景観は、図4から看取されるように近代を経て、当地に府営住宅が建設される1950年代まで維持された可能性が高い。

野々宮神社(8)は室町時代にこの地に遷座したと伝えられる神社であるが、詳細は不明である。

近世・近代

近世・近代になって、溜池や水路の築造改修等によって更に開発が進む。これにより1950年代まで続く田園風景が形成されたものと思われる。

他に注目すべきこととして、この地域では戦国時代に八田焼(別名は半田焼)という焼き物が生産されていた。これは当時盛んになった茶の湯に使う茶器の灰地焼で、陶工の玄斎は豊臣秀吉から「天下一」

の称号を許されるほどであった。なお、「湊焼」と通称される焼き物のうち甕などの大型品については、当地周辺で焼かれた八田焼がその実態であるとする説がある（白神 1992）。八田焼については、今後の大きな課題としてここに記すものである。

なお遺跡の名称となっている「宮園」の地名の由来であるが、周辺には上述のように蜂田神社と野々宮神社が所在し、この由緒ある両神社に挟まれた田園というところから戦後に名付けられたものである。

第3章 令和4年度の調査成果

第1節 基本層序

第0層：八田荘住宅（現宮園住宅）建設に伴う造成土である。

第1層：八田荘住宅（現宮園住宅）建設以前の耕作土である。造成時に削平を受けている部分が多いが、平均して20cm程度の層厚である。水田作土（第1a層）と床土（第1b層）の2層に分層できる。各調査区に認められるが、4区には第1a層が一部にのみ確認できる。

第2層：中世耕作土および自然堆積層である。1区では7/5Y5/1 灰黄色砂質土の1層のみである。2区では4層に分けられ、10YR5/1 褐色灰黄色砂質土の第2a層、2.5Y5/1 黄灰色粘質土の第2b層、2.5Y5/1 黄灰色シルトの第2c層、10YR3/4 暗褐色～7.5YR5/1 褐色灰黄色粘質土の第2d層があり、第2a～c層が耕作土、第2d層は自然堆積層とみられる。各層の年代は出土遺物から、第2a・b層が中世後期、第2c層が15世紀まで、第2d層が13～14世紀と考えられる。

3区は2層に分けられ、2.5Y6/2 灰黄色砂質土の第2a層と（I層）と2.5Y7/1 灰白色シルトと2.5Y6/2 灰黄色砂質土の混合土層である第2c層（II層）に分類できる。4区は第2a層が一部にのみ確認できる。

第3層：1区にのみ認められる堆積層であり、古代またはそれ以前の堆積層である。2.5Y6/1 黄灰色粘質土と10YR5/1 褐色灰黄色砂質土の混合土層である第3a層と、5B6/1 青灰色粘質土と10YR6/1 褐色灰黄色砂質土の混合土層である第3b層の2層に分類できる。2層とも地山由来の粘質土に耕作土の褐色灰黄色砂質土が混ざったと考えられる。

第4層：基盤層となる段丘構成層である。上層は灰白色シルトもしくは青灰色粘質土層、下層は灰白色の風化礫を多く含む砂礫層で構成される。

表2 土層と遺構の関係

年代	土層区分	層相	主な遺構
現代	第0層	現代盛土・掘削	
近代～現代	第1a層・第1b層	作土	
中世（16世紀?）	第2a・b層	作土	
中世（14～15世紀）	第2c層	作土	粘土採掘土坑・土坑・ピット
中世（12～13世紀）	第2d層	水成層?	
～古代	第3a層	水成層	粘土採掘土坑・土坑・溝
～古代	第3b層	水成層	
古代	第4層	段丘構成層（更新世）	土坑

第2節 1区の調査成果

第1項 層序

本調査区の層序は、上から順に宅地造成土（第0層）、現代耕作土（第1a層）と床土層（第1b層）、中世耕作土（第2層）、古代からそれ以前の堆積層（第3a層・第3b層）、地山層（第4層）である。遺構面は2面あり、中世耕作土を外した第3a層上面で、13～14世紀頃の遺構を検出し、次に第3層を外した地山層（第4層）上面で、8～9世紀頃の遺構を検出した。この第2面で検出した遺構は、本来第3a層から掘り込まれているが、地層の違いを平面で検出することができなかったため、掘り下げた地山層上面で検出した。遺構によって掘られているために起伏があるが、標高はT.P.+26.2～26.6mの範囲である。遺構は、粘土採掘土坑、土坑、溝、ピットを検出した。

第2項 古代（第2面・第4層上面）の遺構と遺物

検出した遺構

調査区のほぼ全面で不定形の粘土採掘土坑を検出した。土坑の底面には複数の凹みが確認できることから、土坑を連続して掘っていると考えられるが、埋土の違いが確認できず、切り合い関係は不明である。土坑の全長は東西7m、南北15m以上になり、深さは0.05～0.5mである。東西に6か所、南北に2か所の土層確認用のアゼを設定し、土層を確認した。埋土は共通して、地山由来の粘質土と灰色砂質土がブロック状に混合しており、人為的に埋戻しを行っていた。おそらく第3層上面から粘質土を目指して土坑を掘り込み、埋め戻した時に耕作土（灰色砂質土）が混じっている。しかし土坑内に水成堆積層がほとんどみられないことから、あまり時間を置かずには埋戻していると考えられる。この埋土中の灰色砂質土は、壁面の地層としては確認できなかった。

遺物は甕、壺などの土師器、黒色土器が出土している。特に土師器甕は完形のものも含めて10点以上出土しており、その特徴から8世紀～9世紀に属すると考えられる。北側の遺構037から065は同じく粘土採掘土坑の一部と考えられ、平面的な掘削により土坑の底が検出されたものである。これらから出土した遺物は土師器小片などで、南側とは異なり完形のものはほとんど出土しなかった。

出土遺物

古代の粘土採掘土坑 1は土師器壺である。内外面は工具によるナデ調整を施す。外面の肩部に黒斑が一部認められる。2は土師器壺の口縁部である。内外面ナデ調整、粘土の接合痕がある。口縁部は分厚く直線的である。

以下の3から19はすべて土師器甕である。

3は外面ユビオサエナデ、内面ナデ調整。外面に一部黒斑が認められる。4は内面ナデ調整、外面は頸部から縦方向のハケメを施す。口縁部のヨコナデは明瞭であるが、全体的に摩滅・剥離している。5は長胴甕の口縁部である。内面の肩部はケズリ、口縁部はハケナデで、外面は頸部から縦方向のハケメを施す。外面にススが付着する。6は内面が摩滅しているが、外面はユビオサエナデ後ハケメを施す。7は外面に縦方向ハケメ、内面にナデ調整を施す。口縁部の器壁はやや分厚く端部はわずかに外反し、直線的である。8は内外面が剥離しているため調整が不明瞭であるが、外面口縁部にハケナデを施す。9は外面ユビオサエナデ後にナデ調整、内面は工具によるナデ調整を施す。外面に一部黒斑が認められる。10は外面の頸部から胴部にかけてハケメ後横方向ナデ、胴部から底部はハケメを施す。内面は口縁部から頸部にハケメ、体部はナデ調整を施す。外面にススが付着する。11は外面ユビオサエナデ後頸部から縦方向のハケメ、内面はナデ調整を施す。口縁の端部は面を持つ。12は内外面ナデ調整、外面頸

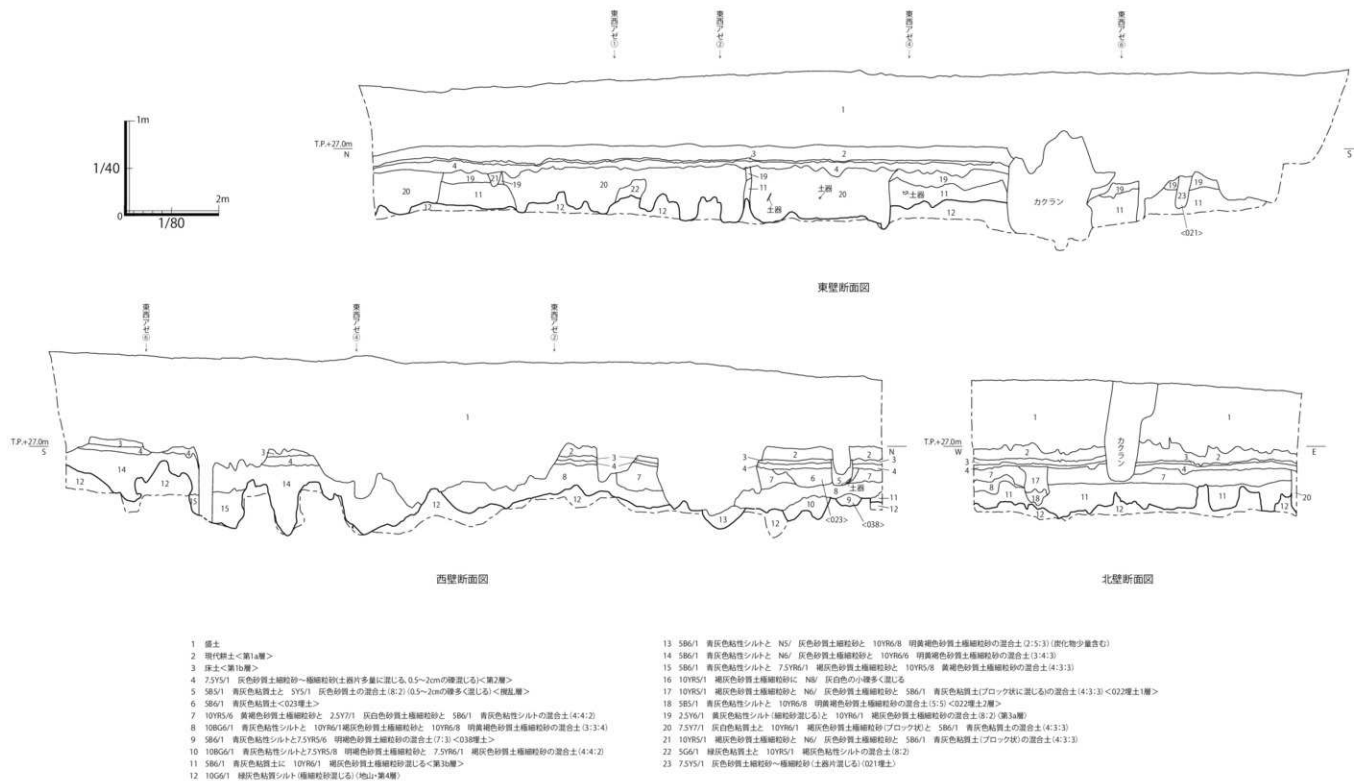


図7 R4・1区土層断面図

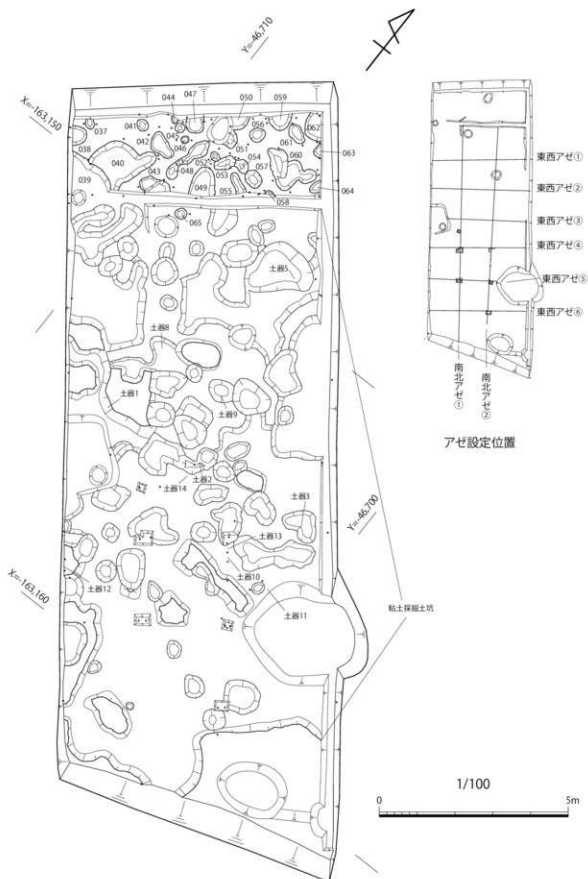


図8 R4・1区第2面(第4層上面)平面図

第3章 令和4年度の調査成果

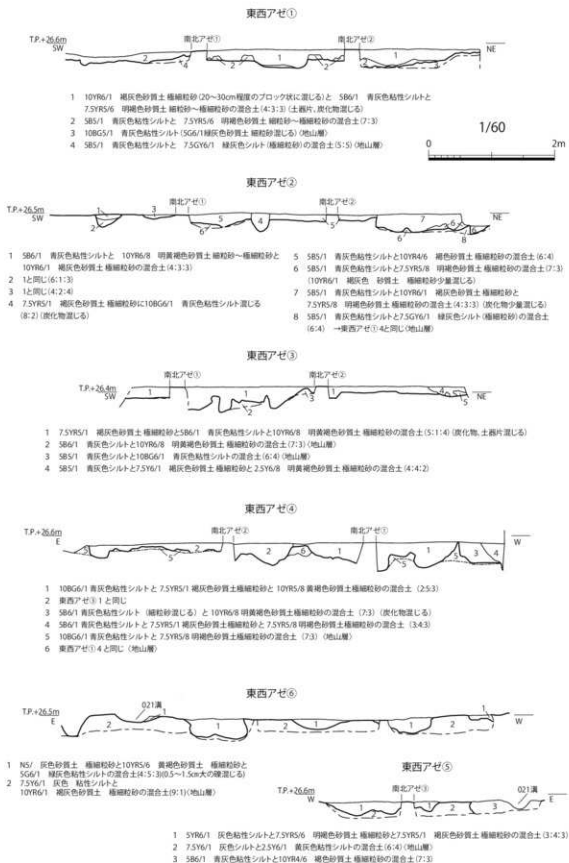


図9 R4・1区粘土採掘土坑アゼ断面図①

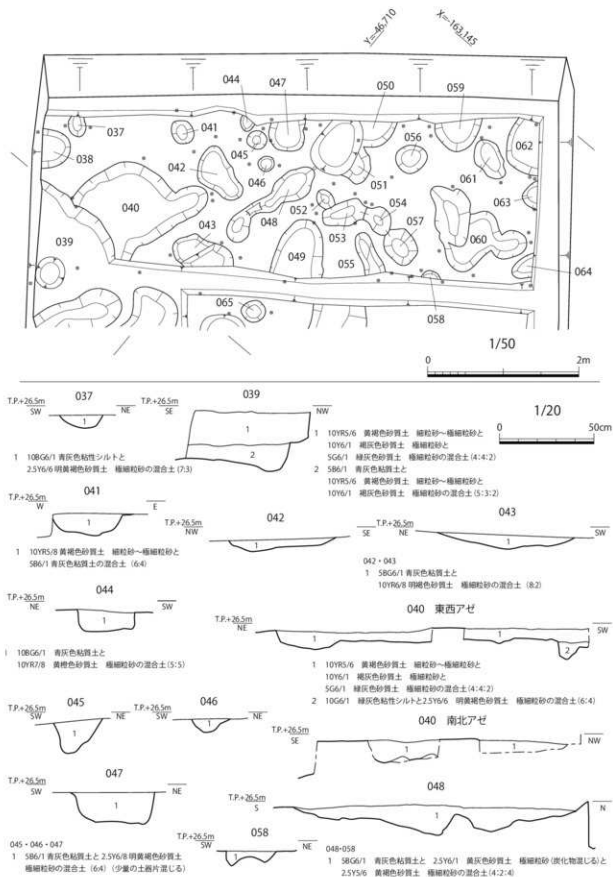


図 11 R4・1 区第2面北側拡大図、遺構断面図①

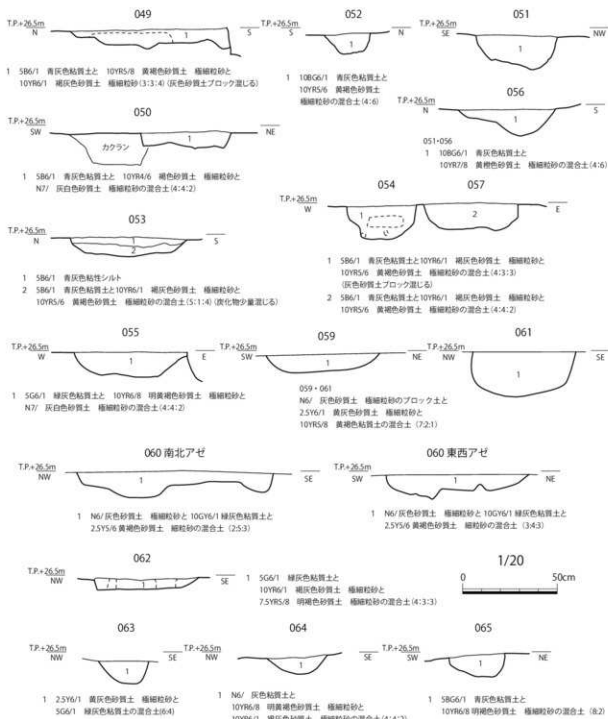


図 12 R4・1区第2面遺構断面図②

部に縦方向のハケメを施す。13も12と同様である。頸部に接合痕が認められる。14は内外面ナデ調整、口縁端部は丸みを持つ。15は内外面ナデ調整、全体的に摩滅している。16は内外面ナデ調整、口縁部は分厚く、内面頸部から肥厚する。17の調整も16と同様である。色調は他の土師器甕に比べ赤味を帯びる。18は外面ユビオサエナデ、内面ナデ調整。口縁部は薄く丸みを持つ。色調は他の甕に比べて褐色味がなく浅黄色である。19は外面ユビオサエナデ、内面の調整は不明瞭である。いずれも奈良時代後半から平安時代に位置付けられるであろう。粘土採掘土坑で出土した土師器甕は、口縁径が体部最大径より小さいものが大半である。また摩滅や器壁の剝離によって外面のハケメが不明瞭なものが多い。

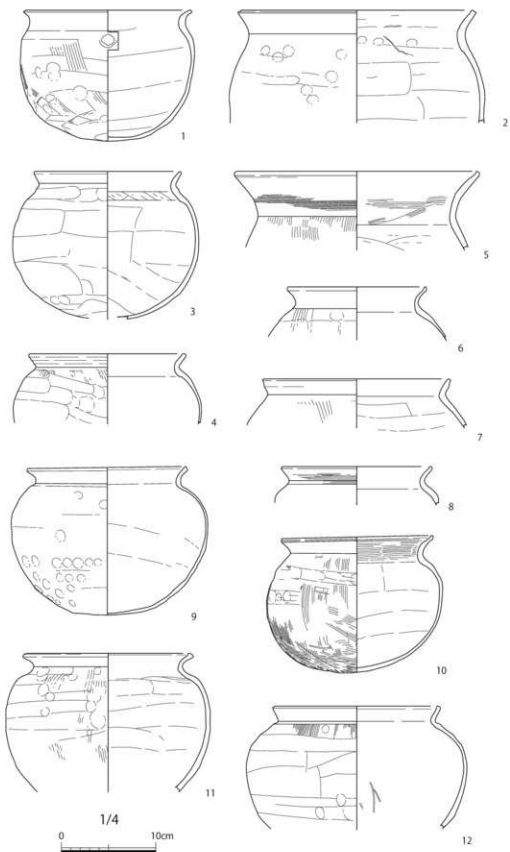


図13 R4・1区第2面出土遺物①

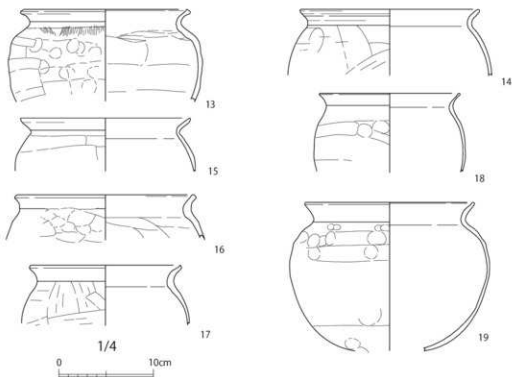


図14 R4・1区第2面出土遺物②

第3項 中世（第1面・第3a層上面）の遺構と遺物

検出した遺構

溝 021 東西方向に延びる溝で、長さ 7.0m、幅 0.35m、深さ約 0.25m を測る。一部攪乱で削平されているが、調査区外へと続く。埋土は第2層と地山由来の粘質土の混合土で、炭化物が混じる。遺物は丸瓦（21）やその他に瓦質土器片・瓦器小片・土師器小片が出土した。

土坑 022 調査区の北端で検出し、北壁にかかっている。横 0.6m、深さ 0.4m を測り、埋土は2層ある。遺物は黒色土器 B 類小片、瓦器小片が出土した。

土坑 023 調査区の北西端で検出し、西壁にかかっている。縦 1.3m、横 0.5m、深さ 0.2m を測る。遺物は土師器小片が2点出土した。

土坑 024 縦 0.6m、横 0.75m、深さ 0.35m を測る。埋土は第2層と地山由来の粘質土の混合土で、炭化物が混じる。遺物は瓦器碗（22）や須恵器、土師器、黒色土器、瓦器片、瓦片、石製品（23）が出土した。

土坑 025 縦横 0.5m、深さ 0.15-0.2m を測り、南西側が深くなる。埋土は第2層と地山由来の粘質土の混合土で、遺物は土師器の高台部、瓦器小片が出土した。

土坑 026 縦 0.4m、横 0.6m、深さ 0.45m を測る。上層が攪乱で一部削平されているが、埋土は2層あり、上層は第2層と地山由来の粘質土の混合土である。遺物は瓦器碗（24）、土師器小片が出土した。

土坑 027 縦 0.4m、横 0.55m、深さ 0.1m を測る。埋土は炭化物を含む粘質土で、上面に羽釜（25）が割れた状態で出土した。他にも黒色土器 A 類が出土した。

ビット 028 縦 0.2m、横 0.25m、深さ 0.1m を測る。遺物は黒色土器 B 類、瓦器小片が出土した。

土坑 029 縦 0.3m、横 0.5m、深さ 0.2m を測る。埋土は第2層と地山由来の粘質土の混合土で、炭化物が混じる。遺物は土師器、瓦器小片が出土した。

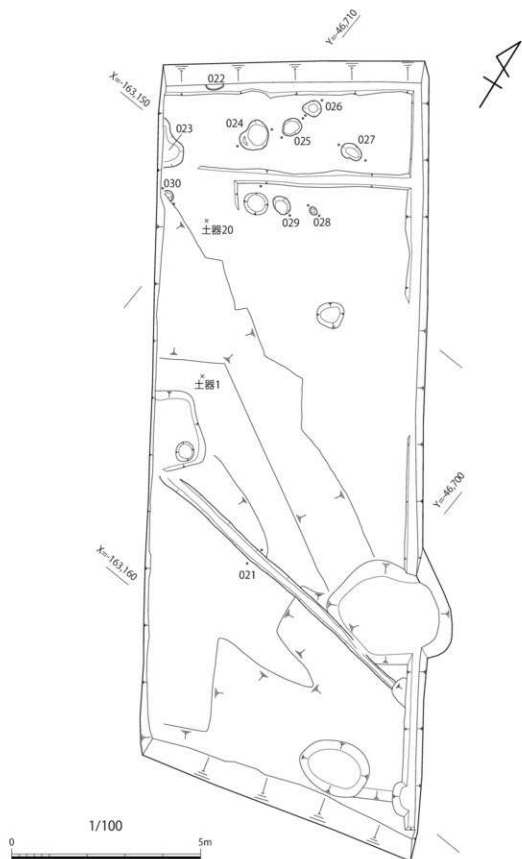


図15 R4・1区第1面平面図

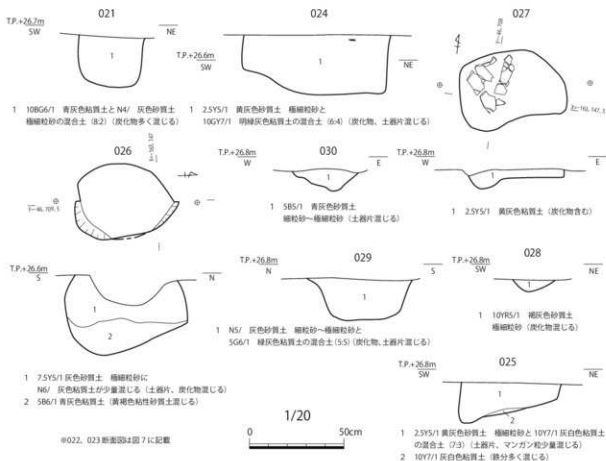


図16 R4・1区第1面遺構断面図

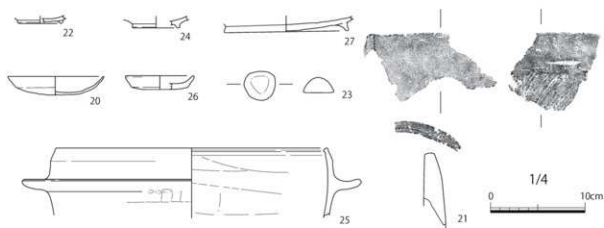


図17 R4・1区第1面・包含層出土遺物

ピット 030 縦 0.2m、横 0.35m、深さ 0.2m を測る。遺構の南半は掘乱で削平されている。遺物は土師器、黒色土器 B 類が出土した。

出土遺物

溝 021 21 は丸瓦である。凹面には布目圧痕を有する。

土坑 024 22 は瓦器碗高台部である。内面は摩滅しているため不明瞭であるが、13 世紀前葉 (和泉型Ⅲ—3 期) の所産であろう。23 は用途不明の石製品である。平らになった面があり、磨石として使

用した可能性がある。

土坑026 24は瓦器碗高台部である。高台端部はやや外反する。22と同様に13世紀前葉(Ⅲ-3期)の所産であろう。

土坑027 25は土師器羽釜である。内面と外面の鈎下からススが付着する。

包含層出土遺物

第3a層 20は土師器小皿である。3a層の精査時に出土したが、第2面で検出した粘土採掘土坑の上層にあったものと考えられる。8～9世紀の所産であろう。26は瓦器小皿である。内外面ナデ調整で、口縁部へ向かってくの字に立ち上がる。14世紀末以降の所産と考えられる。27は土師器の高台部である。内面に黒斑がみられる。

第3節 2区の調査成果

第1項 層序

本調査区の層序は、宅地造成土(第0層)、現代耕作土(第1a層)と床土層(第1b層)、中世耕作土が4層あり、出土遺物から16世紀までの褐灰色砂質土層(第2a層)と床土層の黄灰色粘質シルト層(第2b層)、14～15世紀の黄灰色シルト層(第2c層)、12～13世紀の暗褐色～褐灰色粘質シルト層(第2d層)、粘質土層(第4層)である。地山層は南側に青灰色粘質土と北側に小礫混じりの粘質土が堆積する。地山標高はT.P.+26.7～26.9mである。

遺構面は2面あり、第2c層上面で13～14世紀頃の遺構を検出し、次に第2d層を外した粘質土層(第4層)上面で中世と考えられる遺構を検出した。遺構の種類は粘土採掘土坑、土坑、ピットがある。

第2項 中世(第2面・第4層上面)の遺構と遺物

検出した遺構と遺物

土坑032 縦0.8m、横0.7m、深さ0.05mを測る不定形土坑である。埋土は1層で、地山のシルト層と耕作土と考えられるシルト層を含む。遺物は出土しなかった。

土坑034 調査区の西側で検出した。縦1.0m、横0.8m、深さ0.05～0.1mの不定形土坑である。埋土は032と同様である。遺物は出土しなかった。

ピット035 縦0.4m、横0.3m、深さ0.05mを測る。埋土は032と同様である。遺物は出土しなかった。

土坑036 縦1.5m、横1.2m、深さ0.05mを測る不定形土坑である。埋土は032と同様である。遺物は土師器片が出土した。

第3項 中世(第1面・第2c層上面)の遺構と遺物

検出した遺構

粘土採掘土坑001 調査区北半中央から東側で検出し、東壁にかかっている。縦5.0m、横3.0m、深さ0.6mを測る不定形土坑である。南北アゼ1か所、東西アゼ2か所を設定した。埋土は3層あり、いずれも地山由来の粘質土と第2c層、第2d層の混合土である。水成堆積層はみられず、また東西アゼの観察から埋土は東側から西側へ傾斜しているため、土坑掘削後時間を置かず東側から埋め戻されたと考えられる。遺物は瓦器碗(32・33)、土師器皿、須恵器、黒色土器、瓦質土器が出土した。

粘土採掘土坑002 縦横1.0m、深さ0.2-0.35mを測る円形土坑である。北東側が深くなる。埋土は1層で、001と同様に地山由来の粘質土と第2c層、第2d層の混合土である。水成堆積層はみられない。

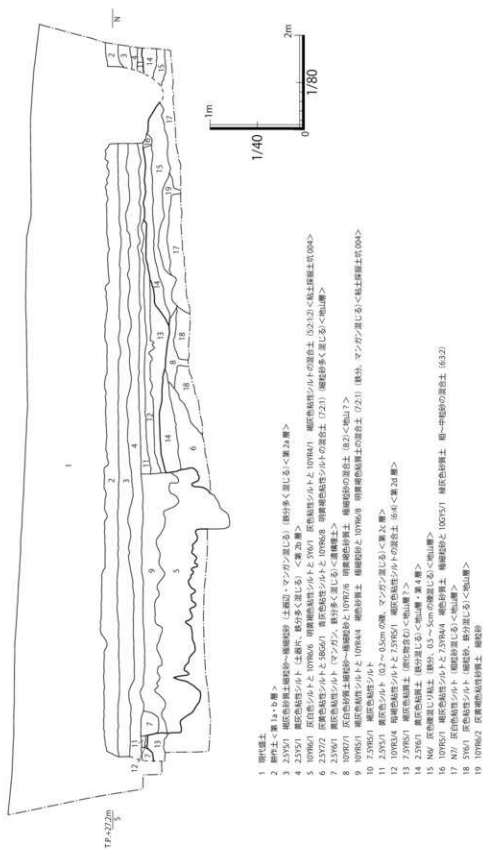


図18 R4・2区西壁断面図

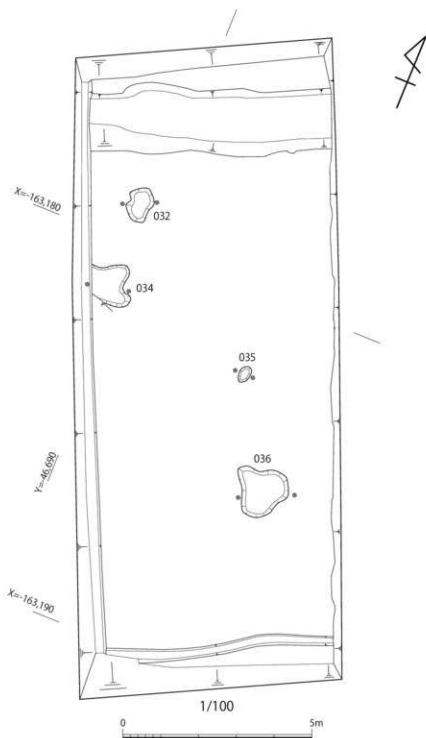


図19 R4・2区第2面平面図

遺物は土器小片のみ出土した。

ビット003 縦横0.25m、深さ0.15mを測る。遺物は土器小片のみ出土した。

粘土探掘土坑004 調査区の南半西側で検出し、西壁にかかっている。縦7.5m、横3.0m、深さ0.2~0.6mを測る不定形土坑である。東西アゼ6か所、南端に南北アゼ1か所を設定した。埋土は概ね1層で、001と同様に地山由来の粘質土と第2c層、第2d層の混合土である。水成堆積層はみられない。遺物は瓦器碗（28・34）、黑色土器（35）高台部が出土した。

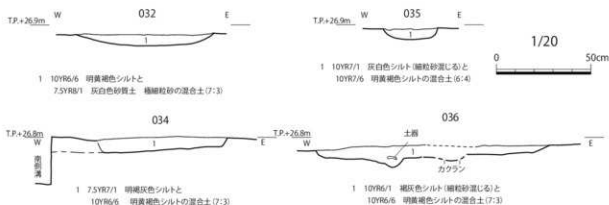


図20 R4・2区第2面遺構断面図

ビット005 縦横0.5m、深さ0.2mを測る。埋土は003と同様である。遺物は出土しなかった。

ビット006 縦横0.3m、深さ0.25mを測る。埋土は2層あり、粘質土と第2d層の混合土である。遺物は土器小片のみ出土した。

土坑007 縦3.0m、横1.5m、深さ0.25mを測る不定形土坑である。埋土は2層あり、上層に第2d層が含まれる。遺物は瓦器碗高台部(36)や瓦質土器が出土した。

土坑008 調査区南半東側で検出し、東側にかかっている。縦2.0m、横1.0m、深さ0.3mを測る不定形土坑である。埋土は第2d層ブロックが少量混じる。遺物は土器小片のみ出土した。

粘土探掘土坑009 調査区南東隅で検出し、東壁にかかっている。縦1.5m、横1.0m、深さ0.2~0.6mを測る不定形土坑である。埋土は2層あり、001と同様に地山由来の粘質土と第2c層、第2d層の混合土である。遺物は瓦質土器鉢鉢(29・37)が出土した。

粘土探掘土坑010 調査区南東隅で検出し、東壁にかかっている。縦1.0m、横0.5m、深さ0.3~0.45mを測る円形土坑である。埋土は2層あり、001と同様に地山由来の粘質土と第2c層、第2d層の混合土である。遺物は土器小片のみ出土した。

粘土探掘土坑011 調査区の南東隅で検出した。縦0.7m、横0.5m、深さ0.5mを測る不定形土坑である。埋土は1層で、001と同様に地山由来の粘質土と第2c層、第2d層の混合土である。水成堆積層はみられない。遺物は瓦器碗口縁部が出土した。

粘土探掘土坑012 調査区南側で検出した。縦横1.0m、深さ0.2mを測る不定形土坑である。埋土は1層で、001と同様に地山由来の粘質土と第2c層、第2d層の混合土である。水成堆積層はみられない。遺物は瓦器碗(30)が出土した。

粘土探掘土坑013 調査区南端で検出し、西壁にかかっている。縦1.8m、横4.0m、深さ0.3~0.5mを測る不定形土坑である。南北アゼ3か所を設定した。埋土は3層あり、いずれも001と同様に地山由来の粘質土と第2c層、第2d層の混合土である。水成堆積層はみられない。遺物は瓦器(38)が出土した。

土坑014 調査区南端で検出した。縦横0.3m、深さ0.2mを測る円形土坑である。埋土は第2d層ブロックが少量混じる。遺物は出土しなかった。

粘土探掘土坑015 調査区東側中央で検出し、東壁にかかっている。縦1.8m、横1.0m、深さ0.5mを測る不定形土坑である。埋土は2層あり、001と同様に地山由来の粘質土と第2c層、第2d層の混合土である。水成堆積層はみられない。遺物は土器小片のみ出土した。

粘土探掘土坑016 調査区東側中央で検出し、東壁にかかっている。縦2.5m、横1.5m、深さ0.3m

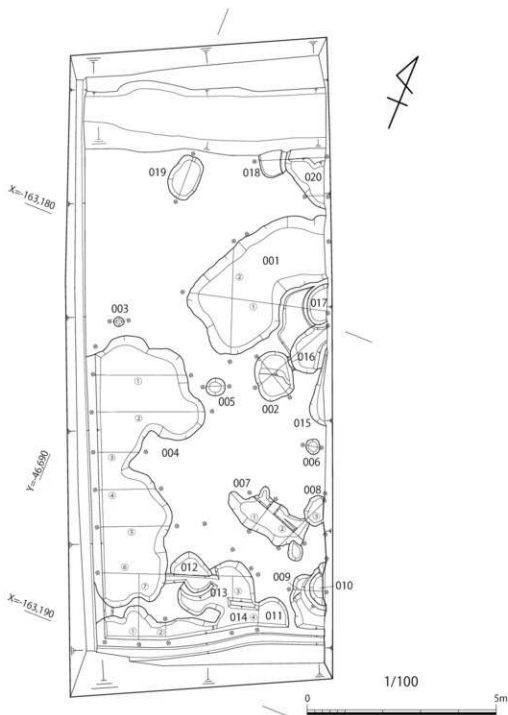


図21 R4・2区第1面平面図

を測る不定形土坑である。埋土は2層あり、001と同様に地山由来の粘質土と第2c層、第2d層の混合土である。遺物は土師器皿(39)や瓦器が出土した。

粘土探掘土坑017 調査区東側中央で検出し、東壁にかかっている。縦0.7m、横0.6m、深さ0.25mを測る円形土坑である。埋土は1層で、001と同様に地山由来の粘質土と第2c層、第2d層の混合土である。遺物は完形の瓦器椀(31)が埋土中間に置かれた状態で出土した。

土坑019 調査区北半中央で検出した。縦0.5m、横1.0m、深さ0.25mを測る円形土坑である。埋土は1層、遺物は瓦(40)が出土した。

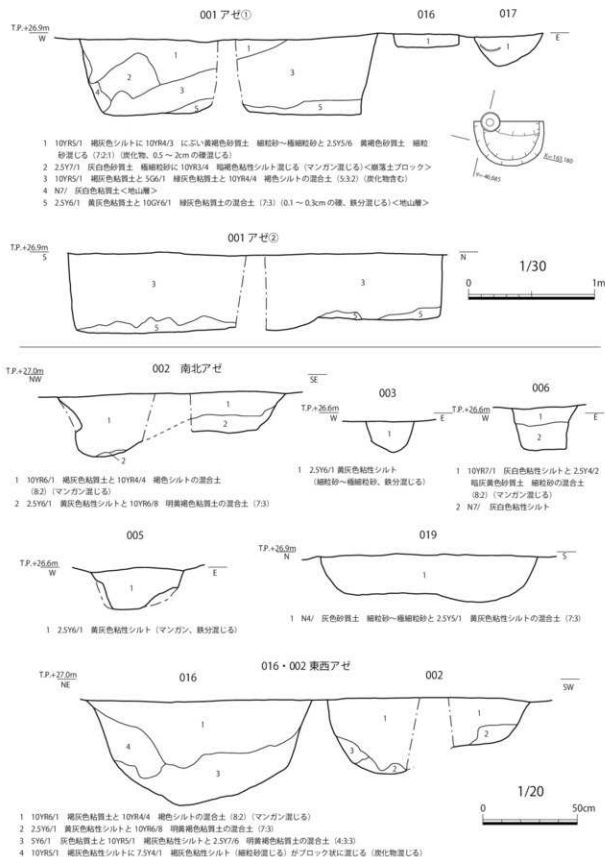


図 22 R4・2区第1面遺構断面図①

第3章 令和4年度の調査成果

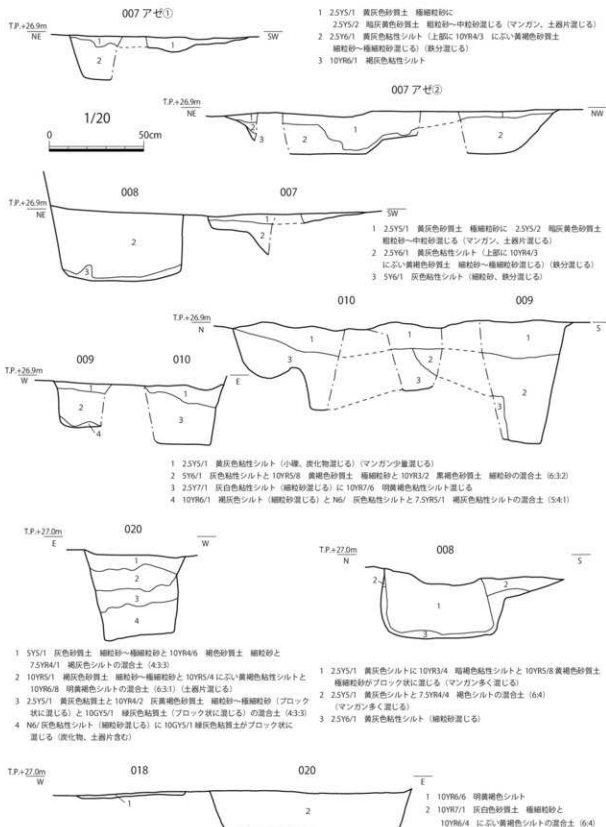


図 23 R4・2区第1面遺構断面図②

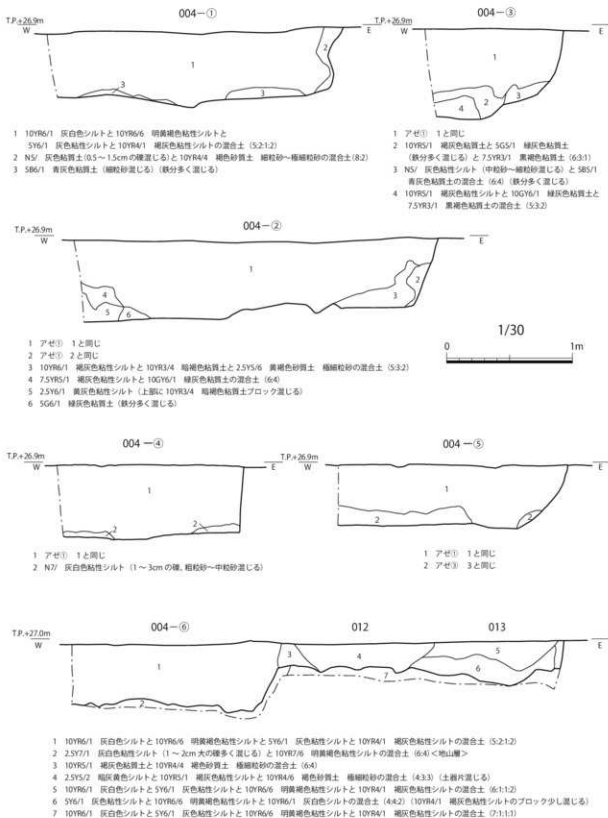


図 24 R4・2区第1面遺構断面図③

粘土採掘土坑 020 調査区北東隅で検出し、東壁にかかっている。縦 1.5m、横 1.0m、深さ 0.2~0.4m を測る不定形土坑である。埋土は 4 層あり、001 と同様に地山由来の粘質土と第 2c 層、第 2d 層の混

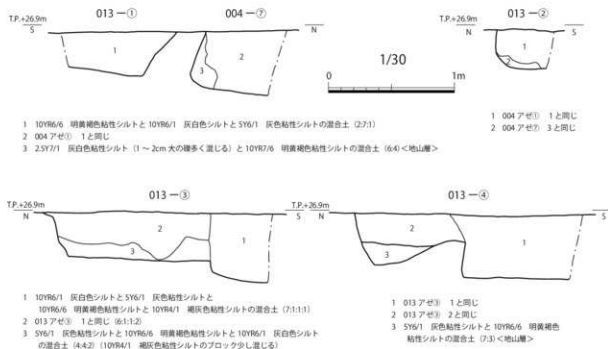


図 25 R4・2区第1面遺構断面図④

合土である。遺物は土器小片のみ出土した。

出土遺物

粘土探掘土坑 001 32 は瓦器碗口縁部である。内外面にミガキを施す。33 は瓦器碗高台部である。内面にミガキを施す。12 世紀後葉（和泉型Ⅲ-2 期）の所産であろう。

粘土探掘土坑 004 28 は瓦器碗である。外面はユビオサエ後ナデ調整、内面は摩滅しているため不明瞭である。13 世紀前葉（Ⅲ-3 期）の所産であろう。34 は瓦器碗口縁部である。内面にミガキ、外面にユビオサエナデ調整を施す。口縁はやや外反する。35 は黒色土器 A 類高台部である。内面は不明瞭、外面にナデ調整を施す。10 世紀頃の所産であろう。

土坑 007 36 は焼成不良の瓦器碗高台部と考えられる。内外面ナデ調整、高台部はやや外反する。12 世紀後葉（Ⅲ-1 期）と考えられる。

粘土探掘土坑 009 29 は瓦質土器搥鉢の口縁部である。内面に搥目があり、一部にハケメがみられる。外面はケズリ調整を施す。14 世紀末～15 世紀初めの所産であろう。37 も瓦質土器搥鉢の口縁部である。内面に搥目、外面にハケメとケズリ調整を施す。15 世紀の所産であろう。

粘土探掘土坑 012 30 は瓦器碗である。内面にミガキ、外面にユビオサエ後ナデ調整を施す。13 世紀前葉（Ⅲ-3 期）の所産であろう。

粘土探掘土坑 013 38 は瓦器碗口縁部である。内面にミガキ、外面にナデ調整を施す。12 世紀の所産であろう。

粘土探掘土坑 016 39 は土師器小皿である。内外面ナデ調整を施す。

粘土探掘土坑 017 31 は瓦器碗である。内面ナデ調整、外面にユビオサエナデ調整を施す。底部が著しく歪んでいる。13 世紀中葉から後葉（Ⅳ-1 ～ 2 期）の所産であろう。

土坑 019 40 は瓦である。両面に布目圧痕が残る。

包含層出土遺物

第 2 層 41 は青磁碗の口縁部である。施釉され、外面に蓮華文様を施す。42 は瓦質土器羽釜の口

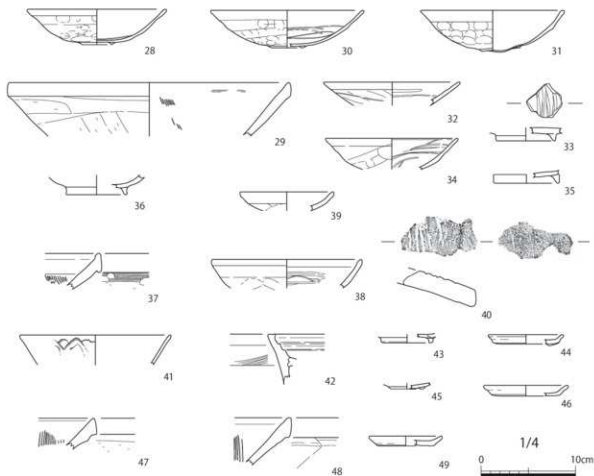


図 26 R4・2区出土遺物

縁部である。内面にハケメ、外面にナデ調整を施す。15世紀前半の所産であろう。43は瓦器碗高台部である。内面は調整不明瞭、外面はナデ調整を施す。12世紀後葉(Ⅲ—2期)頃の所産であろう。44は瓦器小皿である。内外面ナデ調整を施し、外面底部に付着物がある。45は瓦器碗高台部である。内面は調整不明瞭、外面にナデ調整を施す。13世紀中葉(Ⅳ—1期)の所産であろう。46は瓦器小皿である。内外面ナデ調整を施す。47は瓦質土器搦鉢の口縁部である。内面に掻目、外面にケズリ調整を施す。15世紀前半の所産であろう。48も瓦質土器搦鉢の口縁部である。内面に掻目、外面にケズリ調整を施す。47と同様の時期であろう。

第2a層 49は土師器小皿である。内外面ナデ調整、底部は分厚い。外面に黄褐色の付着物がある。

第4節 3区の調査成果

第1項 層序

調査区の南と北で層序が異なっている。南側では現代耕作土の直下で地山と思しき灰白色シルト層を確認した(図27土色4)。この上面で中世の粘土採掘土坑を検出している。一方で南から15.6m付近より地山層は下がり始め、南側で上面がT.P.+27.6m付近だった地山層が北側ではT.P.+26.9m付近まで低くなる。この地山層の下がりに起因して、北側では地山層である灰白色シルト層上面(図27土色18)と、第Ⅱ層と呼称している灰色粘性砂質土層及び灰白色シルト層上面(図27土色11・20)の2面で遺構を検出している。灰色粘性砂質土層の性格は耕作土と考えられる。

第2項 地山層上面の遺構と遺物

検出した遺構

検出した遺構はピット、粘土採掘土坑、土坑である。ピットは円形、土坑は楕円形が多い。粘土採掘土坑は不定形になっている。

粘土採掘土坑 135 粘土採掘土坑の集合である。検出時点で遺構の輪郭はほぼ見いだせなかった。遺構の底には複数の土坑状の窪みが確認できることから、複数の粘土採掘土坑が掘削されていると考えられる。設定した土層断面観察用のアゼに切り合いは見いだせないため、埋め戻しは一括して行っている可能性が高い。遺物は瓦器碗（50～56）、土師器の碗、平瓦（57）が出土している。瓦器碗の特徴から時期は13世紀中葉に属すると判断する。

土坑 131 幅 2.5m、深さ 0.5～0.6m を測る。不定形であり、粘土採掘土坑の可能性がある。遺物は瓦器碗（58・59）、瓦質土器片口鉢（60）が出土している。瓦器碗の特徴から時期は13世紀中葉（Ⅳ―Ⅰ期）に属すると考えられる。

粘土採掘土坑 129 粘土採掘土坑の集合である。検出時点で遺構の輪郭はほぼ見いだせなかった。遺構の特徴は135と同じである。遺物は瓦器碗（60～65）、土師器の皿（66）、鉢（67）が出土している。瓦器碗の特徴から時期は13世紀後葉に属すると判断する。

土坑 127 複数の遺構が切り合い、不定形となっている。深さは0.34m～0.44m を測る。粘土採掘土坑の可能性がある。遺物は瓦器碗（68）が出土している。瓦器碗の特徴から時期は13世紀中葉に属すると考えられる。

粘土採掘土坑 123 長さ 1.3m、幅 1.3m、深さ 0.78m を測る。埋土は地山由来の土がブロック状に混じった土である。遺物は瓦器碗（69・70）、平瓦（71・72）、土師器の片口鉢（73）が出土している。瓦器碗の特徴から時期は13世紀中葉に属すると考えられる。

土坑 122 幅 0.7m、深さ 0.38m を測る。遺物は瓦器碗（74・75）が出土している。瓦器碗の特徴から時期は13世紀中葉に属すると考えられる。

粘土採掘土坑 120 長さ 0.7m、幅 0.6m、深さ 0.36m を測る。埋土は地山由来の土がブロック状に混じった土である。遺物は瓦器碗（76）が出土している。瓦器碗の特徴から時期は13世紀中葉に属すると考えられる。

粘土採掘土坑 119 複数の粘土採掘土坑が掘削されていると考えられる。設定した土層断面観察用のアゼに切り合いは見いだせないため、埋め戻しは一度に行っている可能性が高い。遺物は瓦器碗（77～79）が出土している。瓦器碗の特徴から時期は13世紀後葉に属すると考えられる。

粘土採掘土坑 103 深さ 0.21m を測る。他の遺構に削平されており全形は不明である。埋土は地山由来の土がブロック状に混じった土である。遺物は瓦器碗（80）が出土している。瓦器碗の特徴から時期は13世紀中葉に属すると考えられる。

粘土採掘土坑 101 幅 1.2m、深さ 0.21m を測る。長さは他の遺構に削平されており不明である。埋土は地山由来の土がブロック状に混じった土である。遺物は瓦質土器小皿（81）、瓦器碗（82～84）が出土している。瓦器碗の特徴から時期は13世紀後葉に属すると考えられる。

土坑 098 幅 0.5m、深さ 0.3m を測る。土坑 094 を削平して掘りこまれている。埋土は1層（図 27 土色 8）とほぼ同じである。遺物は瓦質土器羽釜（85）が出土している。羽釜の特徴から時期は14世紀後葉に属すると考えられる。

粘土採掘土坑 096 長さ 4.0m 以上、幅 3.0m、深さ 0.74m を測る。遺構の底には複数の土坑状の窪

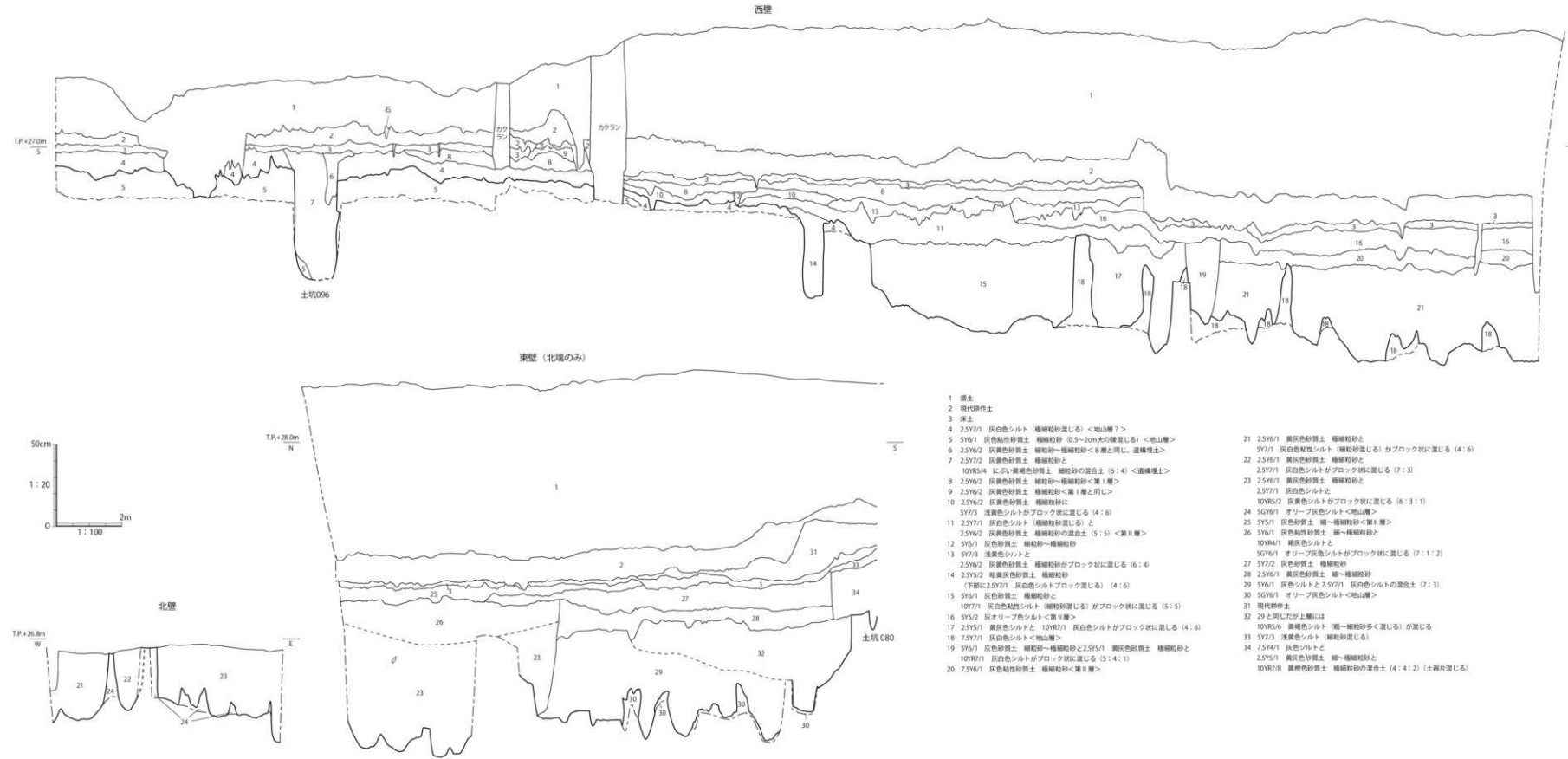


図27 R4・3区断面図

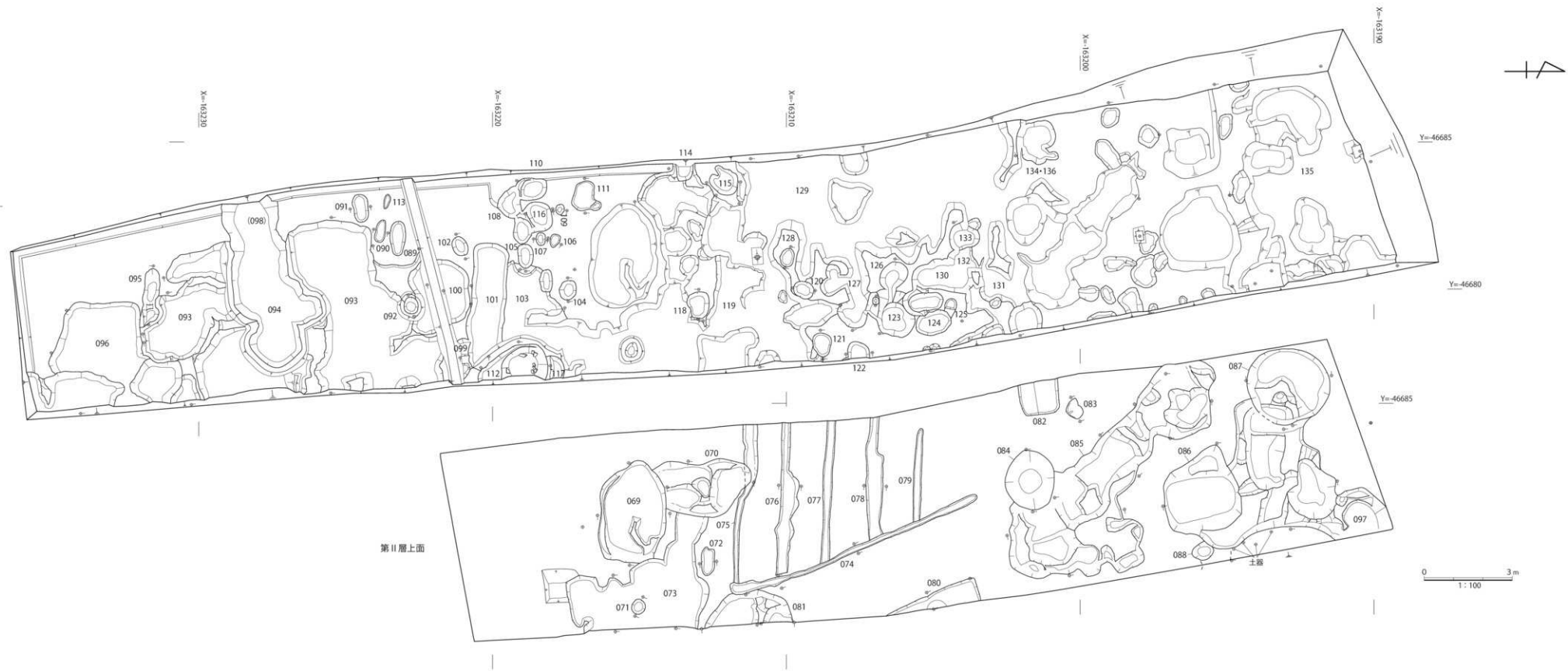


図28 R4・3区遺構平面図

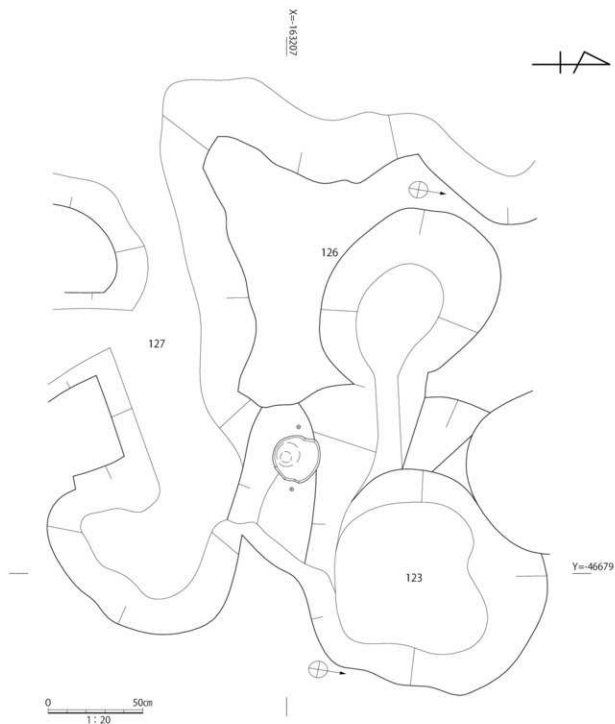


図29 R4・3区地山層上面遺構 123 平面図

みが確認できることから、複数の粘土採掘土坑が掘削されていると考えられる。埋土は地山由来の土がブロック状に混じった土である。遺物は平瓦（86）が出土している。

土坑 093 不定形の遺構である。埋土は地山由来の土がブロック状に混じった土で、粘土採掘土坑と考えられる。深さは0.52mを測る。設定した土層断面観察用のアゼに切り合いは見いだせないため、埋め戻しは一度に行っている可能性が高い。遺物は瓦器碗（87）、土師器羽釜（88）が出土している。瓦器碗の特徴から時期は13世紀中葉に属すると考えられる。

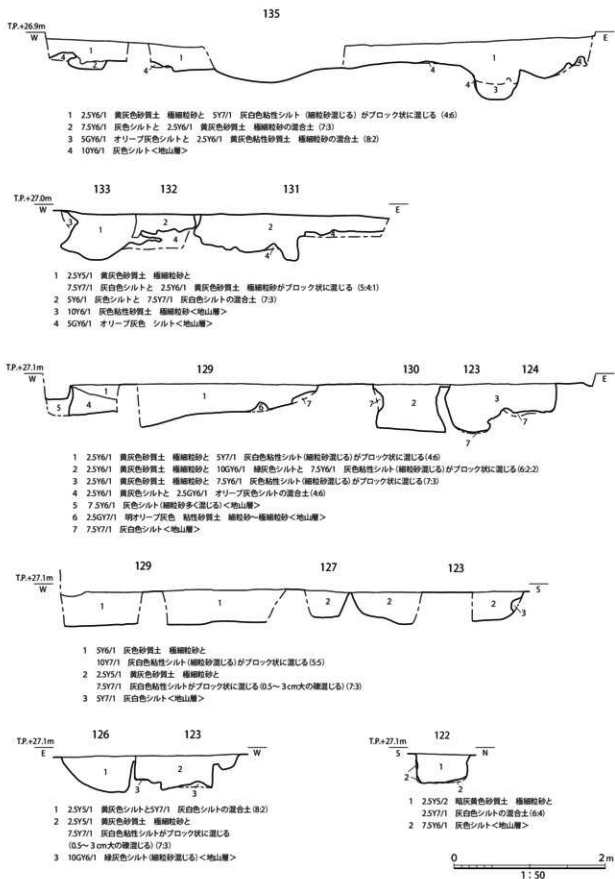


図30 R4-3区地山層上面遺構断面図①

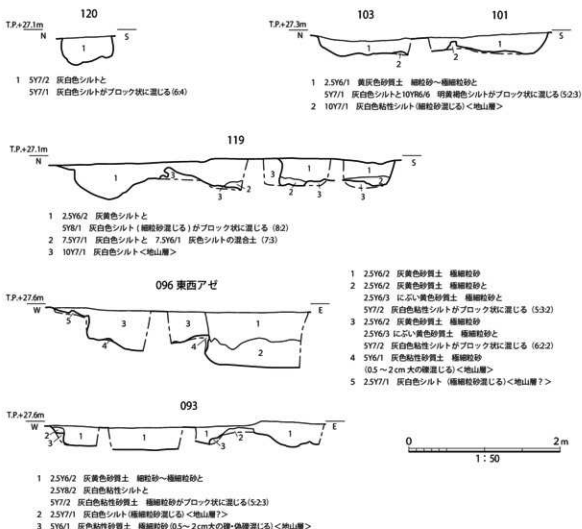


図3 R4・3区地山層上面構成断面図②

出土遺物

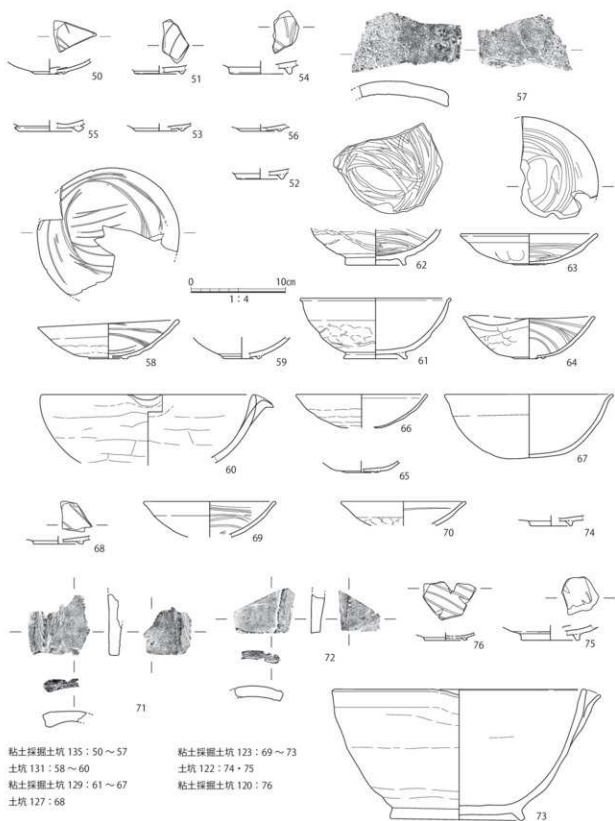
粘土採掘土坑 135 50・51・52・53・54・55・56 は瓦器碗の高台部である。50・51・54 は見込みにミガキを施す。13 世紀中葉 (Ⅳ-1 期) か。57 は平瓦である。凹面に布目が残る。

土坑 131 58 は瓦器碗である。内面および見込みにミガキを施す。全体的に器形がゆがんでいる。13 世紀中葉 (Ⅳ-1 期) か。59 は瓦器碗の高台部である。60 は瓦質土器片口鉢である。内外面ともナデ調整を施している。外面は粘土組接合痕が残る。

粘土採掘土坑 129 61 は瓦器碗である。外面調整はユビナデおよびユビオサエの後にミガキを施す。12 世紀後葉 (Ⅲ-2 期) か。62 は瓦器碗である。内面および見込みにミガキを施す。12 世紀後葉 (Ⅲ-2 期) か。63 は瓦器碗である。口縁部がゆがんでいる。見込みにミガキを施す。13 世紀後葉 (Ⅳ-2 期) の特徴を持つ。64 は瓦器碗である。内面に疎なミガキを施す。13 世紀前葉 (Ⅲ-3 期) か。65 は瓦器碗の高台部である。13 世紀後葉 (Ⅳ-2 期) か。66 は土師器の皿である。瓦器碗の可能性もある。13 世紀後葉 (Ⅳ-2 期) か。67 は土師器の鉢である。口縁部を外反させている。

土坑 127 68 は瓦器碗の高台部である。見込みにミガキを施す。13 世紀中葉 (Ⅳ-1 期) か。

粘土採掘土坑 123 69・70 は瓦器碗である。どちらも内面にミガキを施す。13 世紀中葉 (Ⅳ-1 期) か。71・72 は平瓦である。71 は凹面に布目が残る。73 は土師器の片口鉢である。底部に高台がつく。



内外面とも赤変もしくは黒変しており、激しく摩耗している。

土坑 122 74・75 は瓦器碗の高台部である。75 は見込みにミガキを施す。13 世紀中葉(Ⅳ—1 期)か。

粘土探掘土坑 120 76 は瓦器碗の高台部である。見込みにミガキを施す。13 世紀中葉(Ⅳ—1 期)か。

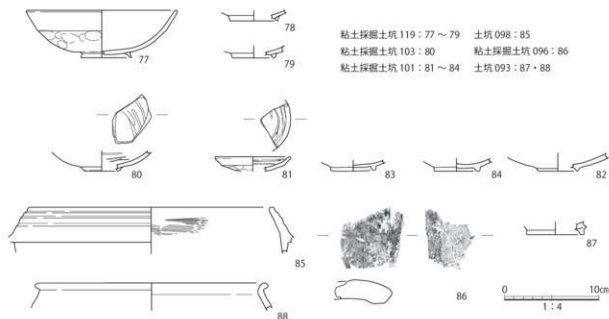


図 33 R4・3区出土遺物②

粘土探掘土坑 119 77 は瓦器碗である。12 世紀後葉(Ⅲ—1 期)か。78・79 は瓦器碗の高台部である。13 世紀後葉(Ⅳ—2 期)か。

粘土探掘土坑 103 80 は瓦器碗の高台部である。見込みにミガキを施す。13 世紀中葉(Ⅳ—1 期)か。

粘土探掘土坑 101 81 は瓦質土器小皿である。内面は強いヨコナデののちミガキを施す。器形から 13 世紀のものと考えられる。82 は瓦器碗の高台部である。13 世紀後葉(Ⅳ—2 期)か。83・84 は瓦器碗の高台部である。13 世紀中葉(Ⅳ—1 期)か。

土坑 098 85 は瓦質土器羽釜である。口縁部は内傾している。14 世紀後葉か。

粘土探掘土坑 096 86 は平瓦である。内面に布目が残る。

土坑 093 87 は瓦器碗の高台部である。13 世紀中葉(Ⅳ—1 期)か。88 は土師器の羽釜の口縁部である。口縁端部を屈曲させて、玉縁状にしている。

第3項 第Ⅱ層上面の遺構と遺物

検出した遺構

粘土探掘土坑 097 深さ 0.94m を測る。全形は調査区外に続くため不明である。複数の粘土探掘土坑が掘削されていると考えられる。埋土は地山由来の土がブロック状に混じった土である。遺物は瓦質土器羽釜(89)、瓦質土器片口鉢鉢(90)が出土している。鉢鉢の特徴から時期は 14 世紀後葉に属すると判断する。

粘土探掘土坑 087 長さ 2.7m、幅 2.5m 以上、深さ 1.1m を測る、円形の土坑である。埋土は地山由来の土がブロック状に混じった土である。遺物は瓦器碗(91・92)が出土している。

粘土探掘土坑 086 長さ 5.8m、幅 4.5m、深さ 1.1m を測る、不定形の土坑である。埋土は地山由来の土がブロック状に混じった土であるが、一部は褐灰色シルトとにぶい黄色砂質土の混合土がブロック土の上に堆積している。深く掘りこんでいる箇所もあることから複数の粘土探掘土坑が掘削されていると考えられる。遺物は瓦器碗(93~95)、土師器の羽釜(96~98)、瓦質土器片口鉢(100)、平瓦(99)が出土している。羽釜の特徴から時期は 15 世紀前葉に属すると判断する。

粘土探掘土坑 085 長さ 9.6m、幅約 4.6m、深さ 0.96m を測る。複数の粘土探掘土坑が掘削されており、

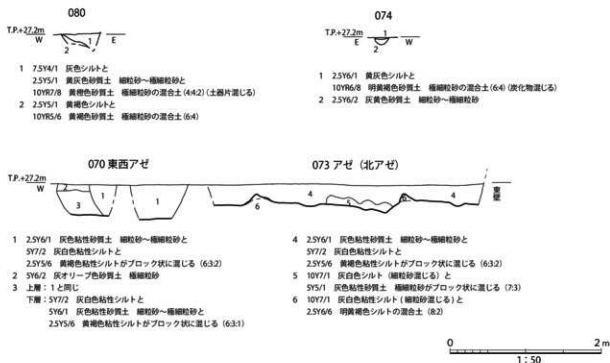


図34 R4・3区第II層上面遺構断面図①

不定形になっている。埋土は地山由来の土がブロック状に混じった土である。一部で土坑の断面形状がフラスコ形になっている。遺物は陶器 (107)、瓦器碗 (101・102)、瓦質土器羽釜 (103～105)、土師器播鉢 (106) が出土している。羽釜の特徴から時期は15世紀前葉に属すると判断する。

土坑 083 長さ0.7m、幅0.5m、深さ0.25mを測る、隅丸方形に近い土坑である。遺物は瓦器碗 (108) が出土している。

粘土探掘土坑 081 長さ3.0m、幅0.7m以上、深さ1.2m以上を測る。全形は調査区外に続くため不明である。埋土は地山由来の土がブロック状に混じった土である。遺物は瓦質土器羽釜 (109)、播鉢 (110) が出土している。

土坑 080 長さ3.2m以上、幅0.58m以上、深さ0.23m以上を測る。全形は調査区外に続くため不明である。遺物は瓦器碗 (111) が出土している。

溝 074から079 耕作溝である。溝074は長さ9.0m、幅0.2m、深さ0.1mを測る。遺物は瓦器碗 (112) が出土している。

粘土探掘土坑 073 長さ4.8m、深さ3.9m以上、深さ0.38mを測る、不定形の土坑である。複数の粘土探掘土坑が掘削されていると考えられる。埋土は地山由来の土がブロック状に混じった土である。遺物は瓦器碗 (113～115) が出土している。

出土遺物

粘土探掘土坑 097 89は瓦質土器羽釜である。外面調整はケズリ、内面調整はユビナデ、口縁部内面はハケメを施す。14世紀前葉か。90は瓦質土器播鉢である。外面調整はケズリ、内面調整はハケメを施す。内面はハケ調整の後、播目を刻む。14世紀後葉。

粘土探掘土坑 087 91は瓦器碗である。口径がやや小さいため、皿の可能性もある。調整は内外面ともナデを施す。92は瓦器碗の高台部である。見込みにミガキを施す。13世紀前葉 (Ⅲ—3期) か。

粘土探掘土坑 086 93は瓦器碗である。13世紀後葉 (Ⅳ—2期) か。94・95は瓦器碗の高台部である。

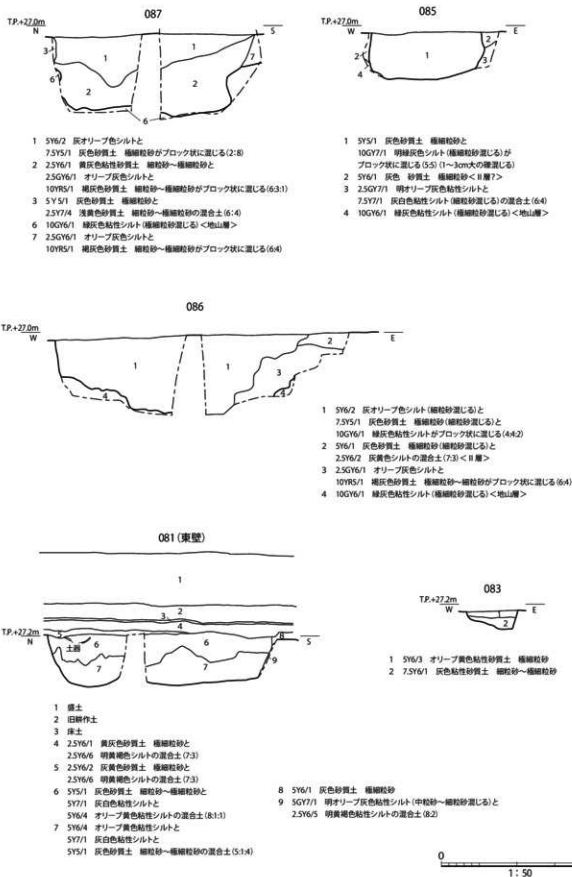


図35 R4・3区第Ⅱ層上面遺構断面図②

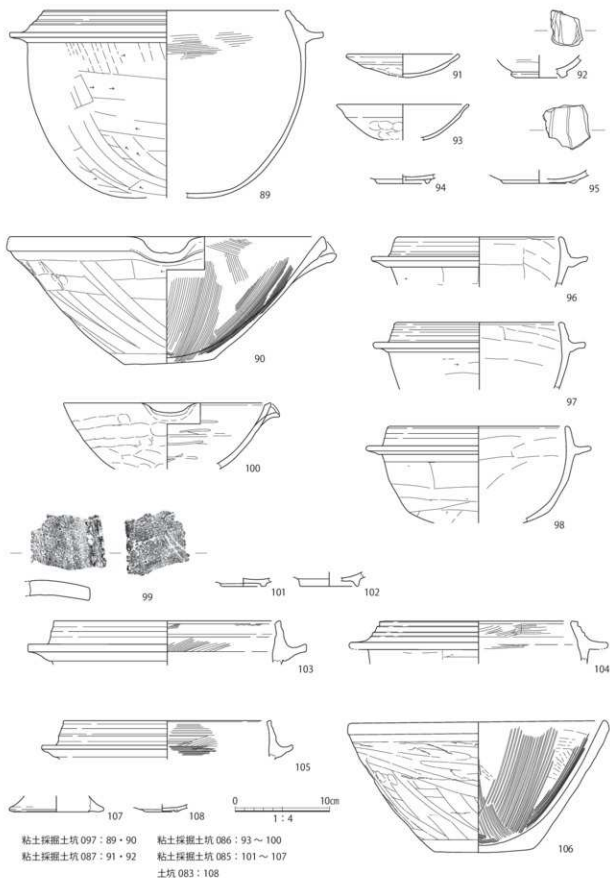


図36 R4・3区出土遺物③

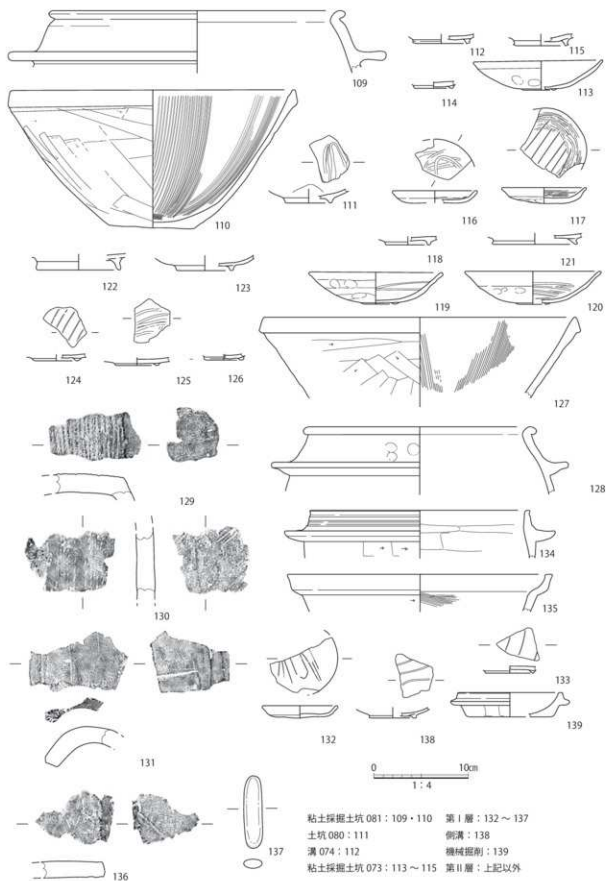


図 37 R4・3区出土遺物④

見込みにミガキを施す。96・97は土師器羽釜である。双方とも口縁部がわずかに内傾する。外面調整は胴部にケズリを施す。15世紀前葉。98は土師器羽釜である。他の羽釜と比べてやや小型である。口縁部がわずかに内傾する。全体的に激しく摩耗している。15世紀前葉か。99は平瓦である。内面に布目が残存する。100は瓦質土器片口鉢である。内面調整はナデの後ミガキを施す。

粘土探掘土坑085 101・102は瓦器碗の高台部である。101は見込みにミガキを施す。13世紀前葉(Ⅲ—3期)か。103は瓦質土器羽釜である。口縁部がわずかに内傾する。罎部より上の内面調整はハケを施す。15世紀前葉。104は瓦質土器羽釜である。口縁部が内傾する。内面調整はハケを施す。13世紀後葉か。105は瓦質土器羽釜である。口縁部がわずかに内傾する。罎部より上の内面調整はハケを施す。14世紀後葉か。106は土師器播鉢である。内面はハケメを施したのち、オロシメを刻んでいる。14世紀前半か。107は陶器である。小片のため詳細は不明である。

土坑083 108は瓦器碗の高台部である。13世紀後葉(Ⅳ—2期)か。

粘土探掘土坑081 109は瓦質土器羽釜である。口縁端部を折り曲げて玉縁状にしている。110は瓦質土器播鉢である。内面のオロシメは密に施す。

土坑080 111は瓦器碗の高台部である。見込みにミガキを施す。13世紀前葉(Ⅲ—3期)か。

溝074 112は瓦器碗の高台部である。13世紀前葉(Ⅲ—3期)か。

粘土探掘土坑073 113は瓦器碗である。器形が大きくゆがんでいる。外面調整はユビオサエおよびナデ、内面調整はナデを施す。13世紀後葉(Ⅳ—2期)。114・115は瓦器碗の高台部である。

包含層出土遺物

2層 116は瓦質土器小皿である。見込みにミガキを施す。117は瓦質土器小皿である。見込みにミガキを施す。118は土師器碗の高台部である。スガが付着する。13世紀前葉か。119・120は瓦器碗である。119は内面に疎なミガキを施す。13世紀中葉(Ⅳ—1期)。120は内面および見込みにミガキを施す。13世紀中葉(Ⅳ—1期)。121・122は瓦器碗の高台部である。121・122は12世紀後葉(Ⅲ—2期)か。123は瓦器碗の高台部である。13世紀前葉(Ⅲ—3期)か。124は瓦器碗の高台部である。見込みにミガキを施す。13世紀中葉(Ⅳ—1期)か。125は瓦器碗の高台部である。13世紀後葉(Ⅳ—2期)か。126は瓦器碗の高台部である。127は播鉢である。外面調整はケズリを施す。内面は播目を密に刻む。128は土師器羽釜である。口縁端部を折り曲げて玉縁状にしている。129・130は平瓦である。129は外面に縄目、凹面に布目が残る。130は内面にケズリを施す。131は丸瓦である。凹面に布目が残る。

1層 132は瓦質土器小皿である。見込みにミガキを施す。133は瓦器碗の高台部である。見込みにミガキを施す。13世紀中葉(Ⅳ—1期)か。134は瓦質土器羽釜である。体部の外面調整はケズリを施す。15世紀前葉から中葉か。135は陶器の鉢の口縁部である。鍋となる可能性もある。136は平瓦である。137は石製品である。用途は不明。

側溝 138は瓦器碗の高台部である。13世紀中葉(Ⅳ—1期)か。

機械掘削 139は瓦質のミニチュア羽釜である。底部以外の外面はケズリ調整を施す。

第5節 4区の調査成果

第1項 層序

4区の層序は上から順に宅地造成土(第0層)、中世耕作土(第2a層)、地山層(第4層)で、現代耕作土(第1a層)はほぼ削平されている。また一部に近世と考えられる耕作土層が存在する。地山層

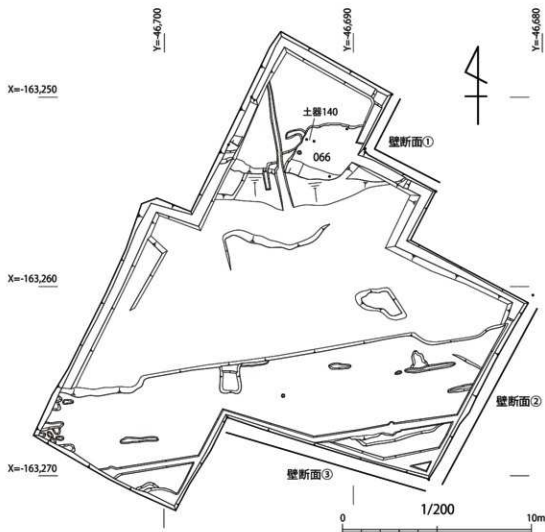


図38 R4・4区平面図

は上層の灰白色～黄褐色のシルト層と下層の風化礫を多く含む灰白色～橙色のシルト～粘性シルト層に分けられる。遺構面は削平されているが、地山上面のT.P.+27.5 m前後かそれ以上に高かった可能性がある。調査区の大部分が団地造成のために削平を受けていたが、北端隅で遺構を検出した。

第2項 検出した遺構と遺物

溝 066 南側の上がりを確認できた。東西方向の溝で、幅は3.0 m以上になり、残存する深さは0.25 mである。埋土は3層あり、上層に粗粒砂、下層に細粒砂とシルトがラミナ状に堆積しているため、流路であった考えられる。遺物は土師器と陶器が出土した。また下層の砂層を除去した粘質土層上面で、偶蹄目の足跡を検出した。時期は出土遺物から、中世の終わりから近世の始めに属すると考えられる。140は土師器甕である。外面調整はタタキ、内面調整はハケメを施す。15世紀後半～16世紀の所産であろう。141は陶器の高台部とみられる。外面は露胎で削り出し高台、内面は施軸される。16世紀の所産か。140・141ともに2層から出土した。

近世耕作土出土遺物 142は青磁の高台部で、やや内傾する。143は瓦質土器小皿である。内外面はユビオサエ・ナデ調整で、復元口径は8.5 cmである。15世紀末～16世紀初めとみられる。

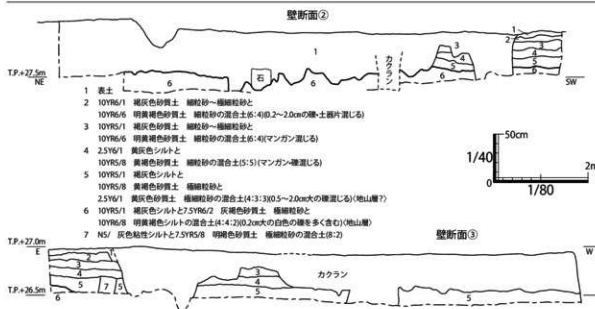
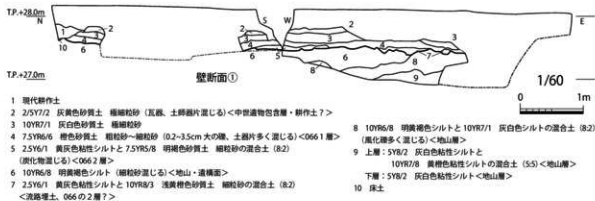


図 39 R4・4区土層断面図

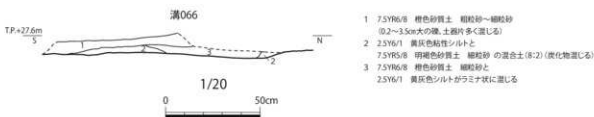


図 40 R4・4区溝 066 遺構断面図

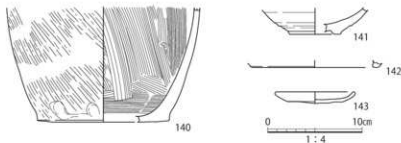


図 41 R4・4区出土遺物

第4章 令和5年度の調査成果

第1節 基本層序

第0層：八田荘住宅（現宮園住宅）建設に伴う造成土である。

第1層：八田荘住宅（現宮園住宅）建設以前の耕作土である。造成時に削平を受けている部分が多いが、0.1～0.2m程度の層厚である。水田作土（第1a層）と床土（第1b層）の2層に分層できる。

第2層：中世耕作土である。2区と3区で確認できる。2区では4層に分けられ、10YR5/1 褐灰色～灰黄色砂質土の第2a層、2.5Y5/1 黄灰色砂質土と10YR4/4 褐色粘質シルトの混合土の第2b層、2.5Y6/1 黄灰色砂質土の第2c層、5Y5/1 灰色粘質シルトの第2d層があり、出土遺物と土層観察から、15世紀頃までの耕作土（第2a層）と床土（第2b層）、13～14世紀頃の耕作土（第2c層）と床土（第2d層）と考えられる。3区では2層に分けられ、2.5Y6/4 にぶい黄色砂質土の第2c層、2.5Y5/1 黄灰色砂質土の第2d層があり、2区と同様に13～14世紀頃の耕作土（第2c層）と床土（第2d層）と考えられる。

第3層：3区西側のみに認められる堆積層であり、古墳時代から中世前期までの間の自然堆積層と考えられる。土色は7.5YR5/1 褐灰色シルトの1層のみで、0.05～0.1m程度の層厚である。

第4層：基盤層となる段丘構成層である。上層は灰白色～緑灰色の粘質土層、下層は灰白色～明緑灰色の礫が多く混じる粘質シルト層で構成される。

表3 土層と遺構の関係

年代	土層区分	層相	主な遺構
現代	第0層	現代盛土・ 擾乱	
近代～現代	第1a層・ 第1b層	作土	溝
中世（15世紀）	第2a層	作土	
中世（15世紀）	第2b層	作土	
中世（13-14世紀）	第2c層	作土	鋤溝・溝・土坑・井戸
中世（13-14世紀）	第2d層	作土	粘土採掘土坑・土坑
古墳～中世前期？	第3層	水成層	
古墳～中世前期？	第4層	段丘構成層 （更新世）	粘土採掘土坑・土坑・ビット・鋤溝

第2節 1区の調査成果

第1項 層序

本調査区の層序は、上から順に宅地造成土（第0層）、現代耕作土（第1a層）と床土層（第1b層）、地山層（第4層）である。他の調査区で認められる中世耕作土層は、削平されていると考えられる。遺構面は1面あり、第4層上面で15世紀頃までの遺構を検出した。地山標高はT.P.+27.3～27.6mであり、遺構によって掘られているために起伏が認められる。遺構の種類は、粘土採掘土坑、土坑、ピット、溝がある。

第2項 中世（第4層上面）の遺構と遺物

検出した遺構

粘土採掘土坑 057 調査区の南半全面で検出し、東壁、西壁、南壁にかかっている。縦 9.5m、横 6.5m、深さ 0.25～0.35m を測る不定形土坑である。南北アゼ2か所、東西アゼ3か所を設定した。埋土は4層あり、第4層である地山由来の粘質土と褐灰色砂質土の混合土である。この砂質土は本調査区の壁土層では確認できなかったが、第2層の中世耕作土と考えられる。各アゼ土層を観察すると、埋土上層は褐灰色砂質土の割合が多く、下層は粘質土の割合が多い傾向にある。水成堆積層はみられないため、土坑掘削後時間を置かず埋め戻されたと考えられる。遺物は様々な時代の土器が混ざっているが、須恵器（150）、土師器（147・148）、黒色土器（146）、瓦器、瓦質土器（151・152）、磁器（144・145）、瓦（153）などが出土し、特に瓦器や瓦質土器が多く含まれたため、15世紀頃の遺構と推定する。

粘土採掘土坑 058 調査区の北東側で検出し、北壁、東壁にかかっている。上記の057と隣接する。縦 4.0m、横 3.5m、深さ 0.2～0.35m を測る不定形土坑である。東西アゼと南北アゼを1か所ずつ設定した。埋土は2層あり、057と同様に第4層である地山由来の粘質土と褐灰色砂質土の混合土であり、埋土上層は褐灰色砂質土の割合が多く、下層は粘質土の割合が多い傾向にある。水成堆積層はみられない。遺物は片口鉢（155）、青磁（156）、瓦（157）の他に、須恵器、土師器、瓦器、瓦質土器などが出土した。

ピット 059 縦横 0.4m、深さ 0.1m を測る。埋土は1層あり、遺物は黒色土器B類、瓦質土器が出土した。

ピット 060 縦横 0.3m、深さ 0.3m を測る。遺物は出土しなかった。

鋤溝 061 長さ 0.45m、幅 0.2m、深さ 0.15m を測る。埋土は1層あり、遺物は土師器、瓦器小片が出土した。

土坑 062 縦 0.4m、横 0.2m、深さ 0.1m を測る不定形土坑である。埋土は1層あり、遺物は瓦器小片が出土した。

土坑 063 調査区の北端で検出し、北壁にかかっている。縦 0.3m、横 0.25m、深さ 0.05m を測る円形土坑である。埋土は1層あり、遺物は瓦器椀（158）や瓦質土器が出土した。

ピット 064 縦 0.3m、横 0.25m、深さ 0.05m を測る。遺物は出土しなかった。

鋤溝 065 長さ 0.3m、幅 0.25m、深さ 0.05m を測る。埋土は1層あり、遺物は土師器小片が出土した。

ピット 066 縦横 0.25m、深さ 0.1m を測る。埋土は1層あり、遺物は黒色土器小片が出土した。

ピット 067 縦横 0.2m、深さ 0.05m を測る。埋土は1層あり、遺物は土師器、瓦器小片が出土した。

粘土採掘土坑 068 縦 2.0m、横 1.0m、深さ 0.05～0.15m を測る不定形土坑である。南側が深くなる。埋土は1層あり、057と同様に第4層である地山由来の粘質土と褐灰色砂質土の混合土である。遺物

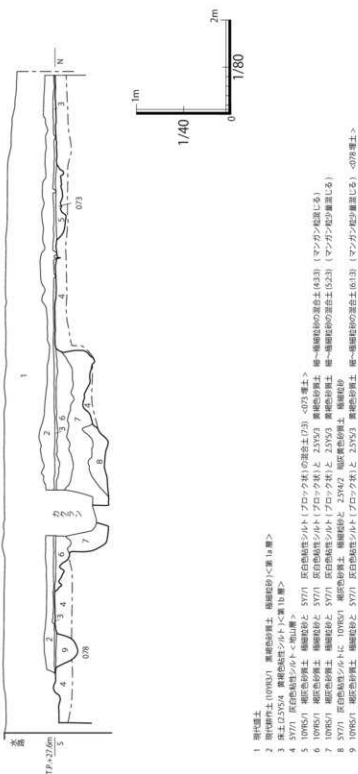


図42 R5・1区西壁断面図

は瓦器碗(159)や須恵器、瓦質土器が出土した。

土坑069 縦0.4m、横0.2m、深さ0.15mを測る楕円形土坑である。埋土は1層あり、遺物は土師器把手(160)や瓦質土器が出土した。

土坑070 縦0.4m、横0.6m、深さ0.05mを測る円形土坑である。埋土は1層あり、遺物は瓦器碗小片が出土した。

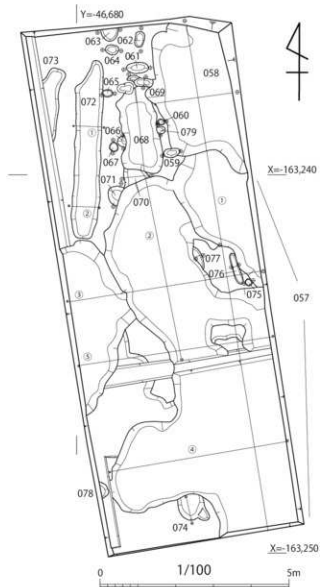


図43 R5・1区平面図

土坑071 縦0.25m、横0.4m、深さ0.1mを測る円形土坑である。埋土は1層あり、遺物は瓦質土器小片が出土した。

溝072 長さ4.5m、幅0.6m、深さ0.1mを測る。埋土は1層あり、遺物は土師器、黒色土器、瓦質土器小片が出土した。

溝073 調査区の西側で検出し、西壁にかかっている。長さ2.0m、幅0.5m、深さ0.1mを測る。遺物は出土しなかった。

土坑074 縦0.5m、横0.8m、深さ0.2mを測る不定形土坑である。埋土は1層あり、057と同様に第4層である地山由来の粘質土と褐色砂質土の混合土である。遺物は丸瓦（161）が出土した。

ビット075 縦横0.2m、深さ0.05mを測る。埋土は1層あり、遺物は瓦質土器小片が出土した。

溝076 縦1.0m、横0.15m、深さ0.05mを測る。埋土は1層あり、遺物は瓦質土器小片が出土した。

土坑077 縦0.7m、横0.25m、深さ0.05mを測る不定形土坑である。埋土は1層あり、遺物は瓦質土器小片が出土した。

土坑078 調査区の南西端で検出し、西壁にかかっている。縦0.35m、横0.10m、深さ0.1mを測る

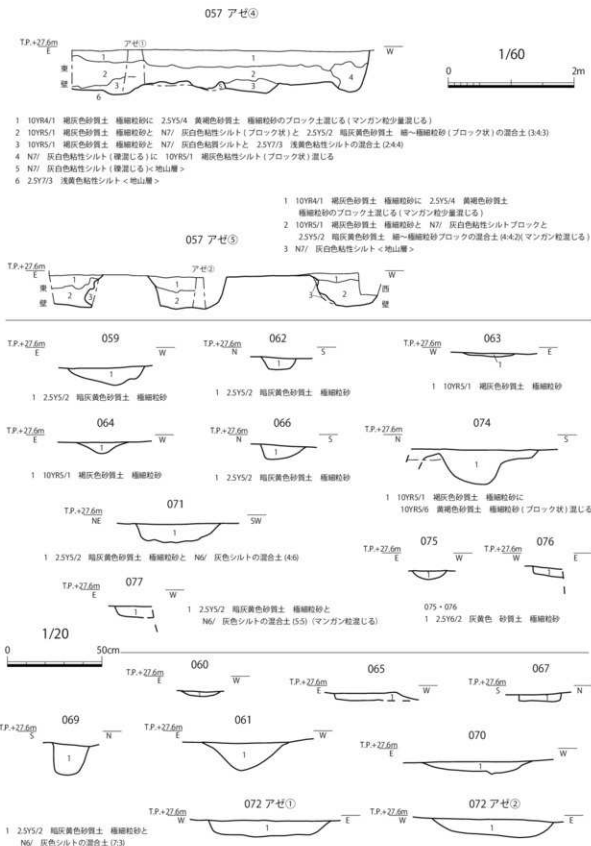


図45 R5・1区遺構断面図②

円形土坑である。遺物は出土しなかった。

土坑079 縦横0.2m、深さ0.1mを測る円形土坑である。埋土は1層あり、遺物は瓦質土器が出土した。
出土遺物

粘土採掘土坑057 144・145は青磁の底部である。144は内外面に施釉され、底は露胎する。145は高台部があり、内外面に貫入の施釉、底は露胎する。146は黒色土器の碗高台部である。全体的摩滅しているが、ミガキ跡がみられる。147は土師器片口鉢の口縁部である。内面にオロシメが一部あり、外面はナデ調整を施す。148は土師器甕の口縁部とみられる。内外面ともに摩滅している。149は弥生土器の甕口縁部とみられる。内面にナデ調整、外面にタタキ調整を施す。150は器形は不明だが、須恵器の底部とみられる。151・152は瓦質土器鉢の口縁部である。151は内外面ともに摩滅している。152は内外面に横方向ナデ調整を施す。ともに14世紀後半から15世紀初め頃の所産であろう。153は平瓦で、布目圧痕は不明である。154は鉄釘である。

粘土採掘土坑058 155は土師器片口鉢の口縁部である。内面にオロシメが一部みられるが、内外面ともに摩滅している。156は青磁の体部である。157は平瓦である。凹面に布目圧痕とケズリ調整、凸面にナデ調整を施す。

土坑063 158は瓦器碗の高台部である。内外面ともに摩滅している。13世紀前葉（Ⅲ—3期）の所産であろう。

粘土採掘土坑068 159は瓦器碗高台部である。内面にミガキ痕がみられ、外面は摩滅している。12世紀後葉（Ⅱ—2期）の所産であろう。

土坑069 160は土師器把手である。一部が欠けているが、上方に持ち上がる形をしている。

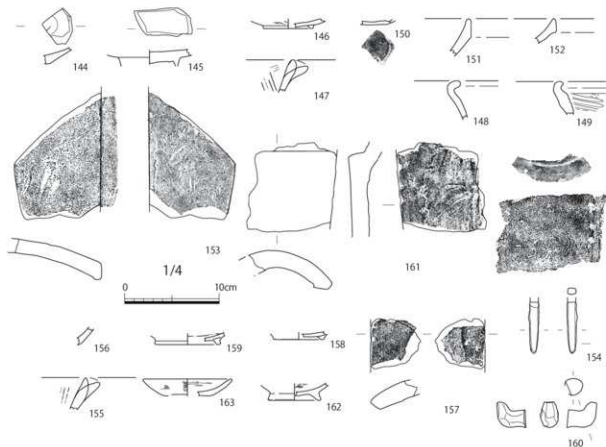


図46 R5・1区出土遺物

土坑 074 161は丸瓦である。凹面に布目圧痕があり、端部はケズリを施す。

包含層出土遺物

第1b層 162は瓦器碗高台部である。貼り付け高台、内面にミガキ痕がみられるが、内外面ともに摩滅している。12世紀前葉（Ⅱ—1期）の所産であろう。

第3節 2区の調査成果

第1項 層序

本調査区の層序は、上から順に宅地造成土（第0層）、現代耕作土（第1a層）と床土層（第1b層）、中世耕作土が4層あり、15世紀頃までの耕作土（第2a層）と床土（第2b層）、13～14世紀頃の耕作土（第2c層）と床土（第2d層）、地山層（第4層）である。遺構面は2面あり、第2c層上面と第2d層上面で14～15世紀頃の遺構を検出した。地山標高はT.P.+27.5～27.8mである。遺構の種類は、土坑、ピット、溝、鋤溝、井戸がある。

第2項 中世（第2面・第2d層上面）の遺構と遺物

検出した遺構と遺物

溝 056 調査区の北側で検出した南東→北西方向の溝である。長さ約11m、幅30～60cm、深さ0.05～0.15mを測る。4区の溝054と同一遺構だと考えられる。埋土は1層あり、北東側が低くなる。時期としては、以下の第1面の遺構と同時代と考えられる。遺物は瓦器皿（163）があり、内外面にミガキを施す。また瓦器碗高台部（164）があり、内外面は摩滅しているが、12世紀後葉頃（Ⅲ—2期）の所産であろう。その他の遺物として、瓦器碗、瓦質土器が出土した。

第3項 中世（第1面・第2c層上面）の遺構と遺物

検出した遺構

井戸 024 縦横0.8m、深さ約2.0mを測る。下層は西側に崩れている。埋土は1層あり、遺物は瓦質土器羽釜（169）が出土した。

鋤溝 025 長さ1.2m、幅0.4m、深さ0.05mを測る、東西方向の溝である。埋土は黄灰色砂質土1層である。遺物は出土しなかった。

鋤溝 026 長さ0.6m、幅0.3m、深さ0.05mを測る、東西方向の溝である。埋土は025と同様である。遺物は出土しなかった。

鋤溝 027 長さ2.5m、幅0.3m、深さ0.05mを測る、東西方向の溝である。埋土は025と同様である。遺物は土師器小片が出土した。

鋤溝 028 長さ1.0m、幅0.3m、深さ0.05mを測る、北東・南西方向の溝である。埋土は025と同様である。遺物は土師器、瓦器小片が出土した。

鋤溝 029 長さ1.0m、幅0.4m、深さ0.05mを測る、北東・南西方向の溝である。埋土は025と同様である。遺物は出土しなかった。

鋤溝 030 長さ1.0m、幅1.0m、深さ0.02mを測る、北東・南西方向の溝である。埋土は025と同様である。遺物は出土しなかった。

土坑 031 縦1.0m、横0.6m、深さ0.05mを測る不定形土坑である。埋土は025と同様である。遺物は出土しなかった。

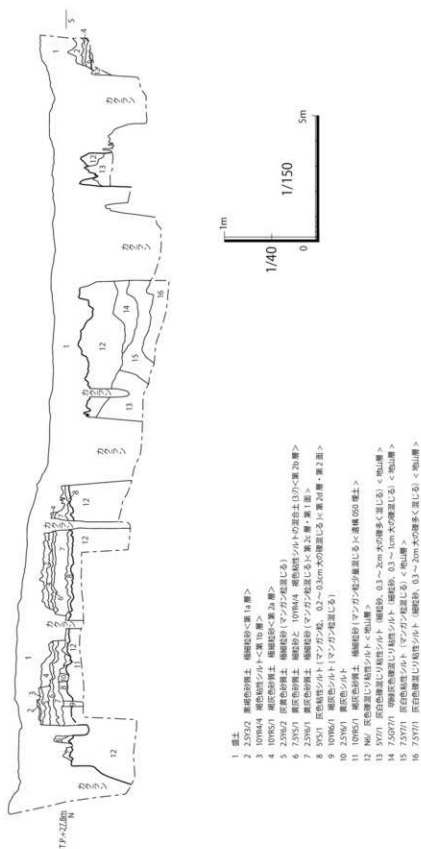


図 47 R5・2区西壁断面図

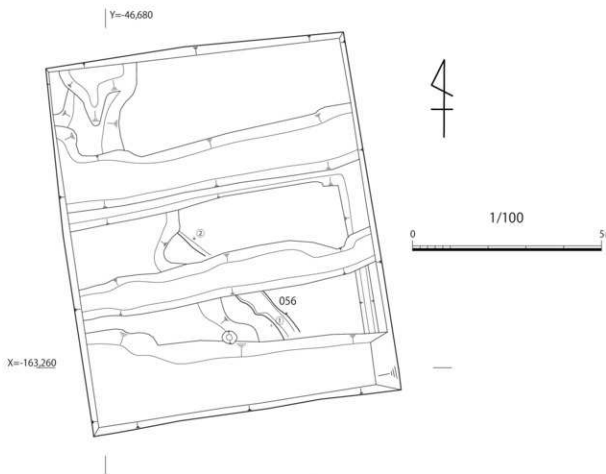


図48 R5・2区第2面平面図



図49 R5・2区第2面遺構断面図

土坑032 縦0.5m、横0.4m、深さ0.05mを測る楕円形土坑である。埋土は025と同様である。遺物は出土しなかった。

鋤溝033 長さ1.5m、幅0.2m、深さ0.03mを測る、東西方向の溝である。埋土は025と同様である。遺物は土師器小片が出土した。

鋤溝034 長さ2.5m、幅0.2m、深さ0.03mを測る、東西方向の溝である。埋土は025と同様である。遺物は土師器、瓦器、瓦質土器小片が出土した。

落ち込み035 縦5.0m、横4.0m、深さ0.05mを測る鋤溝群の下にある落ち込みである。埋土は025と同様である。遺物は瓦器皿(165)や須恵器、土師器、瓦質土器などが出土した。

鋤溝036 長さ0.5m、幅1.0m、深さ0.03mを測る、東西方向の溝である。埋土はマンガン粒が混じる黄灰色砂質土である。遺物は土師器小片が出土した。

鋤溝037 長さ5.0m、幅0.5m、深さ0.05mを測る、東西方向の溝である。鋤溝040に切られている。

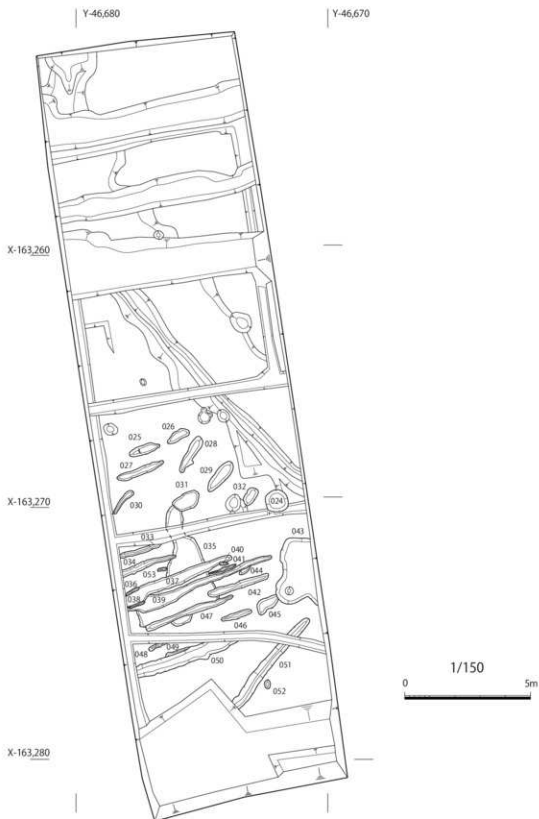


図 50 R5・2区第1面平面図

埋土は036と同様である。遺物は土師器羽釜(166)や瓦器が出土した。

鋤溝038 長さ0.7m、幅1.0m、深さ0.03mを測る、東西方向の溝である。埋土は036と同様である。

遺物は土師器小片が出土した。

鋤溝 039 長さ 6.0m、幅 0.1～0.55m、深さ 0.05m を測る、東西方向の溝である。鋤溝 037・038 に切られている。埋土は 036 と同様である。遺物は須恵器、土師器、瓦器、瓦質土器小片が出土した。

鋤溝 040 長さ 0.4m、幅 1.0m、深さ 0.03m を測る、北西・南東方向の溝である。埋土は 025 と同様である。遺物は出土しなかった。

鋤溝 041 長さ 1.0m、幅 1.0m、深さ 0.03m を測る、東西方向の溝である。埋土は 025 と同様である。遺物は出土しなかった。

鋤溝 042 長さ 3.5m、幅 0.25m、深さ 0.05m を測る、東西方向の溝である。埋土は 025 と同様である。遺物は出土しなかった。

土坑 043 縦 3.5m、横 1.5m、深さ 0.05m を測る不定形土坑である。埋土はマンガン粒が混じる褐色灰砂質土である。遺物は瓦器碗（167）や瓦質土器が出土した。

鋤溝 044 長さ 0.5m、幅 0.15m、深さ 0.03m を測る、東西方向の溝である。埋土は 036 と同様である。遺物は出土しなかった。

鋤溝 045 幅 0.75m、幅 45cm、深さ 0.03m を測る、東西方向の溝である。埋土は 025 と同様である。遺物は土師器小片が出土した。

鋤溝 046 長さ 1.0m、幅 0.25m、深さ 0.05m を測る、東西方向の溝である。埋土は 025 と同様である。遺物は出土しなかった。

鋤溝 047 長さ 4.0m、幅 0.2m、深さ 0.03m を測る、東西方向の溝である。埋土は 036 と同様である。遺物は瓦器碗（168）や瓦質土器が出土した。

鋤溝 048 長さ 0.5m、幅 0.2m、深さ 0.03m を測る、東西方向の溝である。埋土は 036 と同様である。遺物は出土しなかった。

鋤溝 049 長さ 1.0m、幅 1.0m、深さ 0.02m を測る、東西方向の溝である。溝 050 に切られている。埋土は 043 と同様である。遺物は出土しなかった。

溝 050 調査区の南西で検出し、西壁にかかっている。長さ 3.0m、幅 0.5m、深さ 0.05m を測る、東西方向の溝であるが、東側は削平されている。埋土は 043 と同様である。遺物は出土しなかった。

溝 051 長さ 4.0m、幅 0.35m、深さ 0.05～0.1m を測る、北東・南西方向の溝である。埋土は 043 と同様である。遺物は出土しなかった。

ビット 052 縦横 0.35m、深さ 0.05m を測る。埋土は 043 と同様である。遺物は出土しなかった。

鋤溝 053 長さ 0.5m、幅 1.0m、深さ 0.02m を測る、東西方向の溝である。埋土は 036 と同様である。遺物は土師器、瓦器小片が出土した。

出土遺物

井戸 024 169 は瓦質土器羽釜の口縁部である。鈐部は割れて無くなっている。内外面ナデ調整、外面鈐下にケズリ調整を施す。口縁端部は丸く外反する。13 世紀後半の所産であろう。

落ち込み 035 165 は瓦器小皿である。内面はヨコナデ調整に一部ミガキを施し、外面はヨコナデ調整を施すが、底部は摩滅している。

鋤溝 037 166 は土師器羽釜の口縁部である。内面は不明瞭であるが、外面にケズリ調整を施す。

土坑 043 167 は瓦器碗高台部である。摩滅のため調整は不明瞭である。13 世紀前葉（Ⅲ—3 期）の所産であろう。

鋤溝 047 168 は瓦器碗高台部である。摩滅のため調整は不明瞭である。13 世紀後葉（Ⅳ—2 期）の所産であろう。

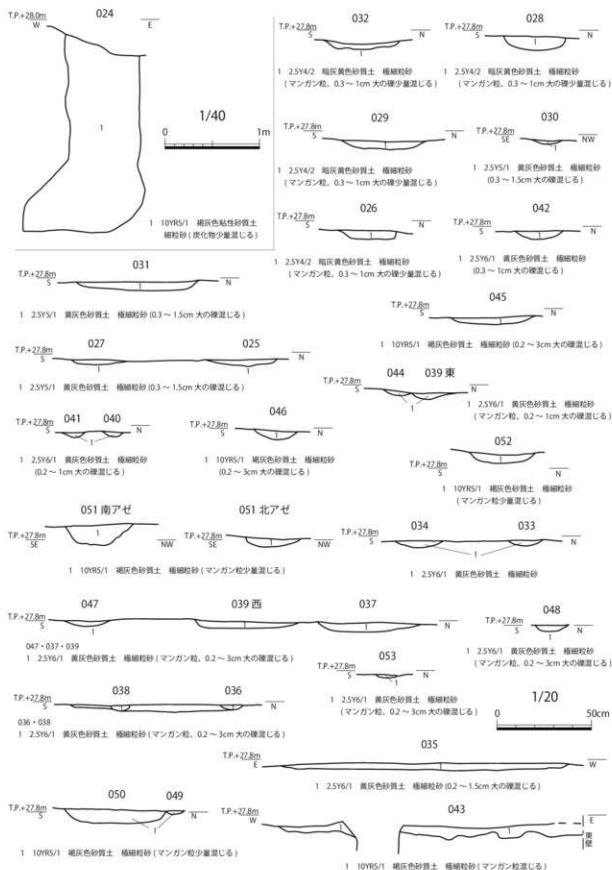


図 51 R5・2区第1面遺横断面図

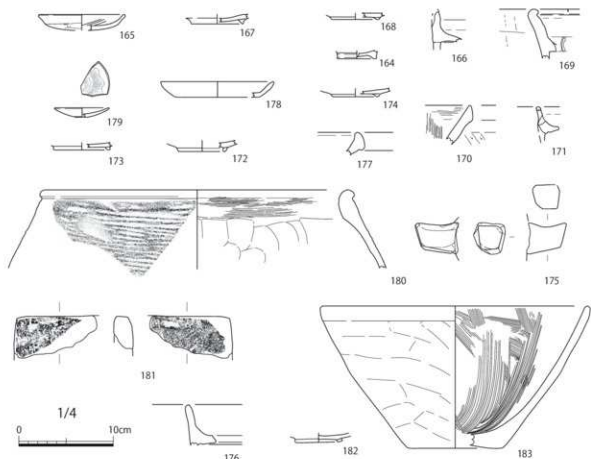


図 52 RS・2区出土遺物

包含層出土遺物

第2a・b層 170は瓦質土器鉢鉢の口縁部である。内面にハケメとオロシメ、外面に薄くケズリ調整がみられる。14世紀後半から15世紀初めの所産であろう。171は瓦質土器羽釜の口縁部である。摩耗のため調整は不明瞭であるが、鈐上に穿孔の痕がみられる。172・173は瓦器椀高台部である。どちらも摩滅のため調整は不明瞭である。13世紀前葉頃(Ⅲ-3期)の所産であろう。174は瓦器椀高台部である。内外面ナデ調整を施す。175は瓦質土器把手である。ケズりに近いナデを施す。176は土師器羽釜の口縁部である。内外面ナデ調整、鈐下にケズリ調整を施す。177は瓦質土器鉢の口縁部である。内外面ヨコナデ調整、口縁外側に自然釉が付着する。178は青磁皿である。内外面に施釉され、口縁端部は露胎する。179は白磁小皿である。内面に印花の文様がみられる。底部は露胎する。180は瓦質土器甕の口縁から胴部である。内面にハケメとナデ調整、外面にタタキメを施す。15世紀後半の所産か。181は平瓦である。

機械掘削 182は瓦器椀高台部である。摩耗のため調整は不明瞭である。12世紀後葉頃(Ⅲ-2期)の所産であろう。183は土師器鉢鉢である。内面はハケメのあとオロシメを施す。外面は摩滅しているが、ケズリ調整とみられる。15～16世紀の所産であろう。

第4節 3区の調査成果

第1項 層序

本調査区の層序は、上から順に宅地造成土(第0層)、現代耕作土(第1a層)と床土層(第1b層)、

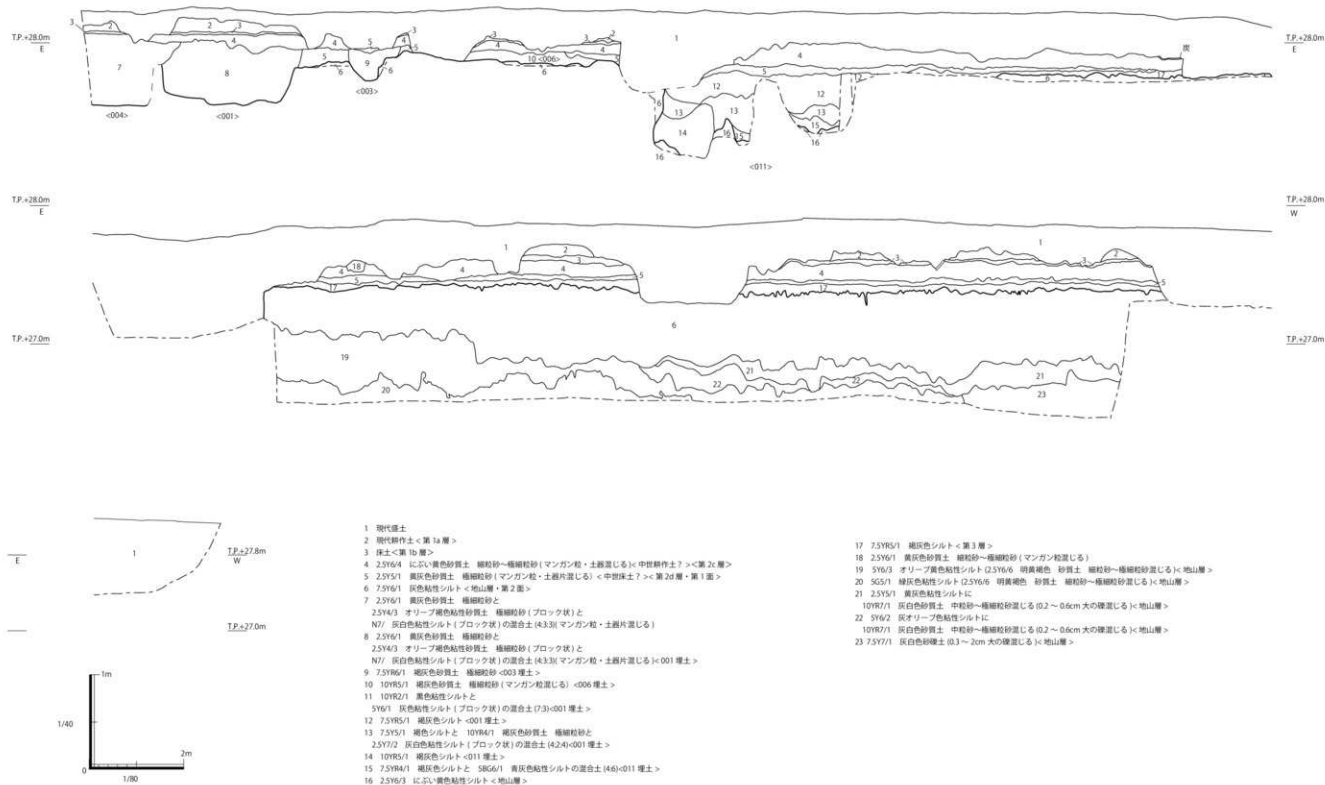


図 53 R5・3区南壁断面図

13～14世紀頃の耕作土（第2c層）と床土（第2d層）、古墳時代から中世前期までの間の自然堆積層（第3層）、地山層（第4層）である。第3層は調査区の西側のみで確認できる。遺構面は2面あり、第2d層上面で14～15世紀頃の遺構を検出し、第4層上面で古墳時代の遺構を検出した。地山標高はT.P.+27.6m前後である。遺構の種類は、粘土採掘土坑、土坑、ビット、鋤溝がある。

第2項 古墳時代（第2面・第4層上面）の遺構と遺物

検出した遺構

土坑005 縦1.3m、横1.0m、深さ0.9mを測る楕円形土坑である。埋土は3層あり、下層は地山由来の粘質土と黄灰色砂質土に、土壌化層とみられる黒褐色のシルトがブロック状に混じる。上層は褐灰色砂質土が底に丸みを持つ状態で堆積し、水成堆積層が層状にみられる。このことから、土坑の半分までは下層の土で埋戻され、その後放置されたところに自然堆積して埋まったと考えられる。遺物は須恵器甕（184）、サヌカイト片（185）や土師器小片が出土した。

土坑006 調査区東側で検出し、南壁にかかっている。縦2.8m、横0.3m、深さ0.1mを測る。埋土は1層で、遺物は出土しなかった。

ビット007 縦横0.3m、深さ0.1mを測る。埋土は1層で、地山由来の粘質土と褐灰色砂質土の混合土である。遺物は出土しなかった。

土坑008 縦横1.5m、深さ0.65mを測る不定形土坑である。上層は攪乱により削平されている。埋土は2層あり、下層は地山由来の粘質土と褐灰色シルトの混合土であり、上層は005と同様に褐灰色シルトが底に丸みを持つ状態で堆積し、水成堆積層も微かに認められる。層の境あたりで、斜め下を向いた状態のほぼ完形の須恵器甕が出土した。このことから、下層の土を埋戻した時に甕が入れられ、その後状態が自然堆積して埋まったと考えられる。遺物は上記の須恵器甕（186）が出土した。

鋤溝009 長さ0.8m、幅0.2m、深さ0.05mを測る、南北方向の溝である。埋土は007と同様である。遺物は出土しなかった。

土坑010 縦1.2m、横0.8m、深さ0.25mを測る楕円形土坑である。上層は攪乱により削平されている。埋土は2層あり、008の上層と同様である。水成堆積層が認められる。遺物はサヌカイト片（187）が出土した。

粘土採掘土坑011 調査区の南壁にかかっている。縦3.5m、横2.5m、深さ0.5～0.8mを測る不定形土坑である。一部攪乱により削平されている。東西アゼ1か所、南北アゼ2か所を設定した。埋土は5層あり、下層は地山由来の粘質土と褐灰色シルトがブロック状に混じり、一部で水成堆積層が認められる。上層は008の上層と同様である。埋土が本調査区第1面や他の調査区にある粘土採掘土坑に似ているため、粘土採掘土坑と推定した。遺物は須恵器甕（188）や土師器甕、瓦器片が出土した。

鋤溝012 長さ0.55m、幅0.3m、深さ0.05mを測る、南東・北西方向の溝である。埋土は007と同様である。遺物は出土しなかった。

ビット013 縦横0.5m、深さ0.2mを測る。埋土は褐灰色砂質土の1層である。遺物は出土しなかった。

ビット014 縦横0.35m、深さ0.2mを測る。埋土は007と同様である。遺物は出土しなかった。

鋤溝015 長さ0.4m、幅0.25m、深さ0.05mを測る、東西方向の溝である。埋土は007と同様である。遺物は土師器小片が出土した。

鋤溝016 長さ0.5m、幅0.3m、深さ0.03mを測る、南北方向の溝である。埋土は007と同様である。遺物は出土しなかった。

ビット017 縦横0.3m、深さ0.15mを測る。埋土は013と同様である。遺物は出土しなかった。

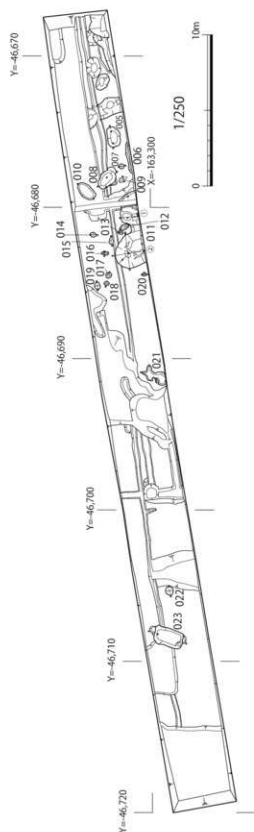


図 54 R5・3区第2面平面図

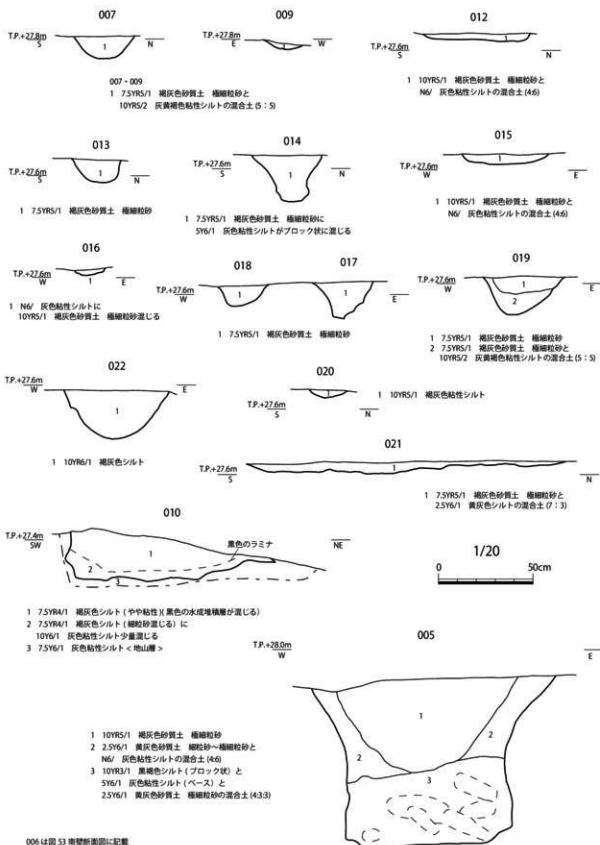


図55 R5・3区第2面遺構断面図①

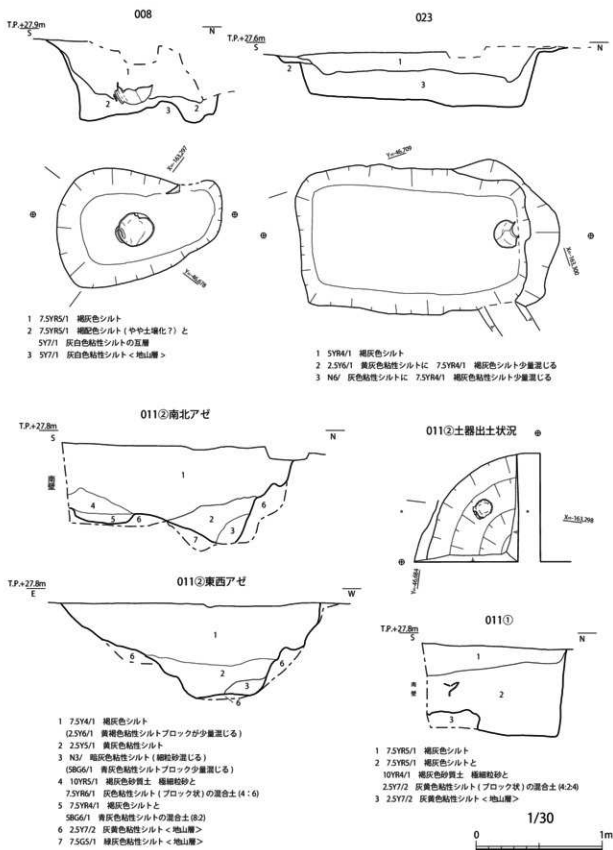


図 56 R5・3区第2面遺構断面図②・遺構平面図

ビット018 縦0.3m、横0.25m、深さ0.1mを測る。埋土は013と同様である。遺物は出土しなかった。

ビット019 縦0.4m、横0.3m、深さ0.2mを測る。埋土は2層あり、上層は013と同様で、下層は地山由来の粘質土と褐灰色砂質土の混合土である。遺物は出土しなかった。

ビット020 縦横0.2m、深さ0.05mを測る。埋土は褐灰色粘質シルトである。遺物は出土しなかった。

土坑021 縦1.7m、横1.0m、深さ0.05mを測る不定形土坑である。埋土は褐灰色砂質土と黄灰色シルトの混合土である。遺物は出土しなかった。

土坑022 縦横0.5m、深さ0.25mを測る円形土坑である。埋土は020と同様である。遺物は須恵器、土師器片が出土した。

土坑023 縦1.5m、横1.2m、深さ0.4mを測る方形土坑である。埋土は3層あり、上層は褐灰色シルト、下層は褐灰色粘質シルトと地山由来の粘質土の混合土である。遺物は土坑の北側で須恵器甕(189)が出土した。

また遺構ではないが、調査区の西側でヒトや偶蹄目の足跡を検出した。土色は第3層の土とみられるので、第3層堆積途中に形成されたと考えられる。

出土遺物

土坑005 184は須恵器甕である。内面は同心円状タタキ、外面は格子状タタキを施す。口縁部はやや外反し、丸みを持つ。6世紀後半(TK10型式)の所産であろう。185はサヌカイト片である。

土坑008 186は須恵器甕である。焼成不良であるが、内面は同心円状タタキ、外面は平行タタキを施す。口縁部は真っ直ぐ立ち上がり、丸みを持つ。184と同様に6世紀後半(TK10～43型式)の所産と考えられる。

土坑010 187はサヌカイト片である。

粘土探掘土坑011 188は須恵器甕である。内面は同心円状タタキ、外面は格子状タタキを施す。口縁部は屈曲し、端部は面を持つ。184と同様に6世紀後半(TK10型式)の所産であろう。

土坑023 189は須恵器甕である。焼成良好で、内面は同心円状タタキ、外面は格子状タタキと横方向のクシメを施す。口縁部は大きく外反する。184と同様に6世紀後半(TK10～43型式)の所産と考えられる。

第3項 中世(第1面・第2d層上面)の遺構と遺物

検出した遺構

粘土探掘土坑001 調査区の東端で検出し、南壁にかかっている。縦0.8m、横2.6m、深さ0.5mの不定形土坑である。埋土は1層あり、灰色砂質土と地山由来の粘質土がブロック状に混じる。遺物は瓦質土器插鉢(190)や土師器、瓦器小片が出土した。

土坑002 縦横1.0m、深さ0.4mの円形土坑である。埋土は灰色砂質土であり、水成堆積層はみられない。遺物は出土しなかった。

土坑003 調査区の東側で検出し、南壁にかかっている。縦2.5m、横1.6m、深さ0.4～0.75mの不定形土坑である。一部は攪乱によって削平されている。埋土は3層あり、上層は灰色砂質土、下層は地山由来の粘質シルトである。水成堆積層はみられない。遺物は須恵器、土師器、瓦器片が出土した。

粘土探掘土坑004 調査区の東端で検出し、南壁と東壁にかかっている。縦1.5m、横1.1m、深さ0.65mを測る不定形土坑である。埋土は2層あり、001と同様である。遺物は瓦器椀(191)や須恵器、土師器、瓦質土器が出土した。

出土遺物

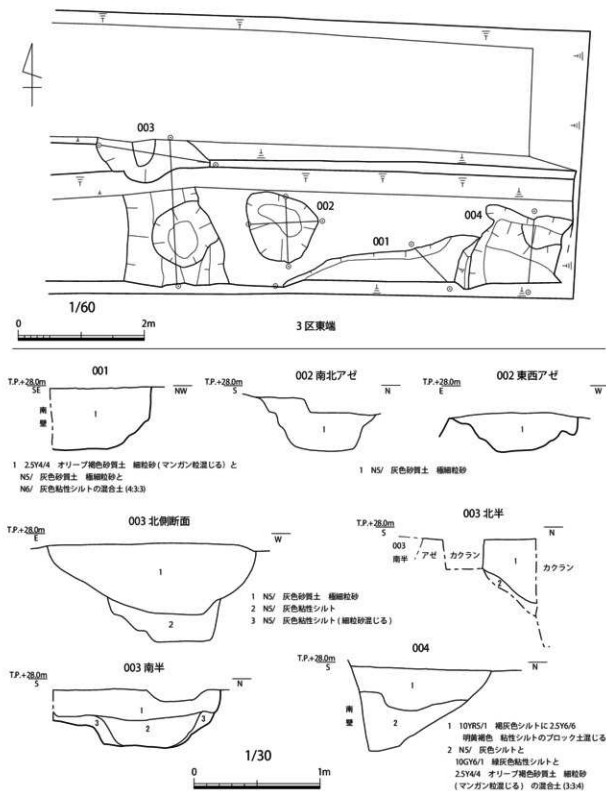


図57 R5・3区第1面平面図・遺構断面図

土坑001 190は瓦質土器掘鉢の口縁部である。内面にハケメと一部にオロシメがみられる。口縁端部はヨコナデ調整施す。14世紀後半から15世紀初め頃の所産であろう。

土坑004 191は瓦器椀高台部である。貼り付け高台、内外面は摩滅のため調整不明瞭である。13

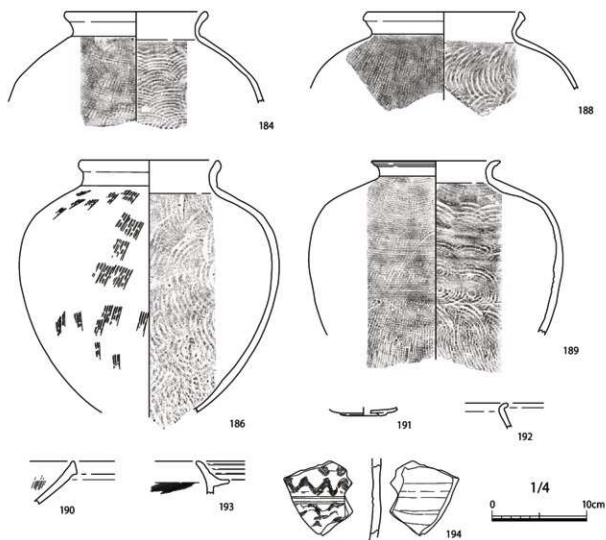


図 58 R5・3区出土遺物

世紀中葉（Ⅳ—2期）の所産であろう。

包含層出土遺物

第4層 192は弥生土器の甕口縁部とみられる。内外面ともに摩滅している。

第2c層 193は瓦質土器羽釜の口縁部である。内面にハケメ、ヨコナデ調整を施す。14世紀頃の所産であろう。194は須恵器器台や高杯の脚部とみられる。内面にヨコナデ調整、外面に波状文を施す。

第5節 4区の調査成果

第1項 層序

本調査区の層序は、上から順に宅地造成土（第0層）、現代耕作土（第1a層）と床土層（第1b層）、地山層（第4層）である。調査区の大部分が削平されているが、南側で第4層上面で中世の遺構を検出した。地山標高はT.P.+27.6m前後である。遺構の種類は、溝と鋤溝がある。

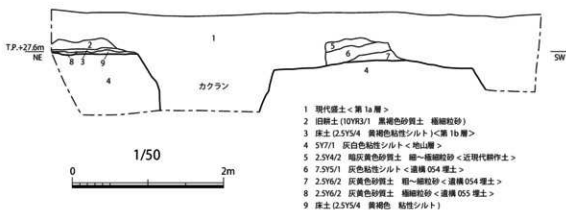


図 59 R5・4区東壁断面図

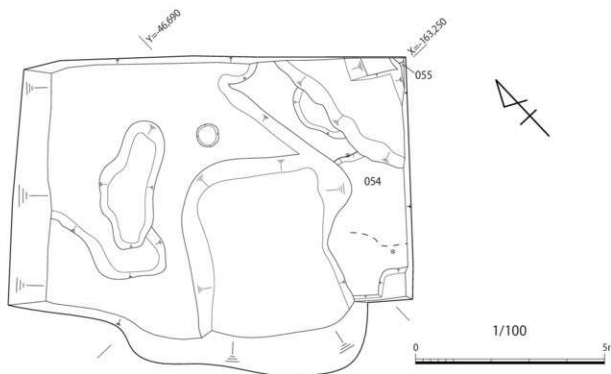


図 60 R5・4区平面図・遺構断面図

第2項 中世の遺構と遺物

検出した遺構

溝 054 調査区の南端で検出し、南壁にかかっている。幅 2m 程度の溝で、攪乱により削平されているが、本来は南東・北西方向に延びており、2 区の溝 056 と同一遺構だと考えられる。埋土は灰色粘質シルトに砂質土が混じる。遺物は土師器蓋(195・196)や瓦器、瓦質土器、瓦片が出土した。

鋤溝 055 調査区の南東隅で検出し、南壁にかかっている。攪乱により削平されているが、幅 0.2m、深さ 0.05m を測る。埋土は灰黄色砂質土である。遺物は瓦器、瓦質土器小片が出土した。

出土遺物

溝 054 195・196 は土師器蓋である。195 は内面にハケメ、外面にナデ調整を施す。

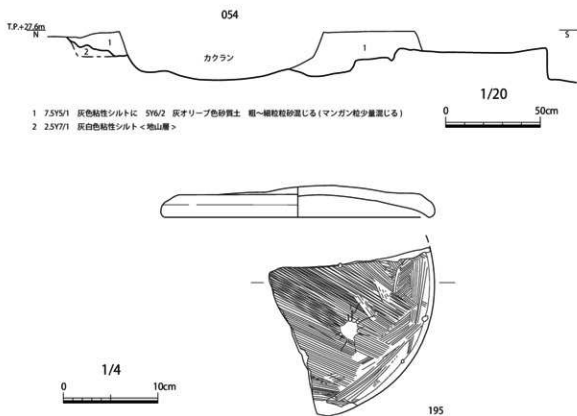


図 61 R5・4区 054 断面図・出土遺物

攪乱層 197 は青磁である。

第5章 総括

古墳時代以前

今回の調査では縄文時代から弥生時代の遺構は認められなかったが、令和5年度3区の土坑005、010からサヌカイトの剥片が出土したことから、縄文時代から活動の痕跡が認められる。また地山層から弥生土器の甕とみられる遺物が1点出土している。3区の地山層上面で、古墳時代の遺構を検出した。土坑005、008、010、023から須恵器甕が出土し、時期は6世紀後半頃と考えられる。須恵器甕は焼成不良のものが多く、埋土の観察から、自然堆積で埋まった土坑と、土坑の途中まで人為的に埋戻した後自然堆積で埋まったと考えられる2タイプがある。遺構の性格は不明だが、粘土層に掘り込み、一部には埋戻しの痕跡があることから、古代・中世の遺構と同様に、粘土採掘のために掘削した後焼成の悪い土器を入れた可能性がある。

古代

本遺跡での開発が活発になるのは古代以降である。過年度の調査で見つかった掘立柱建物は検出できなかったが、令和4年度の1区では、8～9世紀頃とみられる大型の土坑を検出した。埋土には水成堆積層が認められず、地山層ブロックと砂質土の混合土であることから、掘削後は時間を置かず埋戻されていると考えられる。また遺物は奈良時代後半から平安時代頃の土師器甕が十数点出土し、焼成は悪いが、完形に近いものが多く出土したことが特徴である。祭祀的性格が認められる要素はみられず、焼成不良の土器を土坑に入れたと推定される。土坑は地山層の粘土～シルト層を対象として掘削しており、粗粒化すると掘削をやめていることから、これまでの調査成果で検出されたような粘土採掘土坑と判断する。古代においては本遺跡の東に深井桶池遺跡があり、奈良時代の土師器窯跡が見つまっている（堺市教育委員会1992）。今回出土した土師器は、過去の本遺跡の調査や深井桶池遺跡の土師器に比べて、様式が異なり時代が下る印象を受けるが、土器生産活動の痕跡として関連がある可能性がある。

中世

過去の調査成果と同様に、多数の中世後期の土坑を検出した。その多くは大型の土坑であり、令和4年度の4区や令和5年度の2区・4区のような、地山が砂質化しているところでは検出できなかった。古代の土坑と同様に粘土採掘土坑と考えられ、粘土が採れる場所を選んでいたと想定される。またほぼ全ての埋土がブロック状に混じっており、完形に近い瓦器碗や瓦質播鉢も何点か出土した。中世においては本遺跡の南に位置する平井遺跡で瓦器窯跡が、西に位置する八田北町遺跡で粘土採掘土坑が見つまっている（堺市教育委員会1988/1989）。地理的にも非常に近いため、本遺跡もこれらの遺構に関係する可能性がある。13～15世紀の期間で、本遺跡を含む一帯で土器生産が行われ、粘土採掘が大規模に行われたと推測される。

また令和4年度の3区上層や令和5年度の2区では溝や鋤溝を検出し、耕作が行われたことがわかる。粘土採掘とともに田畑の開発も行われた様相がみられ、周辺の土地利用を示している。

近世

近世以降では、井戸が数基見つまっているが基本的に耕作地として利用されている。こうした農村としての景観は、1950年代における八田荘住宅の建設まで基本的に継続していく。

引用・参考文献

- 大阪府教育委員会 1988『平井遺跡』
- 大阪府教育委員会 2005『深井清水町C遺跡(04010)』『大阪府教育委員会文化財調査事務所年報』9
- 大阪府教育委員会 2011『宮園遺跡(10061)』『大阪府教育委員会文化財調査事務所年報』15
- 大阪府教育委員会 2018『宮園遺跡』大阪府埋蔵文化財調査報告 2017-2
- 大阪府教育委員会 2020『宮園遺跡Ⅱ』大阪府埋蔵文化財調査報告 2019-2
- 大阪府教育委員会 2022『宮園遺跡Ⅲ』大阪府埋蔵文化財調査報告 2021-2
- 大阪府教育委員会 2023『宮園遺跡Ⅳ』大阪府埋蔵文化財調査報告 2022-1
- 大阪府文化財調査研究センター 1996『深井清水遺跡』(大阪府文化財調査研究センター調査報告書 第12集)
- 大阪府立近つ飛鳥博物館 2004『年代のものさし—陶器の須恵器—』(大阪府立近つ飛鳥博物館図録)
- 尾上実・森島康雄・近江俊秀 1995『瓦器椀』中世土器研究会『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社
- 堺市教育委員会 1981『深井清水町遺跡発掘調査報告—A地点第1地区・第2地区—』『堺市文化財調査報告』第9集
- 堺市教育委員会 1981『深井清水町遺跡発掘調査報告—B地点第1地区・第2地区—』『堺市文化財調査報告』第9集
- 堺市教育委員会 1983『深井清水町遺跡発掘調査報告—B地点第3地区—』『堺市文化財調査報告』第13集
- 堺市教育委員会 1986『土師南遺跡(HAZ-S)発掘調査報告』(堺市文化財調査報告 第26集)
- 堺市教育委員会 1987『堀上町遺跡発掘調査報告書—近畿相互銀行深井支店建設に伴う事前調査—』『堺市文化財調査報告』第36集
- 堺市教育委員会 1989a『八田北町遺跡発掘調査報告Ⅰ—公共下水道八田下水路(第4工区・第5工区)築造に伴う緊急発掘調査—』『堺市文化財調査報告』第48集
- 堺市教育委員会 1989b『八田北町遺跡発掘調査報告Ⅱ—都市計画道路南花田鳳西町線建設に伴う緊急発掘調査—』『堺市文化財調査報告』第48集
- 堺市教育委員会 1992『深井桶池遺跡』『堺市文化財調査概要報告』第31集
- 堺市教育委員会 1997『堀上町遺跡発掘調査概要報告—HAC-3地点 堀上町—』『堺市文化財調査概要報告』第66集
- 堺市教育委員会 2008『宮園町東遺跡(MZCH-1)』『堺市文化財調査報告』第118集
- 白神典之 1992『八田焼について—特に発掘調査成果と近世史料の記録を中心として—』『関西近世考古学研究』Ⅲ
- 鶴柄俊夫 1989a『大阪府南部の瓦質土器生産について(1)』『大阪文化財論集』大阪文化財センター
- 鶴柄俊夫 1989b『大阪府南部の瓦質土器生産(2)』『中近世土器の基礎研究』Ⅴ 日本中世土器研究会
- 趙哲済 1988『平井遺跡の地形と地質』『平井遺跡』大阪府教育委員会
- 續 伸一郎 2007『大阪の瓦質土器—南部地域を中心として—』第26回 中世土器研究会 瓦質土器の出現と定着—瓦質土器を考える(前編)—』(発表資料集)
- 續 伸一郎 2010『堺環濠都市遺跡から出土した“掘る”“卸す”焼き物』『備前市歴史民俗資料館紀要』12
- 土山健史 1989『堺環濠都市遺跡における15・16世紀の在地土器』『中近世土器の基礎研究』Ⅴ 日本中世土器研究会

観察表

緯度 番号	経度 番号	国名	地区名	道標	種類	器種	法量 () は単位cm				色調	散土	傾成	残存率
							口径	器高	底・高台 径	その他				
13	1	13	1区I西	粘土探鉱土坑	瓦質	赤	(27.4)	13.95		(内) 5YR7/4 にふい・10YR7/3 にふい・黄褐色 (外) 5YR6/4 にふい・10YR7/1 灰白・N2/黒 (底) 5YR6/4 にふい・黄褐色	赤 (3mm 以下のチャート、長石、クワリ石を少量含む)	良	80 % (口縁部・5%以下)	
13	2	13	1区I東	粘土探鉱土坑	土師器	赤	(24.5)	残 12.0		(内) 10YR8/2 灰白 (外) 7.5YR8/3 浅黄褐色・5YR7/4 にふい・黄褐色 (底) 7.5YR8/2 灰白	赤 (1mm 以下の長石、チャートを少量含む)	良	口縁部・8%	
13	3	13	1区II西	粘土探鉱土坑	土師器	黄	(15.6)	残 15.7		(表) 10YR6/3 にふい・黄褐色・10YR5/1 黄灰 (裏) 5YR7/4 にふい・黄褐色・10YR5/2 灰白・10YR3/2 黄褐色 (底) 10YR7/2 にふい・黄褐色	やや赤 (1mm の黒、褐色砂粒少量・白、黒、赤褐色微細粒多量含む)	やや不良	60%	
13	4	13	1区I	粘土探鉱土坑	土師器	黄	(16.6)	残 7.5		(内) 2.5YR/3 法量 (外) 2.5YR/3 法量・7.5YR7/6 褐色 (底) 5YR5/6 明赤褐色	やや粗 (3mm の白、赤褐色砂粒少量・白、灰、赤褐色微細粒多量含む)	やや不良	口縁部・40%	
14	5	13	1区I	粘土探鉱土坑	土師器	長脚	(26.0)	残 8.45		(内) 7.5YR6/6 褐色・10YR8/4 浅黄褐色 (外) 7.5YR6/2 灰褐色・10YR2/1 黒 (底) 5YR7/6 褐色	黄褐色砂粒少量・1mm の白、褐色砂粒少量・白、黒、赤褐色微細粒多量含む	良好	小片	
14	6	13	1区I西	粘土探鉱土坑	土師器	黄	(14.8)	残 5.7		(内) 5YR7/6 褐色 (外) 5YR7/6 褐色 (底) 5YR5/6 明赤褐色	粗 (4mm の白色砂粒少量・3mm の白、灰色砂粒少量・2mm、1mm の白、灰、褐色砂粒多量含む)	やや不良	小片	
14	7	13	1区Ik	粘土探鉱土坑	土師器	黄	(10.9)	残 5.2		(内) 5YR7/6 褐色・7.5YR/4 にふい・黄褐色 (外) 5YR6/6 褐色・7.5YR6/1 黄褐色 (底) 7.5YR5/6 明赤褐色	粗 (2.5mm の白色砂粒少量・1mm の白、灰、黒、赤褐色砂粒少量・白色、雲母、微細粒多量含む)	不良	小片	
13	8	13	1区I	粘土探鉱土坑	土師器	黄	(16.0)	残 4.1		(内) 2.5YR8/2 灰白 (外) 10YR8/2 灰黄褐色・10YR8/3 浅黄褐色・10YR6/1 黄褐色 (底) 10YR4/4 褐色	やや粗 (3mm の白、灰色砂粒少量・1mm の白、褐色砂粒少量・白色微細粒多量含む)	不良	小片	
13	9	14	1区II	粘土探鉱土坑	土師器	黄	(16.7)	15.8		(内) 5YR7/6 褐色 (外) 7.5YR7/4 にふい・黄褐色・5YR7/6 褐色・N2/黒 (底) 7.5YR7/4 にふい・黄褐色	赤 (3mm 以下の長石、チャートを少量含む)	良	80%	
13	10	14	1区IIh1区II	粘土探鉱土坑	土師器	黄	15.8	14.6		(内) 7.5YR7/4 にふい・黄褐色 (外) 7.5YR8/3 浅黄褐色・7.5YR5/1 黄褐色 (底) 7.5YR6/3 にふい・黄褐色	やや粗 (3mm 以下のチャート、長石、クワリ石を多く含む)	良	70%	
13	11	14	1区II西1区IIの	粘土探鉱土坑	土師器	黄	(18.0)	残 14.75		(内) 5YR7/6 褐色 (外) 5YR7/6 褐色・2.5YR/2 灰白・5YR6/1 黄褐色 (底) 5YR7/6 褐色	やや粗 (7mm の灰褐色小石1個・2-3mm の白、灰、灰褐色砂粒少量・1-1.5mm の白、黒、灰、赤褐色微細粒多量含む)	やや不良	25%	
13	12	14	1区II西1区IIm	粘土探鉱土坑	土師器	黄	(17.8)	残 13.1		(内) 5YR7/6 褐色 (外) 5YR7/6 褐色・10YR8/4 浅黄褐色 (底) 10YR7/4 にふい・黄褐色	やや粗 (4mm の白色砂粒1.7・3mm の白、灰色砂粒少量・1.5mm の白、灰、褐色砂粒少量・白、灰、赤褐色微細粒多量含む)	やや不良	30%	
13	13	14	1区II東	粘土探鉱土坑	土師器	黄	(18.0)	残 9.85		(内) 7.5YR/4 浅黄褐色・5YR7/4 にふい・黄褐色 (外) 5YR7/6 褐色 (底) 7.5YR8/4 浅黄褐色	粗 (8mm の灰色小石1個・4mm の褐色砂粒1個・3mm の白、灰色砂粒少量・2mm の白、灰、褐色砂粒少量・1mm 以下の白、黒、赤褐色砂粒多量含む)	やや不良	15%	
14	14	14	1区II	粘土探鉱土坑	土師器	黄	(19.0)	残 7.0		(内) 5YR7/6 褐色・7.5YR/1 灰白 (外) 7.5YR8/4 浅黄褐色・2.5YR/2 灰白・2.5YR/1 黄褐色 (底) 7.5YR7/3 にふい・黄褐色	粗 (2.5mm の白、灰色砂粒少量 1mm の白、黒、赤褐色砂粒少量・白、灰、赤褐色微細粒多量含む)	やや不良	15%	
14	15	14	1区II	粘土探鉱土坑	土師器	黄	(18.0)	残 5.7		(内) 7.5YR7/6 褐色 (外) 7.5YR7/6 褐色 (底) 10YR8/2 灰白	やや粗 (2mm、3mm) の法砂、褐色砂粒少量・1mm の白、黒、灰色砂粒少量・白、灰、赤褐色微細粒多量含む)	やや不良	小片	
14	16	14	1区II(東西一岳)	粘土探鉱土坑	土師器	黄	(19.2)	残 4.8		(内) 10YR8/4 浅黄褐色 (外) 10YR8/3 浅黄褐色 (底) 7.5YR6/6 浅黄褐色	やや粗 (1mm の白、灰、黒、赤褐色砂粒、多く含む)	不良	小片	
14	17	14	1区I東	粘土探鉱土坑	土師器	黄	(16.0)	残 6.4		(内) 5YR6/4 にふい・黄褐色・10YR5/2 灰黄褐色 (外) 2.5YR7/4 浅赤褐色・10YR4/2 灰黄褐色 (底) 2.5YR4/6 赤褐色	粗 (3mm の白、灰色砂粒少量・2mm の白、灰、黒、赤褐色砂粒少量 1mm の白、灰、褐色微細粒多量含む)	良好	15%	

採出 場所 番号	国取 番号	地区名	産地	種類	用途	法量(1) 10kg単位				色調	粘土	構成	残存率
						口徑	断面	底・高台 径	その他				
13	18	14	1区1西	粘土土器土坑	土師器	甕	(14.9)	残 8.4		(内) 10YR8/2 灰白・2.5Y7/3 浅黄 (外) 2.5Y7/4 浅黄 (断) 10YR8/2 灰白	やや粗 (1mm) の白、黒色砂粒、白色微細粒多量含む	やや不良	小片
13	19	15	1区1東	粘土土器土坑	土師器	甕	(18.0)	残 15.8		(内) 10YR8/2 灰白 (外) 7.5YR6/4 に近い・暗・7.5YR8/3 浅黄 (断) 7.5YR8/2 灰白	粗 (4mm) の白、黒灰色砂粒少量・3mm の白、灰色砂粒少量・2mm の白、黒、灰色砂粒多量、良好 1mm の白、灰、褐色砂粒多量・白、黒、赤褐色微細粒多量含む	良好	52%
17	20	15	1区	第3a層	土師器	小皿	(10.15)	2.0		(内) 7.5YR7/4 に近い・暗・2.5Y8/3 浅黄 (外) 10YR8/4 浅黄・5YR7/4 に近い・暗 (断) 7.5YR6/4 に近い・暗	やや粗 (1mm) の白、黒、灰色砂粒少量・白、黒色微細粒多量含む	やや不良	80%
17	21	15	1区II	021	瓦	瓦瓦			タテ最大 8.7 ヨコ最大 11.1 厚み最大 2.1	(内) N6/0 灰 (外) N5/0 灰 (断) N6/0 灰	やや粗 (3-3.5mm) の白、灰色砂粒少量・2mm の白色砂粒多量・白、灰色微細粒多量含む	良好	20%
17	22	15	1区	024	瓦器	横 (高台部)	残 0.9	高台径 (4.8)		(内) 5Y4/1 灰・2.5Y7/4 浅黄 (外) 10YR7/6 明黄 (断) 2.5Y8/1 灰白	やや粗 (1、黒色微細粒多量含む)	不良	小片
17	23	15	1区I	024	石製品				タテ 3.1 ヨコ 3.3 厚み 1.6	(内) 5Y7/1 灰白 (外) 5Y7/1 灰白 (断) 5Y7/1 灰白	記入なし		
17	24	15	1区I	026	瓦器	横 (高台部)	残 1.3	高台径 (5.1)		(内) 5Y4/1 灰 (外) 5Y4/1 灰 (断) 5Y8/1 灰白	やや粗 (1mm) の赤褐色砂粒、ごく僅か・白、灰色微細粒多量含む	やや不良	小片
17	25	15	1区1東	027	土師器	羽釜	(28.6)	残 7.4		(内) N2/ 黒 (外) N2/ 黒・2.5Y8/2 灰白 (断) N2/ 黒	骨 (2mm 以下の長石、チャーム、を少量含む)	良	口縁部・20%
17	26	15	1区II	第3a層	瓦器	小皿	(8.2)	1.45		(内) 2.5Y8/1 灰白 (外) 2.5Y8/1 灰白 (断) 2.5Y7/1 灰白	粗 (3mm・2mm) の白色砂粒少量・1mm 以下の白、黒、褐色微細粒多量含む	やや不良	45%
17	27	15	1区1西 1区1西	第3a層	土師器	(高台部)	残 1.7	高台径 13.2		(内) 10YR7/4 に近い・黄・N3/0 粗灰 (外) 5YR6/4 に近い・暗 (断) 10YR6/4 に近い・黄	粗 (4.5mm) の淡灰色砂粒・1.7・2-3mm の白、黒灰、褐色砂粒少量・1mm の黒、灰色砂粒少量・白、黒、赤褐色微細粒多量含む	やや不良	高台部のみ 90%
26	28	16	2区II	004	瓦器	横 (高台部)	(14.8)	3.8		(内) 2.5Y8/4 浅黄・10YR7/6 明黄 (外) 5Y5/1 灰 (断) 2.5Y8/1 灰白 (断) 10YR7/6 明黄	粗 (5mm) の白色小石屑・2mm の白、灰、褐色砂粒少量・1mm の白色砂粒少量・白、灰、褐色微細粒多量含む	不良	25%
26	29	16	2区II	009	瓦器	鉢鉢	(30.0)	残 5.7		(内) 10YR4/1 褐灰・10YR5/2 灰黄 (外) 10YR4/1 褐灰・10YR6/1 灰 (断) 2.5Y8/1 灰白	粗 (4mm) の黒、灰色砂粒少量・3mm の灰、黒、灰色砂粒少量・白、黒、灰色微細粒多量含む	やや不良	15%
26	30	16	2区II	012	瓦器	横 (高台部)	(16.2)	4.0		(内) 5Y7/1 灰白 (外) 5Y7/1 灰白・7.5Y5/1 灰 (断) 5Y8/1 灰白	粗 (5mm) の灰褐色砂粒・1.2mm の淡灰白砂粒・僅か 1mm の白、黒色砂粒少量・白、黒、灰色微細粒多量含む	不良	40%
26	31	16	2区I・II	017	瓦器	横 (高台部)	15.3	4.5		(内) 7.5YR8/2 灰白・5YR8/4 浅黄 (外) 5YR8/4 浅黄・10YR6/1 褐灰 (断) 10YR6/4 に近い・黄	粗 (2-2.5mm) の白、黒、灰色砂粒少量・1mm の灰、褐色微細粒多量含む	やや不良	90%
26	32	16	2区II	001	瓦器	横 (口縁部)	(14.4)	残 2.5		(内) 5Y5/1 灰 (外) 5Y5/1 灰 (断) 5Y8/1 灰白	やや粗 (1mm) の灰色砂粒・僅か・白、灰色微細粒多量含む	良好	小片
26	33	16	2区I	001	瓦器	横 (高台部)	残 1.4	高台径 (6.4)		(内) 2.5Y5/1 黄灰 (外) 7.5YR5/1 褐灰 (断) 7.5YR6/1 褐灰	粗 (1mm) の白色砂粒・白色微細粒多量含む	良好	小片
26	34	16	2区II	004	瓦器	横 (口縁部)	(14.0)	残 3.3		(内) N6/0 灰・N6/0 灰白 (外) 5Y7/1 灰白・5Y6/1 灰 (断) 5Y8/1 灰白	やや粗 (1mm) の灰色砂粒・白色微細粒多量含む	良好	小片
26	35	16	2区II	004	黒色土 (高台部)	高台部	残 1.4	高台径 (7.0)		(内) 10YR4/1 褐灰 (外) 2.5Y7/2 灰黄 (断) 7.5YR6/6 暗	粗 (2mm) の白、黒色砂粒多量・1mm 白色砂粒少量・白、灰、褐色微細粒多量含む	やや不良	小片
26	36	16	2区II	007	瓦器	(高台部)	残 2.1	高台径 (6.5)		(内) 2.5Y6/2 灰黄 (外) 7.5YR7/6 暗・7.5YR6/4 に近い・暗 (断) 10YR8/2 灰白	粗 (2mm) の黄灰色微細粒・1mm の白、灰色微細粒多量含む	良好	小片
26	37	16	2区II	009	瓦器	鉢鉢	残 3.8			(内) 5Y5/1 灰 (外) 5Y5/1 灰 (断) 5Y8/1 灰白	やや粗 (灰、黒、白色微細粒多量含む)	やや不良	小片
26	38	16	2区	013	瓦器	横 (高台部)	(16.0)	残 3.01		(内) N5/0 灰 (外) N4/0 灰 (断) 5Y8/1 灰白	やや粗 (2mm) の灰色砂粒・1.7・白、灰色微細粒少量含む	良好	小片

国取 番号	地区名	道幅	種類	法量	口径	高さ	底・高台	その他	色調	散土	構成	残存率
26 39 16	2区Ⅱ	016	土師器	小皿	(10.0)	残 2.0			(内) 5YR5/8 明赤褐 (外) 5YR7/6 褐 (底) 5YR6/8 褐	やや粗 (1mm) の灰色砂 粒少量・白、灰、赤褐色 微細粒多量含む	やや 不良	小片
26 40 16	2区Ⅰ	019	瓦	平瓦				タテ5.0 横8.0 厚み2.0	(表) 7.5YR7/2 明黄褐 (裏) 7.5YR6/3 に近い・褐・ 10YR6/1 褐灰 (底) 5YR7/6 褐	粗 (2.5mm) の白、灰、黒、 褐色砂粒少量・1mm 以下 の白、灰、黒、褐、赤 褐色砂粒多量含む	良好	小片
26 41 16	2区Ⅱ	第2巻	青磁		(16.0)	残 3.2			(内) 7.5Y7/2 灰白 (外) 7.5Y7/2 灰白 (底) 5YR/1 灰白	滑	良好	小片
26 42 16	2区Ⅱ西 側	第2巻	瓦葺	羽釜		残 5.35			(内) 2.5YR/1 黄灰・2.5Y7/1 灰白 (外) 5Y7/1 灰白 (底) 2.5YR/4 浅黄・5Y7/1 灰白	やや滑 (白、灰色微細粒 多量含む)	やや 不良	小片
26 43 16	2区Ⅱ東 側	第2巻	瓦葺	横 (高 台部)		残 0.9	高台 径 (5.6)		(内) N5/0 灰 (外) N5/0 灰 (底) 2.5YR/1 灰白	やや滑 (白色微細粒少量 含む)	良好	小片
26 44 16	2区Ⅱ西 側	第2巻	瓦葺	小皿	(8.0)	1.0			(内) 10YR8/4 浅黄褐 (外) 10YR8/4 浅黄褐 (底) 10YR8/2 灰白	やや粗 (1mm) の灰褐色 砂粒少量・白、灰色微細 粒多量含む	やや 不良	15%
26 45 16	2区Ⅱ東 側	第2巻	瓦葺	横 (高 台部)		残 0.6	高台 径 (3.6)		(内) 5Y5/2 灰オリーブ (外) 5Y7/1 灰白 (底) 5YR/2 灰白	やや粗 (1mm) の灰色砂 粒少量・白、灰色微細粒 少量含む	やや 不良	小片
26 46 16	2区Ⅱ東 側	第2巻	瓦葺	小皿	(9.0)	1.2			(内) 5Y3/1 オリーブ黒 (外) 5Y3/1 オリーブ黒 (底) 5YR/1 灰白	やや滑 (灰色微細粒少量 含む)	やや 不良	小片
26 47 16	2区Ⅱ東 側	第2巻	瓦葺	揺鉢		残 3.3			(内) 2.5Y7/2 灰黄・5Y4/1 灰 (外) 5Y4/1 灰・2.5Y7/4 浅黄 (底) 2.5YR/2 灰白	やや粗 (2.5mm) の灰色 砂粒 1.7・灰、白色微細 粒多量含む	やや 不良	小片
26 48 16	2区Ⅱ東 側	第2巻	瓦葺	揺鉢		残 5.1			(内) 5Y4/1 灰 (外) 5Y4/1 灰 (底) 5YR/2 灰白	やや粗 (2mm) の灰色砂 粒少量・白、黒、灰色微 細粒多量含む	良好	小片
26 49 16	2区Ⅰ東 側	第2巻	土師器	小皿	(7.8)	1.1			(内) 5YR6/6 褐 (外) 5YR6/6 褐 (底) 5YR6/6 褐	粗 (4mm) の灰褐色砂粒 1.7・2mm の白、灰褐色 砂粒少量・1mm の白、灰、 赤褐色砂粒少量・白、灰、 赤褐色微細粒多量含む	やや 不良	小片
32 50	3区	135-e	瓦葺	横 (高 台部)		残 1.6	高台 径 (3.0)		(内) 7.5Y5/1 灰 (外) 7.5Y3/1 灰 (底) N8/0 灰白	やや滑 (1mm) の灰色砂 粒少量含む	良好	小片
32 51	3区Ⅱ	135-f	瓦葺	横 (高 台部)		残 0.9	高台 径 (5.2)		(内) 7.5Y5/1 灰 (外) 5YR/1 灰白・5Y5/1 灰 (底) 5YR/1 灰白	粗 (灰、黄褐色微細粒 多量含む)	良好	小片
32 52 18	3区Ⅱ	135-f	瓦葺	横 (高 台部)		残 1.1	高台 径 (5.0)		(内) 5YR/1 灰白・2.5Y7/6 明黄褐 (外) 10Y4/1 灰 (底) 5YR/1 灰白	粗 (1.5mm) の灰褐色砂 粒少量・灰、灰色微細粒 多量含む	良好	小片
32 53	3区Ⅰ	135-b	瓦葺	横 (高 台部)		残 0.8	高台 径 (5.0)		(内) 5YR7/4 に近い・褐 (外) 2.5YR7/6 褐・2.5YR5/1 赤灰 (底) 5YR8/4 灰褐	粗 (2mm) の黒、黄灰色 砂粒少量・白、灰色微細 粒多量含む	不良	小片
32 54	3区	135-c	瓦葺	横 (高 台部)		残 1.4	高台 径 (6.6)		(内) 7.5Y7/1 灰白 (外) 7.5Y7/1 灰白 (底) 2.5YR/6 明黄褐	滑 (白、灰色微細粒少量 含む)	良好	小片
32 55	3区Ⅰ	135-d	瓦葺	横 (高 台部)		残 1.2	高台 径 (7.2)		(内) 7.5Y4/1 灰 (外) 7.5Y3/1 オリーブ黒 (底) 5Y7/1 灰白	やや滑 (3mm) の灰色砂 粒ごく少量・2mm の白、 灰色砂粒少量・白色微細 粒含む	良好	小片
32 56	3区Ⅱ	135-c	瓦葺	横 (高 台部)		残 0.7	高台 径 (4.4)		(内) 2.5YR/3 に近い・黄 (外) 2.5YR/1 灰白 (底) 2.5Y3/3 黄褐	粗 (2mm) の白、灰、灰 黄色砂粒少量・白、黒、 灰色の微細粒多量含む	良好	小片
32 57 18	3区Ⅱ	135-c	瓦	平瓦				タテ最大 6.6 横最大 9.7 厚み最大 1.3	(内) 5Y6/1 灰・2.5Y5/1 黄灰 (表) 7.5Y3/1 オリーブ黒・ 5YR/1 灰 (底) 5Y7/1 灰白・2.5Y4/1 黄灰	やや粗 (3mm) の白色砂 粒少量・1mm の白、黄 灰色砂粒少量・白、灰色 微細粒多量含む	良好	小片
32 58 17	3区Ⅱ	131 アエ5	瓦葺	横	15.0	4.15			(内) N7/0 灰白・N4/0 灰 (外) N7/0 灰白・N4/0 灰 (底) N8/0 灰白	やや粗 (3mm) の白色砂 粒少量・2mm の白、灰 色砂粒少量・1mm 以下 の白色砂粒、微細粒少量 含む	良好	60%
32 59	3区Ⅱ	131	瓦葺	横 (高 台部)		残 2.3	高台 径 (4.0)		(内) 5Y7/1 灰白 (外) 5Y7/1 灰白 (底) 5Y5/2 灰オリーブ	粗 (白、灰色微細粒多量 含む)	良好	小片
32 60 18	3区Ⅱ	131	瓦葺	片口鉢 (22.8)		残 7.3			(内) 5YR/1 灰白・5Y7/1 灰白 (外) 2.5YR/1 灰白 (底) 5YR/1 灰白	粗 (4.5mm) の白、灰色 砂粒少量・3mm の灰白 砂粒少量・1.2mm の白、 黒、灰色微細粒多量含む	やや 不良	15%
32 61 17	3区Ⅱ	129-a	瓦葺	横	(16.0)	6.45	高台 径 (6.8)		(内) N8/0 灰白・10Y4/1 灰 (外) N4/0 灰 (底) 7.5Y7/1 灰白	やや粗 (3mm) の白色砂 粒少量・2mm の灰、黒、 灰色微細粒多量含む	不良	65%
32 62 17	3区Ⅱ	129-a	瓦葺	横		残 3.8	高台 径 6.4		(内) N5/0 灰 (外) N7/0 灰白・N4/0 灰 (底) N8/0 灰白	やや粗 (3mm) の灰色砂 粒少量・白、灰色微細粒 少量含む	良好	40%

探検 番号	遺物 番号	地区名	通称	種類	器種	法量 (口) は単位cm				色調	粘土	出土	構成	残存率
						口径	器高	底・高台径	その他					
32	63	17	3区Ⅲ	129e-fc ア デ3・アデ7	瓦器	桶	(14.6)	3.3		(内) 5Y7/1 灰白 (外) 7.5Y7/1 灰白・7.5Y6/1 灰 (底) 5Y7/1 灰白	やや粗 (3mm) の白色砂 粒・2mm の白色色砂粒 をばらばら・1mm の 白・灰色色砂粒少量・白・ 灰色微細粒多量含む	良好	30%	
32	64	17	3区Ⅲ	129e	瓦器	桶	(14.0)	4.5	高台径 (3.0)	(内) 5Y5/1 灰 (外) 5Y5/1 灰・5Y6/1 灰 (底) 5Y7/1 灰白	やや細 (1mm 以下の黒色 砂粒・少量含む)	良好	52%	
32	65	18	3区Ⅲ	129c	瓦器	桶(高 台部)	残1.3		高台径 (3.2)	(内) 5Y3/1 灰・5Y8/1 灰白 (外) 5Y5/1 灰・5Y8/2 灰白 (底) 2.5Y7/2 灰黄	粗 (5mm) の灰色色砂粒 1つ・2.5mm の白・灰色 色砂粒多量・白・黒・褐色 微細粒多量含む	不良	小片	
32	66	18	3区Ⅲ	129h	土師器	皿	(14.0)	残3.6		(内) 7.5Y8/7/4 に近い黄 (外) 7.5Y8/7/4 に近い黄 (底) 7.5Y8/7/4 に近い黄	粗 (5mm) の灰色色砂粒 1つ・1mm の白・褐色色砂 粒少量・1-3mm の白・不 良・明赤灰・暗赤褐色砂 粒多量含む	不良	20%	
32	67	18	3区Ⅲ	129e	土師器	鉢	17.6	6.8		(内) 10YR8/2 灰白 (外) 10YR8/2 灰白 (底) 10YR7/2 に近い黄褐色	粗 (3mm 以下のチャート ・石灰・タマリ線を多 く含む)	良好	52%	
32	68		3区Ⅲ	127	瓦器	桶(高 台部)	残0.85		高台径 (5.2)	(内) 10Y4/1 灰 (外) 5Y5/1 灰 (底) 5Y8/1 灰白	やや粗 (1mm) の灰色色 砂粒少量・白・灰色微細 粒を含む	良好	小片	
32	69		3区Ⅲ	123	瓦器	桶	(14.0)	残3.8		(内) 10Y5/1 灰 (外) 10Y5/1 灰 (底) 5Y8/1 灰白	やや粗 (3mm) の灰色色 砂粒少量・1.5mm の黒色 色砂粒少量・黒・灰色微 細粒を含む	良好	小片	
32	70		3区Ⅲ	123	瓦器	桶	(13.2)	残2.6		(内) 5Y8/0 灰白・5Y5/1 灰 (外) 5Y8/0 灰白・5Y5/1 灰 (底) 2.5Y7/3 灰黄	粗 (2mm) の白・灰・褐色 色砂粒少量・1mm 以下 の白・灰色色砂粒多量含む	やや不良	15%	
32	71	18	3区Ⅲ	123	瓦	平瓦				タテ最大 6.7 ヨコ (裏) 7.5Y3/1 オリーブ黒 最大 4.7 (表) 7.5Y3/1 オリーブ黒 厚み最大 (裏) 5Y8/1 灰白 1.5	やや粗 (2.5x7mm) の灰色 小石1つ・1mm の灰色 色砂粒少量・白・灰色微 細粒多量含む	良好	小片	
32	72		3区Ⅲ	123	瓦	平瓦				タテ最大 4.9 ヨコ (裏) 5Y7/1 灰白 最大 5.0 (表) 7.5Y4/1 灰 厚み最大 (裏) 5Y7/1 灰白 1.2	やや粗 (灰・赤褐色微細 粒を含む)	良好	小片	
32	73	17	3区Ⅲ	123	土師器	片口鉢 (26.25)	14.0		高台径 13.75	(内) N2/黒・2.5Y6/3 に近い黄・ 10YR8/3 灰黄 (外) 2.5Y6/4 に近い黄・N2/黒 (底) 5Y8/5/1 黄灰	粗 (5mm 以下のチャート ・石灰を多く含む)	良好	70%	
32	74		3区Ⅲ	122	瓦器	桶(高 台部)	残1.1		高台径 (4.5)	(内) 5Y7/1 灰白・5Y8/2 灰白 (外) 5Y4/1 灰・ 10YR6/4 に近い黄褐色 (底) 10YR5/6 黄褐色	粗 (2mm) の白・灰色色 砂粒少量・1mm の白・黒・やや 赤褐色微細粒・灰色微細 粒を含む	不良	小片	
32	75	18	3区Ⅲ	122	瓦器	桶(高 台部)	残1.6		高台径 (6.2)	(内) 5Y6/0 灰 (外) 5Y8/0 灰白 (底) 5Y8/0 灰白	やや粗 (1mm) の灰・褐色 色砂粒少量・黒・褐色・赤 褐色微細粒を含む	良好	小片	
32	76	18	3区Ⅲ	120	瓦器	桶(高 台部)	残0.8		高台径 4.55	(内) 2.5Y7/1 灰白 (外) 2.5Y7/1 灰白・5Y7/1 灰白 (底) 5Y6/2 灰オリーブ	粗 (2mm) の白色色砂粒少 量・1mm の白色色砂粒少 量・白・黒・褐色微細粒多 量含む	良好	小片	
33	77	17	3区Ⅲ	119d 119c-d アデ6	瓦器	桶	(16.0)	5.1	高台径 (5.4)	(内) 5Y7/1 灰白・7.5Y6/1 灰 (外) 5Y7/1 灰白・5Y5/1 灰 (底) 5Y8/1 灰白	粗 (3mm) の灰色色砂粒少 量・2mm の灰色色砂粒少 量・1mm 以下の白・灰色 色砂粒多量含む	やや不良	30%	
33	78		3区Ⅲ	119a	瓦器	桶(高 台部)	残1.2		高台径 (5.0)	(内) 5Y7/3 灰黄・N4/0 灰 (外) 5Y4/1 灰 (底) 5Y7/2 灰白	やや粗 (白・灰色微細粒 多量含む)	良好	小片	
33	79		3区Ⅲ	119a	瓦器	桶(高 台部)	残1.3		高台径 (4.4)	(内) 5Y5/1 灰 (外) 5Y5/1 灰 (底) 10YR8/2 灰白	やや粗 (1mm) の灰色色砂 粒少量・白・灰色微細粒 多量含む	やや不良	小片	
33	80		3区Ⅳ	103	瓦器	桶(高 台部)	残2.2		高台径 (4.0)	(内) 5Y5/0 灰 (外) 5Y6/0 灰 (底) 2.5Y7/3 灰黄	密 (白・灰色微細粒少量 含む)	良好	小片	
33	81		3区Ⅳ	101	瓦器	小皿 (8.0)	残1.55			(内) 2.5Y5/1 黄灰 (外) 5Y4/1 灰 (底) 2.5Y8/1 灰白	密 (記入なし)	良好	20%	
33	82		3区Ⅳ	101	瓦器	桶(高 台部)	残1.9		高台径 (4.3)	(内) 10Y4/1 灰 (外) 7.5Y5/1 灰 (底) 5Y8/1 灰白	密 (記入なし)	やや不良	小片	
33	83	18	3区Ⅳ	101	瓦器	桶(高 台部)	残1.15		高台径 4.8	(内) 2.5Y7/2 灰黄・2.5Y4/1 黄灰 (外) 2.5Y4/1 黄灰 (底) 10YR5/3 に近い黄	やや粗 (1mm 以下の白・ 灰色色砂粒・白・黒・褐色 微細粒を含む)	やや不良	高台部のみ	
33	84	18	3区Ⅳ	101	瓦器	桶(高 台部)	残1.3		高台径 4.9	(内) 5Y6/2 灰オリーブ (外) 2.5Y8/3 灰黄 (底) 7.5Y5/4 に近い黄	粗 (2mm) の白・灰色色 砂粒少量・1mm の白・淡 灰色色砂粒・白・灰・褐色 微細粒多量含む	不良	高台部のみ 80%	
33	85	18	3区Ⅴ	098	瓦器	羽釜(口 縁部)	(26.0)	残4.0		(内) 2.5Y7/1 灰白 (外) 2.5Y7/2 灰黄 (底) 2.5Y7/4 灰黄	やや粗 (白・灰色微細粒 を多く含む)	やや不良	小片	

都道府県 番号	道路 番号	地区名	道幅	種類	形状	法量 (1) 単位元m ²				色調	散土	構成	残存率
						口徑	断面	底・高台	その他				
33	86	18	3区V	096	瓦	平瓦				タテ組大 3.8mm 最大6.3 (表) N6/O灰 厚み大 (裏) N6/O灰 2.1	やや粗 (2.5mmの白色 砂粒僅か・1mmの白色 砂粒少量・白、灰色微細 粒多量含む)	良好	小片
33	87		3区V	093-h	瓦器	櫛 (高 台部)	残 1.4	高台 径 (6.2)		(内) 7.5Y4/1 灰 (外) 7.5Y4/1 灰 (裏) 5Y8/4 浅黄	粗 (1mm以下の灰、褐色 砂粒多く含む)	良好	小片
33	88	18	3区V	093-i	土師器	羽釜(口 縁部)	(24.6) 残 2.9			(内) 7.5Y8/6 褐 (外) 10YR7/3 にぶい黄 粒 10YR5/4 にぶい黄 粒 (裏) 10YR7/3 にぶい黄 粒 褐色微細粒多量含む	粗 (4mmの灰色色砂粒 少量・2mmの白、黄、赤 褐色色砂粒少量・白、灰、不良 褐色微細粒多量含む)	やや 不良	小片
36	89	18	3区II	097	瓦瓦	羽釜 (23.8)	(20.0)			(内) N5/灰・2.5Y6/1 黄灰 (外) N4/灰・N7/灰 (裏) 2.5Y7/2 浅黄	やや粗 (2mm以下の チャート、長石、を多く 含む)	良	口縁部 25%
36	90	17	3区I・3 区I東3 区IーII	097	瓦瓦	碁鉢	(33.0)	13.6	底 部 9.55	(内) N3/粗灰・N7/灰白 (外) N6/灰 (裏) N7/灰白	密 (2mm以下のチャート、 長石、を少量含む)	良	40%
36	91	18	3区IV	087	瓦器	皿	(12.0)	2.5		(内) 2.5Y8/1 灰白・2.5Y6/1 黄灰 (外) 2.5Y8/3 浅黄・2.5Y6/1 黄灰 (裏) 2.5Y8/3 浅黄・2.5Y8/1 灰白	粗 (5.5mmの黒色小石 1.7・2mmの灰、黒色砂 粒少量・1mm以下の黒、 白、灰、褐色微細粒多量含む)	やや 不良	30%
36	92	20	3区I	087	瓦器	櫛 (高 台部)	残 2.4	高台 径 6.0		(内) N5/O 灰 (外) N5/O 灰 (裏) 5Y7/1 灰白	密(白色微細粒を含む)	良好	小片
36	93		3区I・ 086-c	瓦器	櫛 (口 縁部)	(14.0)	残 3.8			(内) N8/O 灰白・5Y5/1 灰 (外) N8/O 灰白 (裏) 2.5Y7/3 浅黄	粗 (2mmの淡灰色色砂 粒少量・白、灰色微細粒 多量含む)	不良	小片
36	94	20	3区I・ II	186-c	瓦器	櫛 (高 台部)	残 1.0	高台 径 (5.6)		(内) 10Y4/1 灰 (外) 10Y4/1 灰 (裏) 5Y8/1 灰白	やや粗 (白、灰色微細粒 多量含む)	良好	小片
36	95		3区I・ II	086-c	瓦器	櫛 (高 台部)	残 1.4	高台 径 (7.7)		(内) 10Y4/1 灰 (外) 7.5Y8/6 褐・付着物 (裏) N5/1 灰 (7.5Y8/5 明褐色・付着物) (裏) 5Y7/1 灰白	やや粗 (2mmの灰色微 細粒少量含む)	良好	小片
36	96	19	3区I	086-a	土師器	羽釜 (3.78)	残 5.3			(内) 10YR7/3 にぶい黄 粒 (外) 10YR6/3 にぶい黄 粒 (裏) 10YR8/2 灰白・10YR6/3 にぶい黄 粒 (裏) 10YR7/4 にぶい黄 粒	粗 (8mmの白色小石 1.7・5mmの白、灰、 灰色小石僅か・4mm の淡灰色色砂粒僅か・ 2-3mmの白、灰、褐色 砂粒少量・1mm以下の 白、黒、灰色砂粒多量 含む)	不良	口縁部 の30%
36	97	20	3区I	086-a	土師器	羽釜 (18.0)	残 7.1			(内) 10YR7/4 にぶい黄 粒 (外) 10YR4/1 黄灰 (裏) 10YR8/2 灰白・10YR4/1 周 1mmの白、黒、灰色砂 粒少量	粗 (5mmの淡灰色小石 1.7・3mmの白、灰、 褐色色砂粒少量・2mm の白、灰色色砂粒少量 1mmの白、黒、灰色砂 粒少量)	不良	小片
36	98	19	3区I	086	土師器	羽釜 (19.4)	残 10.3			(内) 10YR7/4 にぶい黄 粒 (外) 2.5Y7/3 浅黄 (裏) 2.5Y7/4 浅黄	粗 (8mmの灰色小石・ 3.5-5mmの白、黒、灰 色砂粒少量・2mmの白、 褐色色砂粒、多量・白、黒、 灰色微細粒多量含む)	良好	15%
36	99		3区I・ II	086-c	瓦	平瓦			タテ組大 横6.9厚 み1.5	5Y5/1 灰 (表) 5Y4/1 灰 (裏) 5Y7/1 灰白	粗 (1mmの白、褐色砂 粒少量・白、黒、灰色微 細粒多量含む)	良好	小片
36	100	19	3区I・ II	086-c	瓦瓦	片口鉢 (22.0)	残 7.0			(内) 5Y7/1 灰白・5Y5/1 灰 (外) 5Y7/1 灰白・5Y3/1 灰 (裏) 5Y7/1 灰白	やや粗 (2.5mmの白、 褐色色砂粒少量・1mm 以下の白、灰色色砂粒 少量・白、灰色微細粒 多量含む)	良好	20%
36	101	20	3区II	085-a	瓦器	櫛 (高 台部)	残 0.9	高台 径 (4.8)		(内) 2.5Y7/1 灰白・2.5Y6/1 黄灰 (外) 2.5Y7/1 灰白 (裏) 2.5Y8/1 灰白	粗 (4mmの褐色色砂粒 1・1mmの褐色色砂粒少 量・黒、灰色微細粒多量 含む)	不良	高台部 のみ
36	102		3区II	085-a	瓦器	櫛 (高 台部)	残 1.5	高台 径 (6.3)		(内) 2.5Y8/1 灰白 (外) 2.5Y7/3 浅黄・2.5Y6/2 灰黄 (裏) 2.5Y7/4 浅黄	やや粗 (白、灰、黒、赤 褐色微細粒多く含む)	不良	小片
36	103	19	3区I・ II	085-aアゼ	瓦瓦	羽釜 (24.0)	残 4.7			(内) 10YR6/1 黄灰・2.5Y4/1 黄灰 (外) 2.5Y6/1 黄灰・2.5Y7/1 灰白 (裏) 2.5Y4/1 黄灰 (裏) 10YR7/6 にぶい黄 粒	粗 (4・2mmの白色砂 粒1.7・2mmの白、黄、 赤褐色色砂粒僅か・1mm 以下の灰、黒、白色砂 粒含む)	やや 不良	口縁部 の20%
36	104	19	3区II	085-b	瓦瓦	羽釜 (11.0)	残 4.5			(内) N5/O 灰 (外) N5/O 灰 (裏) 5Y7/1 灰白	やや粗 (2-2.5mmの白、 灰色砂粒少量・1mmの 褐色色砂粒僅か・白色微 細粒多量含む)	良好	小片
36	105	20	3区II	085-b	瓦瓦	羽釜 (22.0)	残 4.1			(内) 5Y7/1 灰白 (外) 5Y3/1 灰 (裏) 5Y7/1 灰白	粗 (2mmの白、灰色色 砂粒・1mmの白、灰色 砂粒・白色微細粒多量 含む)	良好	小片

種別 番号	建物 番号	地区名	道幅	種類	部材	法面(口)は元線m				色調	附土	構成	残存率
						口径	部高	底・高台 径	その他				
36	106	19	3区Ⅱ	085-b	土師器 鉢鉢	26.85	14.0	底 径 10.4	(内) 5YR6/4 に ぶ い 黄 橙・ 10YR7/1 灰白 (外) 2.5YR7/4 に ぶ い 橙・ 10YR7/1 灰白 (底) 2.5YR7/3 に ぶ い 黄 (内) 2.5Y7/4 灰黄 (外) 5Y7/3 浅黄・5Y4/3 暗オリー ブ (底) 2.5Y8/1 灰白	やや密 (5mm 以下の チャート、長石を少量含 み、2mm 以下のチャート、 長石、クサリ根を多く 含む)	良	80%	
36	107	20	3区Ⅱ	085-b 取上 NO.土器1	陶器		残 1.7	底 径 (10.0)	(内) 2.5Y8/1 灰白	密 (褐色微細粒を含む)	良好 小片		
36	108	20	3区Ⅳ	083	瓦器 横(高 台部)		残 0.8	高 台 径 (3.6)	(内) 2.5Y3/1 オリーブ黒 (外) 5Y6/1 灰 (底) 2.5Y8/1 灰白	やや粗 (1mm の灰白色 砂粒少量・白色微細粒多 く含む)	やや 高台部 不良 のみ		
37	109	19	3区Ⅲ	081	瓦器 羽釜 (31.4)		残 6.6		(内) 2.5Y8/2 灰白・10Y4/1 灰 (外) 2.5Y7/1 灰白・10Y4/1 灰 (底) 2.5Y8/1 灰白	やや密 (1-2mm の白、 黒、灰色砂粒多く含む)	良好 小片		
37	110	19	3区Ⅲ	081	瓦器 鉢鉢	29.8	14.8	底径 9.0	(内) 2.5Y7/1 灰白・10YR6/1 暗灰 (外) 2.5Y7/1 灰白・N6/ 灰 (底) 2.5Y5/2 暗灰黄	粗 (1cm 以下のチャート、 を少量含む、3mm 以下のチャート、長石を 多く含む)	良	70%	
37	111	20	3区Ⅲ・ Ⅳ	080	瓦器 横(高 台部)		残 1.5	高 台 径 (5.0)	(内) N5/O 灰 (外) N5/O 灰 (底) 5Y8/1 灰白	密	良好 高台部 小片		
37	112	20	3区Ⅲ・ Ⅳ	074	瓦器 横(高 台部)		残 1.0	高 台 径 (6.0)	(内) 5Y4/1 灰 (外) 5Y5/1 灰 (底) 5Y8/1 灰白	やや密 (灰、灰色微細粒 多く含む)	良好 小片		
37	113	19	3区Ⅲ	073	瓦器 横 (13.7)		3.2		(内) 2.5Y8/1 灰白 (外) 5Y7/1 灰白 (底) 10YR7/4 に ぶ い 黄橙	粗 (5 × 9mm の灰白色 小石 1 × 4mm の白、 褐色砂粒少量・1mm 以下 の白、灰、黒色砂粒 多量含む)	不良 15%		
37	114	3区Ⅲ	073-a	瓦器 横(高 台部)		残 0.7	高 台 径 (4.0)		(内) 2.5Y8/2 灰白 (外) 2.5Y8/3 浅黄 (底) 2.5Y6/6 明黄褐色	やや密 (白、灰、褐色微 粒多く含む)	良好 小片		
37	115	3区Ⅳ	073-c	瓦器 横(高 台部)		残 1.25	高 台 径 (5.8)		(内) 2.5Y6/1 灰 (外) 2.5Y6/1 灰 (底) 2.5Y6/1 灰	密 (記入なし)	良好 小片		
37	116	20	3区Ⅲ西	2層	土師器 小皿 (8.7)		残 1.3		(内) N3/ 暗灰 (外) N2/ 黒 (底) N8/ 灰白	密 (2mm 以下のチャート、 僅かに含む)	良	20%	
37	117	20	3区Ⅲ西	2層	瓦器 小皿 (8.7)		1.7		(内) N3/ 暗灰・N6/ 灰 (外) N3/ 灰・N6/ 灰 (底) N8/ 灰白	密 (1mm 以下の長石、 を僅かに含む)	良	40%	
37	118	21	3区Ⅳ	2層	土師器 横(高 台部)		残 0.9	高 台 径 (4.4)	(内) 10YR7/4 に ぶ い 黄橙 (外) 5YR6/3 に ぶ い 黄 (底) 5YR5/1 暗灰	密 (1mm 以下の長石、 チャート、クサリ根を少 量含む)	良 高台部 20%		
37	119	19	3区Ⅲ東	2層	瓦器 横	14.2	3.4	高 台 径 3.3	(内) 2.5Y7/4 浅黄・2.5Y5/1 灰 (外) 5Y5/1 灰・10YR6/3 に ぶ い 黄橙 (底) 2.5Y5/4 に ぶ い 黄	やや粗 (3mm の白色砂 粒少量・1mm の白、黒 色砂粒少量・クサリ根を 多量含む、褐色微細粒色砂粒多 量含む)	やや 70%		
37	120	20	3区Ⅲ東	2層	瓦器 横(高 台部)		3.5	高 台 径 (2.8)	(内) N5/ 灰 (外) N8/ 灰白・N5/ 灰 (底) N8/ 灰白	密 (1mm 以下の長石、 チャートを少量含む)	良	10%	
37	121	20	3区Ⅲ西	2層	瓦器 横(高 台部)		残 1.15	高 台 径 (8.8)	(内) N3/ 暗灰 (外) N6/ 灰・N7/ 灰白 (底) 2.5Y6/2 灰黄	密 (1mm 以下のチャート、 長石を少量含む)	良 高台部 85%		
37	122	20	3区Ⅲ西	2層	瓦器 横(高 台部)		残 1.7	高 台 径 (8.6)	(内) N4/ 灰 (外) N4/ 灰・N7/ 灰白 (底) N8/ 灰白	密 (0.5mm 以下の長石、 チャートを僅かに含む)	良 高台部 15%		
37	123	20	3区Ⅲ西	2層	瓦器 横(高 台部)		残 16.0	高 台 径 (5.6)	(内) N6/ 灰・5Y7/1 灰白 (外) 5Y7/1 灰白 (底) 5Y7/1 灰白	密 (2mm 以下のチャート を僅かに含む)	良 高台部 25%		
37	124	20	3区Ⅲ西	2層	瓦器 横(高 台部)		残 0.7	高 台 径 (4.6)	(内) N3/ 暗灰 (外) N2/ 黒 (底) N7/ 灰白	密 (0.5mm 以下の長石、 チャートを僅かに含む)	良 高台部 40%		
37	125	20	3区Ⅲ西	2層	瓦器 横(高 台部)		残 0.9	高 台 径 (4.2)	(内) N8/ 灰白 (外) N8/ 灰白 (底) 2.5Y6/4 に ぶ い 黄	密 (記入なし)	良 高台部 30%		
37	126	20	3区Ⅲ西	2層	瓦器 横(高 台部)		残 0.65	高 台 径 (3.5)	(内) N4/ 灰・2.5Y6/2 灰黄 (外) N5/ 灰・2.5Y6/3 に ぶ い 黄 (底) N8/ 灰白	密 (0.5mm 以下のチャート、 長石を少量含む)	良 高台部 25%		
37	127	21	3区Ⅲ東	2層	瓦器 鉢鉢 (32.8)		残 8.6		(内) 10Y8/2 灰白 (外) N5/ 灰 (底) 10YR8/1 灰白	密 (2mm 以下のチャート、 長石を少量含む)	良 口縁部 15%		
37	128	20	3区Ⅲ東	2層	土師器 羽釜 (23.2)		残 7.2		(内) 2.5Y8/2 灰白 (外) 2.5Y8/2 灰白 (底) 2.5Y6/3 に ぶ い 黄	やや密 (4mm 以下の チャート、長石を多く含 む)	口縁部 5% 以下		
37	129	21	3区Ⅲ	2層	瓦 平瓦				残 存 幅 (凸面) N2/ 黒 8.2 厚み (凹面) N2/ 黒 2.0 (底) N7/ 灰白	密 (1mm 以下の長石、 チャートを少量含む)	良		
37	130	21	3区Ⅲ東	2層	瓦 平瓦				残 存 長さ (凸面) N4/ 灰 6.6 厚み (凹面) N6/ 灰白・N4/ 灰 1.9 (底) N7/ 灰白	密 (2mm 以下の長石、 チャートを少量含む)	良		
37	131	21	3区Ⅲ東	2層	瓦 丸瓦				残 存 幅 (凸面) N6/ 灰 7.0 厚み (凹面) N7/ 灰白 1.9 (底) N7/ 灰白	密 (2mm 以下の長石、 チャートを少量含む)	良		

都道府県 市町村番号	国政 区画番号	地区名	道幅	種類	形状	注記 ① は元/㎡cm				色調	敷土	造成	残存率
						口徑	断面	底・高台 寸	その他				
37	132	21	3区東区	1期	瓦葺	小皿	(7.7)	1.3		(内) N3/船底・2.5Y7/3浅黄 (外) N3/船底・2.5Y8/2灰白 (底) N8/灰白	密(0.5mm以下のチャートを含む)	良	40%
37	133	21	3区西	1期	瓦葺	横(高台部)		残0.7	高台部 (5.0)	(内) N2/黒 (外) N3/船底 (底) N7/灰白	密(0.5mm以下のチャートを含む)	良	高台部 15%
37	134	21	3区東区	1期	瓦葺	羽釜	(23.0)	残5.1		(内) 10Y8/1黒 (外) 2.5Y3/1黒 (底) 10Y5/3に白・黄緑 (内) 2.5Y8/4に白・黄・ 10Y8/4に黒 (外) 5Y8/2灰黄・2.5Y8/4に白 ・黒 (底) 2.5Y8/3に白・黄・黒	やや密(2mm以下の長石、チャートを少量含む)	良	口部部 6%
37	135	21	3区西	1期	陶器	鉢	(27.8)	残4.0			密(1mm以下の長石、チャートを少量含む)	良	口部部 8%
37	136	21	3区東区	1期	瓦	平瓦			残存幅 (凸部) N4/灰 6.7厚み (凹部) N7/灰白・N4/灰 (底) N7/灰白	密(3mm以下のチャートを少量含む)	良		
37	137	21	3区西	1期	瓦製品				長さ7.7 幅2.0厚 み0.95	(内) (内) (外) 10Y8/2灰黄緑 (底) (黒)	記入なし		完形
37	138	21	3区	西側溝	瓦葺	横(高台部)		残1.1	高台部 (4.6)	(内) N4/灰 (外) N7/灰白 (底) N8/灰白	密(0.5mm以下の長石、チャートを少量含む)	良	高台部 30%
37	139	21	3区西	機械掘削	瓦葺	ミニ オの羽 釜?	(10.7)	残2.6		(内) 2.5Y7/4浅黄 (外) 2.5Y7/3浅黄 (底) 2.5Y7/1灰白	密(2mm以下の長石、チャートを少量含む)	良	口部部 10%
41	140	21	4区北4区	066	土師器	甕		残12.2	底 (14.0)	(内) 5Y8/6赤赤 (外) 7.5Y8/6赤 (底) 5Y8/6赤	粗(3.5mmの白、灰、黒色砂粒少量・2mmの白、灰色砂粒少量 1mmの白、黒、灰、赤、赤褐色少量・白、黒色微細砂粒多量含む)	良好	20%
41	141	21	4区	066	陶器	横(高台部)		残2.8	高台部 (3.4)	(内) 7.5Y7/2灰白 (外) 2.5Y7/3浅黄 (底) 2.5Y7/3浅黄	やや密(白、黒色微細砂粒含む)	良好	小片
41	142	21	4区北	近代製作土器	青磁	横(高台部)		残0.8	高台部 (13.7)	(内) 10Y6/2オリーブ灰 (外) 10Y6/2オリーブ灰 (底) N8/0灰	密	良好	小片
41	143	21	4区北	近代製作土器	瓦葺	小皿	(8.5)	1.25		(内) N5/0灰 (外) N4/0灰・N6/0灰 (底) N4/0灰・N6/0灰	粗(4mmの白色砂粒1・2.5mmの白色砂粒1・1mmの白、灰色砂粒少量・白、灰色微細砂粒多量含む)	良好	40%
46	144	22	1区	057	青磁	鉢(底部)		残2.2		(内) 5Y8/2灰オリーブ (外) 5Y8/2灰オリーブ (底) N8/灰白	密	良	底部小片
46	145	22	1区	057	青磁	鉢(底部)		残1.6	高台部 (6.0)	(内) 無釉5Y7/1明オリーブ灰 (外) 無釉2.5Y7/1灰白 (底) N8/灰白	密	良	高台部 小片
46	146	22	1区	057	黒色土	横(高台部)		残1.0	高台部 (5.2)	(内) 10Y8/4/2灰黄緑 (外) 10Y8/4/2灰黄緑 (底) 10Y8/3に黒	密(0.5mm以下白色砂粒含む)	良	高台部 20%
46	147	22	1区	057	土師器	片口鉢 (口縁部)		残3.5		(内) 7.5Y8/4に白・黒 (外) 7.5Y8/6明黄 (底) 7.5Y8/6明黄	やや粗(2mm以下長石・長石、1mm以下褐色砂粒、クサリ砂含む)	良	小片
46	148	22	1区	057	土師器	甕(口縁部)		残4.1		(内) 10Y8/6明黄 (外) 10Y8/6明黄 (底) 10Y8/6明黄	粗(5mm以下長石、4mm褐色小片、1mm以下褐色砂粒含む)	良	小片
46	149	22	1区	057	赤土	甕(口縁部)		残3.6		(内) 2.5Y4/2和灰黄 (外) 10Y8/4黄緑 N3/船底 (底) 7.5Y7/4に白・黒	粗(3mm以下長石、2mm以下長石、褐色砂粒含む)	良	小片
46	150	22	1区	057	瓦製品	(底部)		残0.4		(内) 2.5Y7/1灰白 (外) 2.5Y7/1灰白 (底) N7/灰白	密	良	小片
46	151	22	1区	057	瓦葺	鉢(口縁部)		残4.0		(内) N4/灰 (外) N6/灰 N8/灰白 (底) 10Y8/6明黄	粗(2mm以下長石、灰色砂粒、黒砂含む)	やや軟	小片
46	152	22	1区	057	瓦葺	鉢(口縁部)		残2.6		(内) 10Y8/4/2灰黄緑 (外) 2.5Y6/2灰黄 (底) 10Y8/6明黄	粗(3mm以下長石、2mm以下褐色砂粒含む)	やや軟	小片
46	153	22	1区	057	瓦	平瓦		残4.3		(内) N4/灰 (外) N4/灰 (底) N8/灰白	やや粗(3mm以下長石小石粒、2mm以下長石、褐色砂粒含む)	良	小片
46	154	22	1区	057	瓦製品	釘			厚0.7残 存最大 長さ5.5残 存最大幅 1.1				
46	155	22	1区	058	土師器	片口鉢 (口縁部)		残3.4		(内) 10Y8/6/3に白・黄緑 (外) 10Y8/1灰白 (底) 10Y8/1灰白	やや粗(3mm以下長石、石黄、2mm以下褐色砂粒含む)	良	小片
46	156	22	1区	058	青磁	(底部)		残1.9		(内) N2/灰 (外) N2/灰白	密	良	小片
52	157	22	1区	058	瓦	平瓦		残3.0		(内) N5/灰 (外) N5/灰 (底) N7/灰白	粗(3～6mm灰色小石粒、石粒、2mm以下褐色砂粒、長石、石黄含む)	良	小片

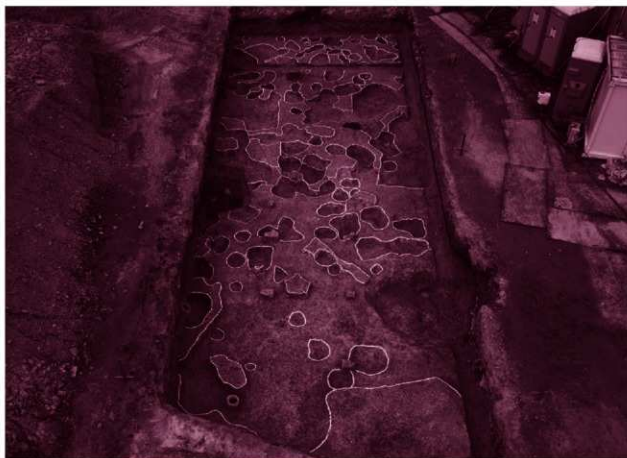
種別 番号	国名 番号	地区名	遺構	種類	部材	法面(口) 辺長・幅・高さ				色調	附土	構成	残存率
						口幅	部高	底・高台 径・高	その他				
46	138	22	1区	063	瓦器	櫛(高台部)	残0.8	高台径 (5.4)	(内) 2.5Y8/2 灰白 (外) 5Y4/2 灰オリーブ (底) 2.5Y8/2 灰白	密(2mm以下右石、1mm以下褐色砂粒含む)	良	高台部 25%	
46	159	22	1区	068	瓦器	櫛(高台部)	残1.3	高台径 (7.0)	(内) N4/灰 (外) 5Y7/1 灰白 (底) N8/灰白	密(1mm以下灰色砂粒含む)	良	高台部 20%	
46	160	22	1区	069	土師器	肥手			残存最大 径2.7 寸最大 幅3.2	(内) 10YR3/1 黄褐色 (底) 10YR6/6 明黄褐色	密	良	肥手部 70%
52	161	22	1区	074	瓦	瓦片	残4.1			(内) N5/灰 (外) N5/灰 (底) N6/灰 7.5YR7/3 にふい槽	粗(5mm以下右石、長石、2mm以下褐色砂粒含む)	良	小片
52	162	22	1区	第16期	瓦器	櫛(高台部)	残1.8	高台径 (5.6)	(内) N5/灰 (外) N5/灰 (底) N7/灰白	密(1mm以下長石含む)	良	高台部 20%	
46	163	22	2区	056	瓦器	皿	(9.4)	残1.8		(内) N4/灰 (外) N4/灰 N3/暗灰 (底) N8/灰白	密(1mm以下褐色砂粒、雲母含む)	良	20%
52	164	2区	056	瓦器	櫛(高台部)		残0.9	高台径 (4.2)	(内) 7.5Y8/1 灰白 (外) 7.5Y7/6 オリーブ黒 (底) 5Y7/2 灰白	やや粗(2mm以下長石、褐色砂粒含む)	良	高台部 20%	
52	165	22	2区	035	瓦器	小皿	(底) 9.0	1.6		(内) N5/0 灰 (外) N6/0 灰 N4/0 灰 (底) N8/0 灰白	密(径1mm以下白色粗砂、白色細砂含む)	良好	30%
52	166	22	2区	037	土師器	羽釜			最大径 3.2 最大 幅3.1	(内) 10YR8/4 浅黄褐色 (外) 7.5YR7/6 褐色 (底) 10YR8/4 浅黄褐色 7.5YR5/6 明黄	やや粗(径4mm以下白・灰色礫、径2mm以下白・灰色細砂多く含む)	良好	小片(つば部)
52	167	22	2区	043	瓦器	櫛(高台部)	残1.0	高台径 (径) 5.5	高台高 0.4	(内) N3/0 暗灰 (外) N3/0 暗灰 (底) 2.5Y7/4 浅黄	やや密(径3mm以下右石・白色礫1個ずつ、径2mm以下白色粗砂含む)	2.5 % (高台部の み)	
52	168	22	2区	047	瓦器	櫛(高台部)	残0.7	高台径 (径) 5.0	高台高 0.3	(内) 5Y4/1 灰 (外) 5Y3/1 灰 (底) 5Y8/1 灰白	密(白色細砂含む)	良好	2.5 % (高台部の み)
52	169	2区	024	瓦片	羽釜(口縁部)		残5.3		最大残存 幅3.4	(内) 2.5YR6/1 赤灰 (外) 2.5YR5/1 赤灰 (底) 2.5YR6/3 にふい槽	粗(3mm以下褐色砂粒少量含む、1.5mm以下白色粗砂粒少量含む)	良好	小片
52	170	23	2区	第2a・2b期	瓦片	鉢縁	残4.2			(内) 7.5Y4/1 灰 (外) 5Y7/1 灰白 (底) 10YR7/6 明黄褐色	やや密(径3mm白色粗砂1個、径2mm以下白色粗砂多く含む)	小片(口縁部)	
52	171	23	2区	第2a・2b期	瓦片	羽釜(口縁部)			残径2.7 残幅2.2	(内) N4/0 灰 (外) N4/0 灰 (底) 2.5Y7/4 浅黄	やや密(径2mm以下白色粗砂含む)	良好	小片(つば部)
52	172	23	2区	第2a・2b期	瓦器	櫛(高台部)	残1.2	高台径 (径) 5.0	高台高 0.4	(内) N3/0 暗灰 (外) N3/0 暗灰 (底) 2.5Y7/4 浅黄	密	2.5 % (高台部の み)	
52	173	23	2区	第2a・2b期	瓦器	櫛(高台部)	残0.8	高台径 (径) 6.0	高台高 0.2	(内) N5/0 灰 (外) 10YR7/6 明黄褐色 (底) 10YR7/6 明黄褐色	密(径2mm白色粗砂、白・灰色細砂少量含む)	2.0 % (高台部の み)	
52	174	2区	第2a・2b期	瓦器	櫛(高台部)		残0.9	高台径 (4.6)		(内) 10YR7/6 明黄褐色 2.5Y7/2 灰黄 (外) 10YR6/6 明黄褐色 5Y6/1 灰 (底) 2.5Y8/4 浅黄	粗(1mm以下白・黒・灰・褐色砂粒多量含む)	4.0 % (高台部の み)	
52	175	23	2区	第2a・2b期	瓦片	肥手			最大径 4.6 最大 幅3.2	(内) N4/0 灰 (外) N4/0 灰 (底) 10YR7/6 明黄褐色	やや密(径4mm以下白・灰色礫、径2mm以下白・灰色細砂やや多く含む)	良好	肥手の み
52	176	2区	第2a・2b期	土師器	羽釜		残4.4		最大残存 幅11.0	(内) 10YR8/6 黄褐色 (外) 7.5YR7/6 褐色 (底) 7.5YR8/4 浅黄褐色	粗(5mm以下灰褐色小石1個、2.5mm以下・灰色砂粒、やや1mm以下白・黒・灰色砂粒多量含む)	不良	小片
52	177	2区	第2a・2b期	瓦片	鉢(口縁部)		残2.4		最大残存 幅4.2	(内) N7/0 灰白 (外) N7/0 灰白 (口縁) 5Y5/1 灰 (底) N7/0 灰白	やや密(2mm白色粗砂少量含む、1mm以下白・灰・褐色砂粒多量含む)	良好	小片
52	178	23	2区	第2a・2b期	青磁	皿	(径) 11.8	1.65	底径(径) 9.0	(内) 5Y6/2 灰オリーブ (外) 5Y7/1 灰白 (底) 5Y8/1 灰白	密	良好	小片
52	179	23	2区	第2a・2b期	白磁	小皿	(底) 5.6	1.0	底径(径) 1.4	(内) 5Y8/1 灰白 (外) 5Y8/1 灰白 (底) 2.5Y8/1 灰白	密	良好	25%
52	180	23	2区	第2a・2b期	瓦片	雲	(32.0)	残8.4		(内) 2.5Y4/3 オリーブ黒 (外) 5Y3/1 オリーブ黒 (底) 10YR6/6 明黄褐色	やや密	良	口縁部 10%
52	181	2区	第2a・2b期	瓦	平瓦				最大残存 径4.4 最大 幅8.5	(内) 7.5Y4/2 灰オリーブ (外) 5Y4/1 灰 (底) 10YR6/6 明黄褐色	粗(3mm以下褐色砂粒少量含む、2.5mm以下白色粗砂粒、1mm以下白・灰色砂粒多量含む)	不良	小片
52	182	23	2区	機械製剤	瓦器	櫛(高台部)	残2.0	高台径 (径) 5.0	高台高 0.4 ~ 0.5	(内) 5Y6/1 灰 (外) 7.5Y4/1 灰 (底) 10YR6/6 明黄褐色	密(径2mm白色粗砂1個、白色細砂少量含む)	良好	100 % (高台部の み)
52	183	23	2区	機械製剤	土師器	鉢縁	(28.0)	15.1	底部径 (10.0)	(内) 7.5YR7/4 にふい槽 (外) 5YR6/6 褐色 (底) 5YR6/6 褐色	粗(4mm以下長石、石片、3mm以下小石、2mm以下褐色砂粒含む)	底部 2.5 % 口縁部 10%	

都道府県 市町村番号	国政 選挙区	地区名	選挙区 番号	種別	候補者	法量 (1) 法量元給cm				色調	土質	地成	残存率
						口徑	高さ	底・高台 径	その他				
58	184	24	3区	005	須恵部 豊	(14.8)	残 9.7			(内) N8/ 灰白 (外) N8/ 灰白 (断) N8/ 灰白 10YR7/4 にふい、黄 土	密 (0.5mm以下褐色砂粒 含む)	軟	口縁部 20%
58	186	23	3区	008	須恵部 豊	14.6	残 26.6			(内) 10YR8/1 灰白 7.5YR6/8 橙 (外) 10YR8/1 灰白 (断) 10YR8/1 灰白 7.5YR6/8 橙	粗 (3 ~ 8mm灰色小石粒、 2mm以下灰色・褐色砂粒 含む)	不良	60%
58	188	24	3区	011	須恵部 豊	(16.0)	残 8.3			(内) N8/ 灰白 (外) N8/ 灰白 (断) N8/ 灰白 10YR7/4 にふい、黄 土	粗 (3 ~ 4mm小石粒、2 mm以下砂粒含む)	軟	口縁部 10%以下
58	189	23	3区	023	須恵部 豊	(推) 13.4	残 18.6			部 (内) 5Y7/1 灰白 (外) 5Y7/1 灰白 (断) 5Y7/1 灰白		良	30%
58	190	24	3区	001	瓦葺 掘跡(口 縁部)		残 4.6			(内) 2.5Y6/1 黄灰 (外) 2.5Y4/1, 6/1 黄灰 (断) 7.5YR8/4 浅黄橙	粗 (5mm小石粒、2mm以下 石瓦、長石、雲母含む)	良	小片
58	191	24	3区	004	瓦葺 櫓(高 台部)		残 0.9	高台径 (4.8)		(内) 10YR6/4 にふい、黄橙 (外) 10YR6/4 にふい、黄橙 (断) 10YR6/4 にふい、黄橙	密 (1mm以下石瓦、褐色 砂粒含む)	良	高台部 20%
58	192	24	3区	第4層	弥生 竪穴(口 縁部)								
58	193	24	3区	第2c層	瓦葺 羽釜(口 縁部)		残 3.5			(内) 2.5Y6/4 にふい、黄 (外) 7.5Y4/1 灰 2.5Y6/4 にふい、黄 (断) 2.5Y6/2 灰白	やや粗 (2mm以下石瓦、 長石、褐色砂粒含む)	良	小片
58	194	24	3区	第2c層	須恵部 器台? (体部)					(内) N6/ 灰 (外) N6/ 灰 (断) N8/ 灰白 5B 明赤灰	やや粗 (2mm以下長石少 量含む)	良	小片
61	195	24	4区	054	土師器 蓋	(27.0)	3.4			(内) 10YR8/3 浅黄橙 (外) 7.5YR6/4 にふい、橙 10YR8/3 浅黄橙 (断) 7.5YR8/4 浅黄橙 10YR8/3 浅 黄橙	粗 (5mm白・黒色砂粒、 4mm白・黒色砂粒、3mm 白色砂粒、2mm白・黒・ 灰色砂粒少量含む、1mm 白・黒・灰色砂粒多量含 む)	良	30%
	196	24	4区	054	土師器 蓋							良	小片
	197	24	4区	掘見中	青磁							良	小片

版 圖



R4・1区第2面遺構検出状況（南東から）



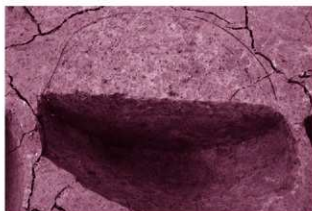
R4・1区第2面全景（南から）



R4・1区遺構 021 断面図（東から）



R4・1区遺構 024 断面図（東から）



R4・1区遺構 054 断面図（南西から）



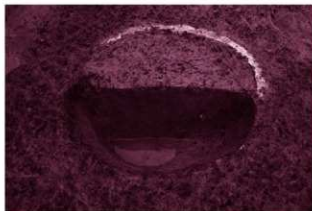
R4・1区粘土採掘土坑東西アゼ③断面図（南から）



R4・1区粘土採掘土坑南北アゼ②断面図（西から）



R4・1区土器 10・13 出土状況（西から）



R4・2区遺構 005（南から）



R4・2区遺構 017（南から）



R4・2区西壁断面（南東から）



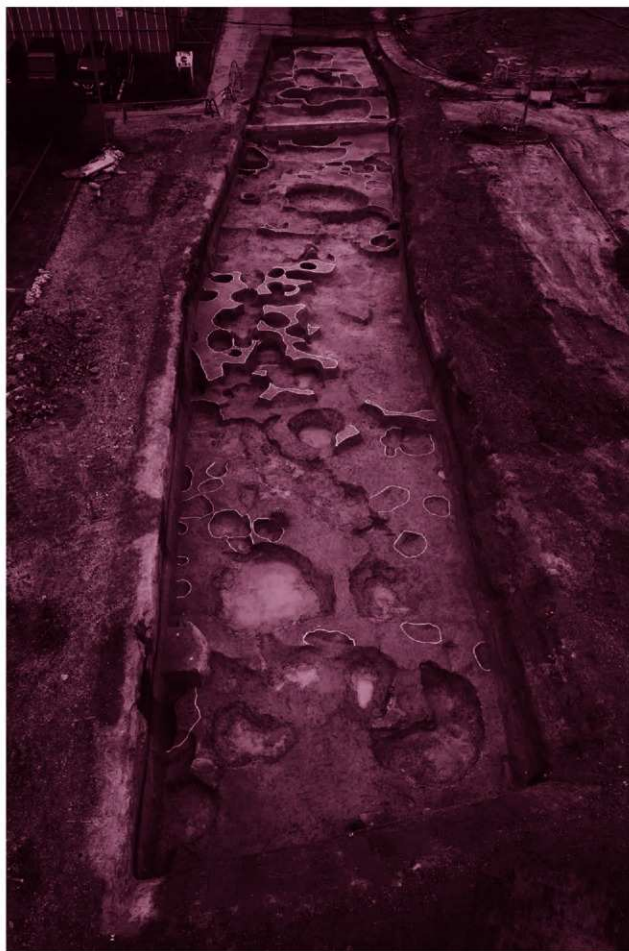
R4・2区第1面全景（北から）



R4・2区遺構001アゼ①(南から)



R4・2区004アゼ⑤断面(南から)



R4・3区第2面全景(北から)



R4・3区西壁土層断面（東から）



R4・3区第1面南半遺構検出状況（北から）



R4・3区遺構 085b (西から)



R4・3区遺構 097 土器 89 出土状況 (西から)



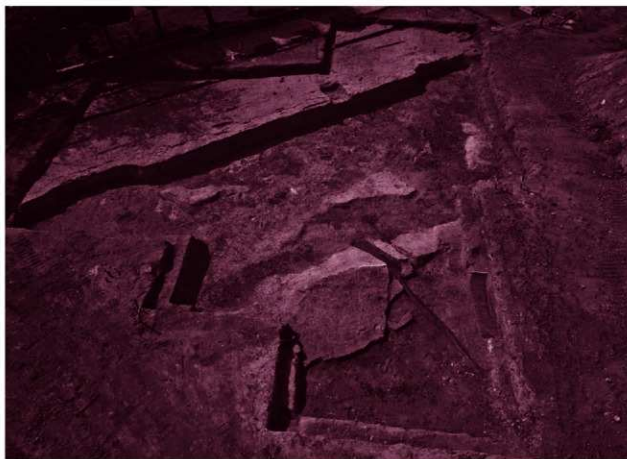
R4・3区遺構 076 (西から)



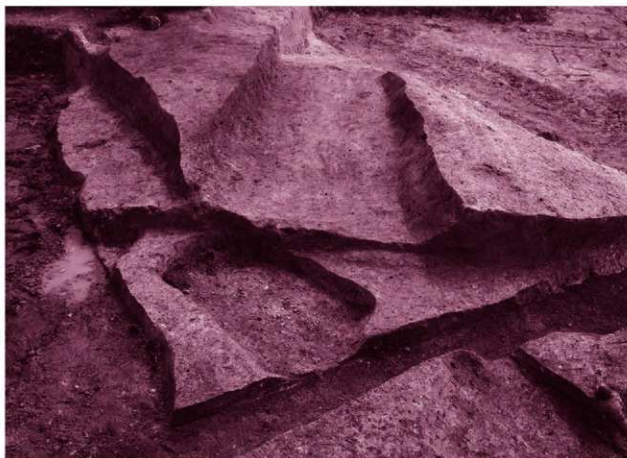
R4・3区遺構 083 (南から)



R4・3区遺構 134・135 アゼ
(東から)



R4・4区全景（北から）



R4・4区遺構 066（西から）



R5・1区遺構検出状況（北から）



R5・1区遺構 058 東西アゼ（北から）



R5・2区第1面遺構検出状況（北から）



R5・2区遺構 028（北東から）



R5・2区遺構 039（左）037（右）（東から）



R5・2区遺構 024（北から）



R5・2区遺構 056 アゼ①（南から）



R5・2区西壁断面図（東から）



R5・3区第2面遺構検出状況（東から）



R5・3区遺構 011 南壁断面図(北から)



R5・3区遺構 005 (南から)

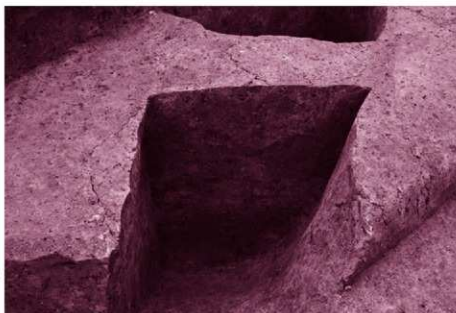


R5・3区 008 遺物出土状況（東から）

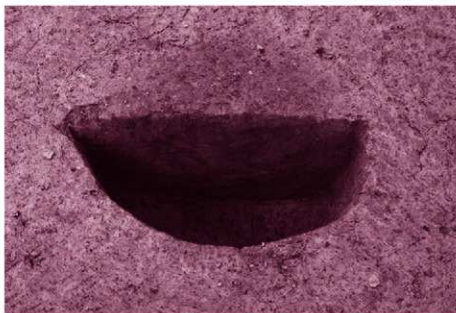


R5・3区遺構 023 遺物出土状況（東から）

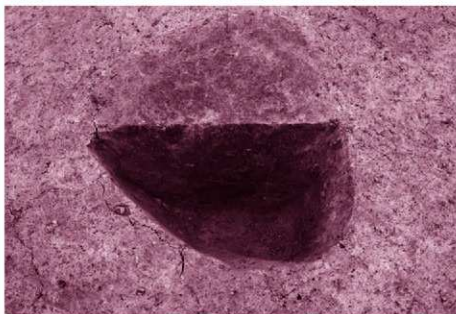
R5・3区遺構 001 (北東から)

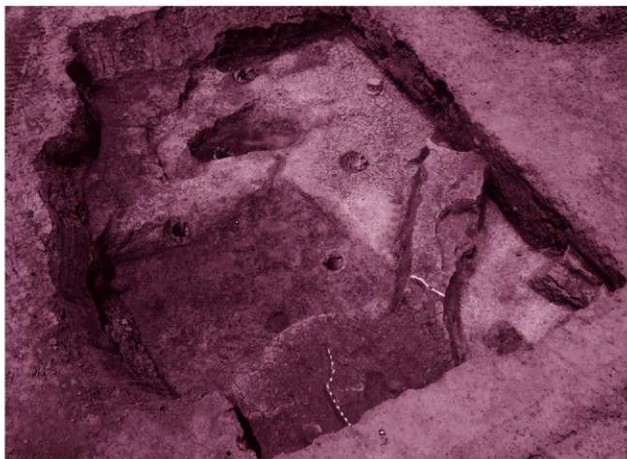


R5・3区遺構 014 (東から)



R5・3区遺構 017 (南から)

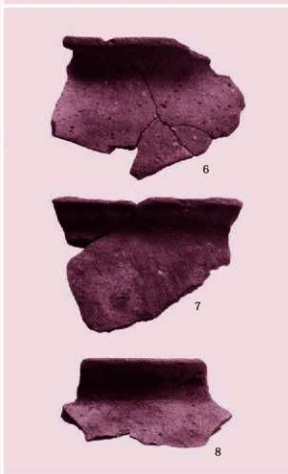
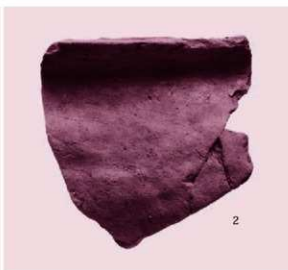


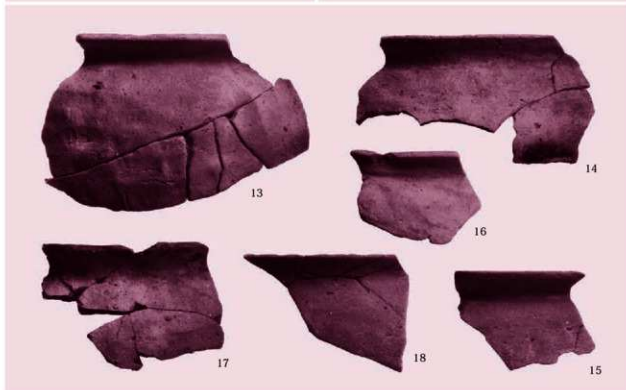


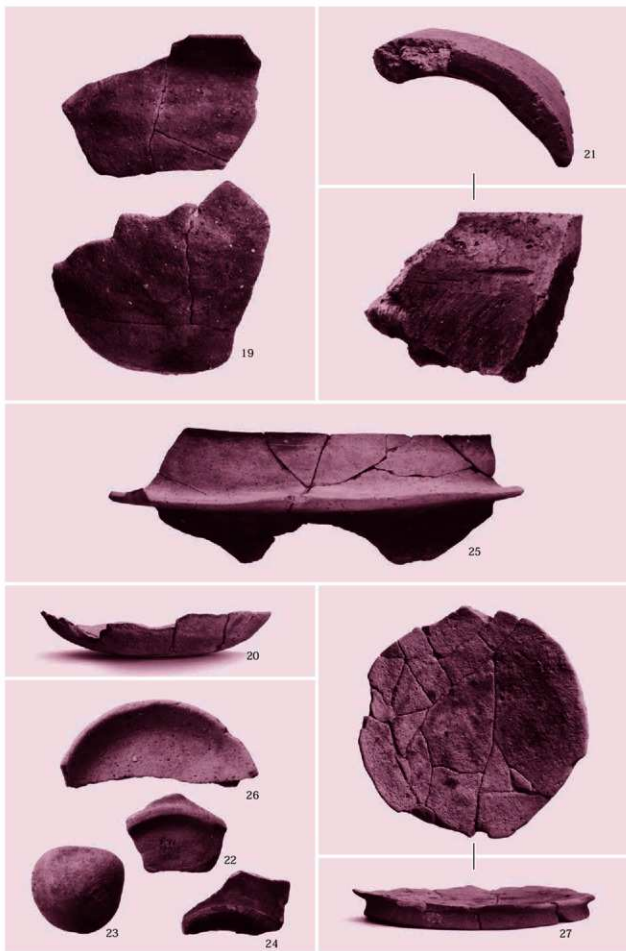
R5・4区全景（南から）

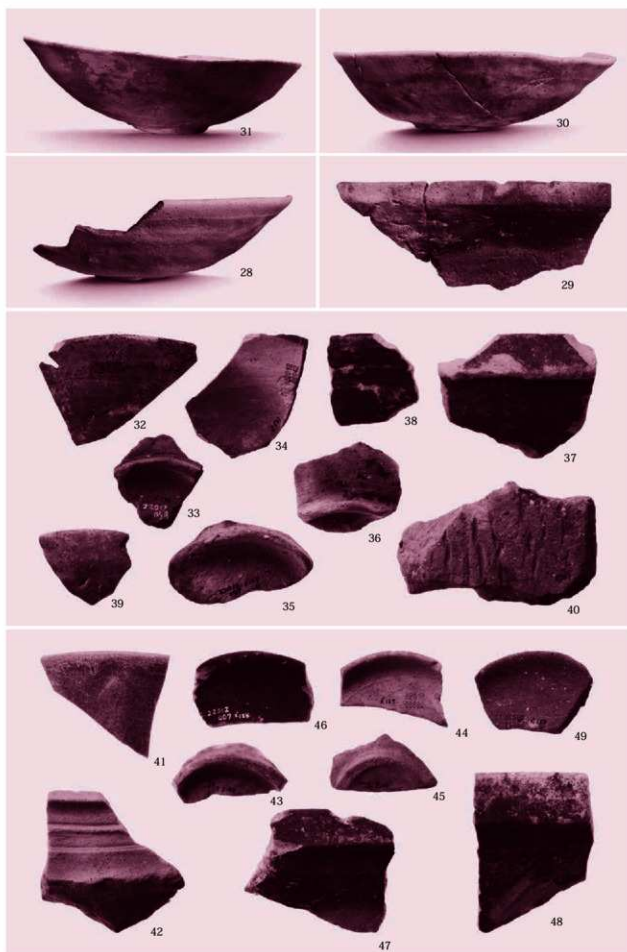


R5・4区遺構 054 検出状況（南東から）

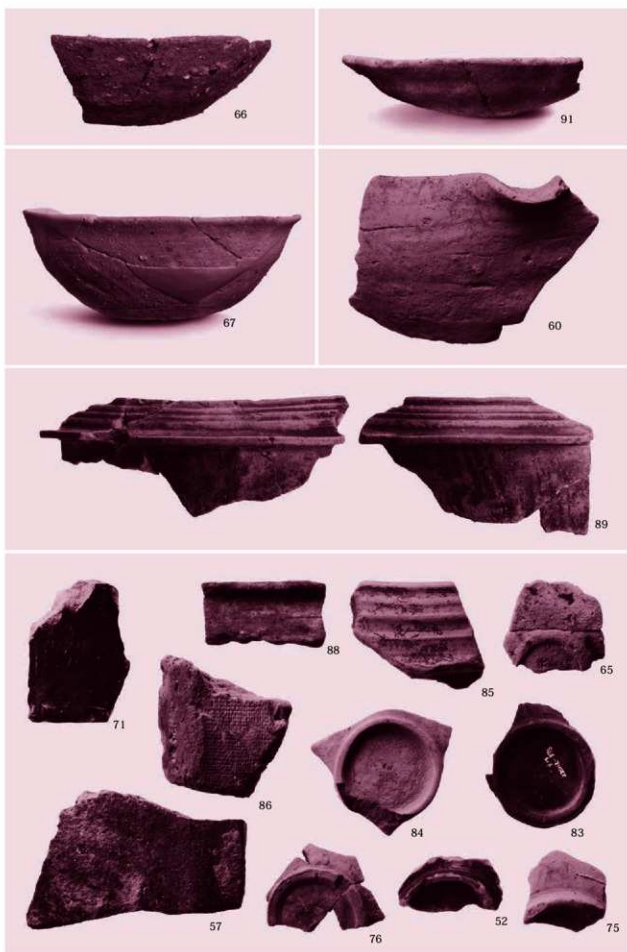


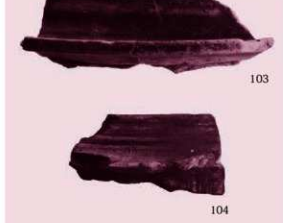
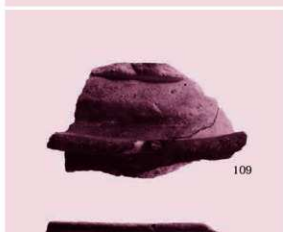
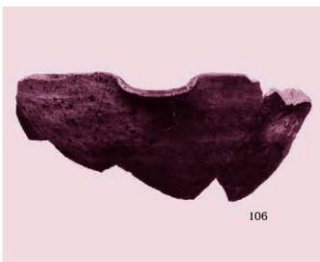


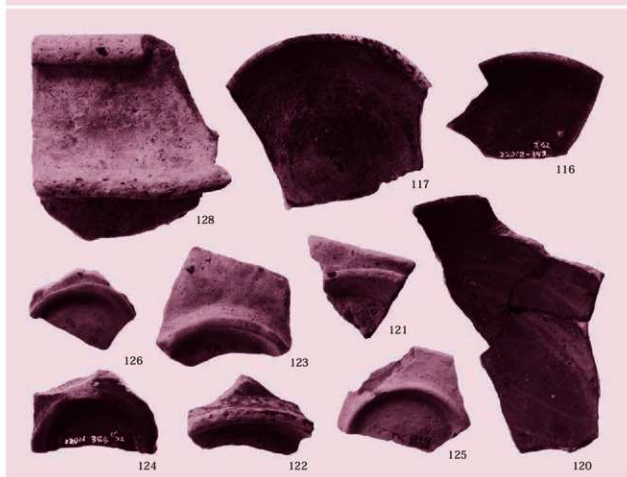
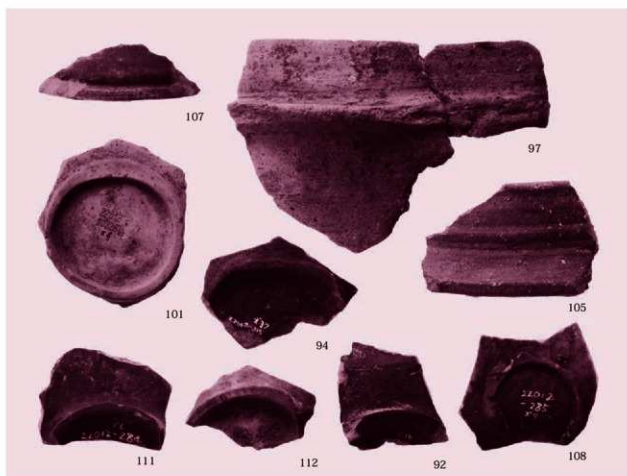


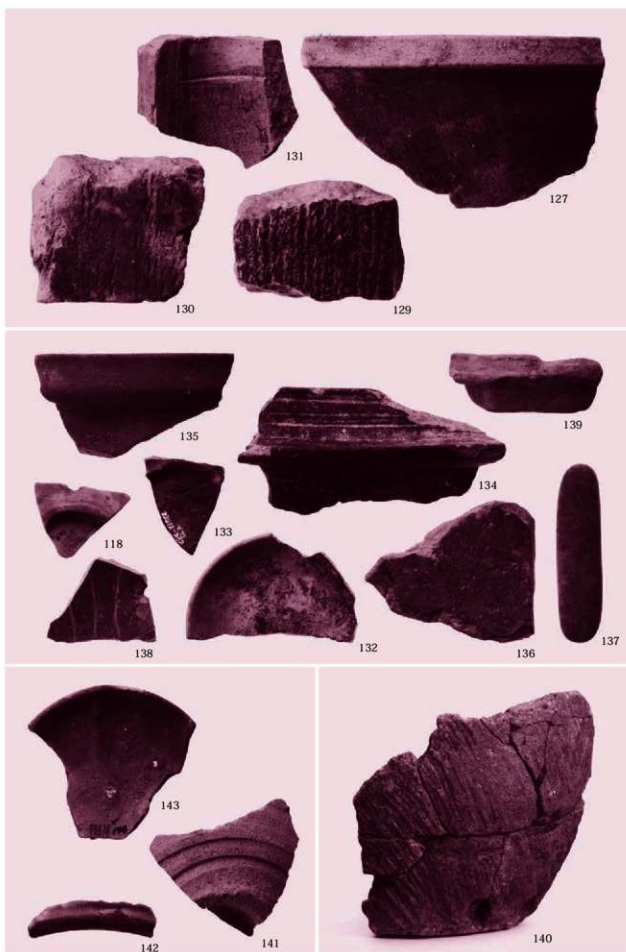


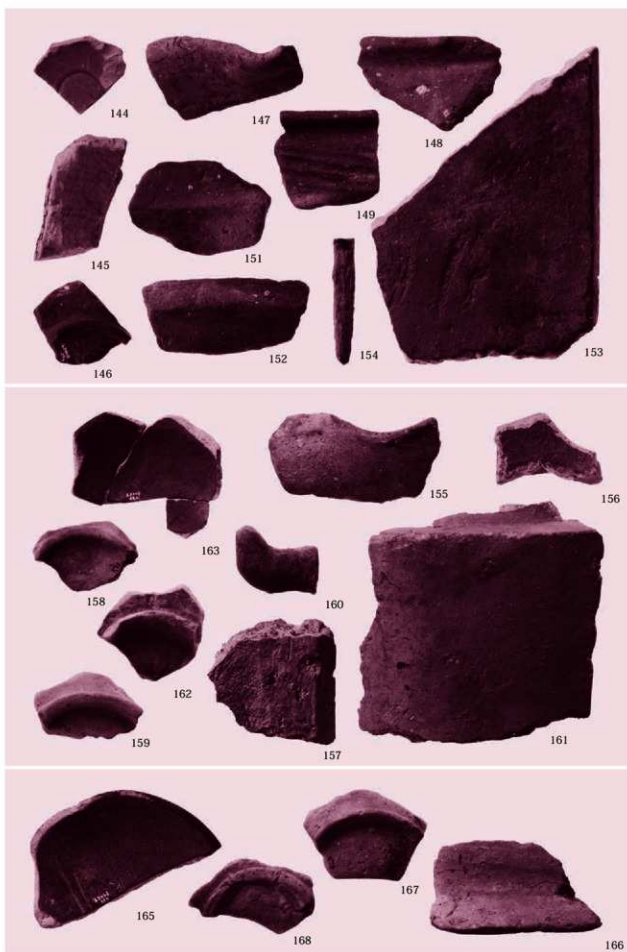


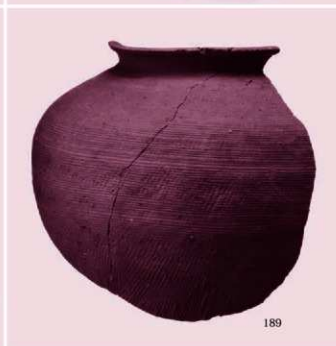
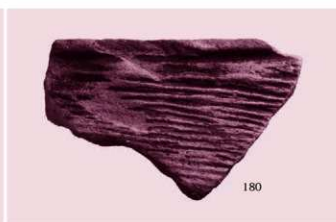
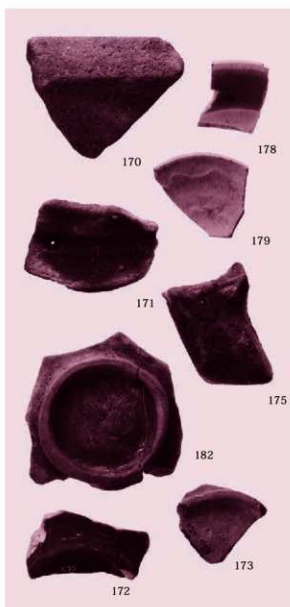


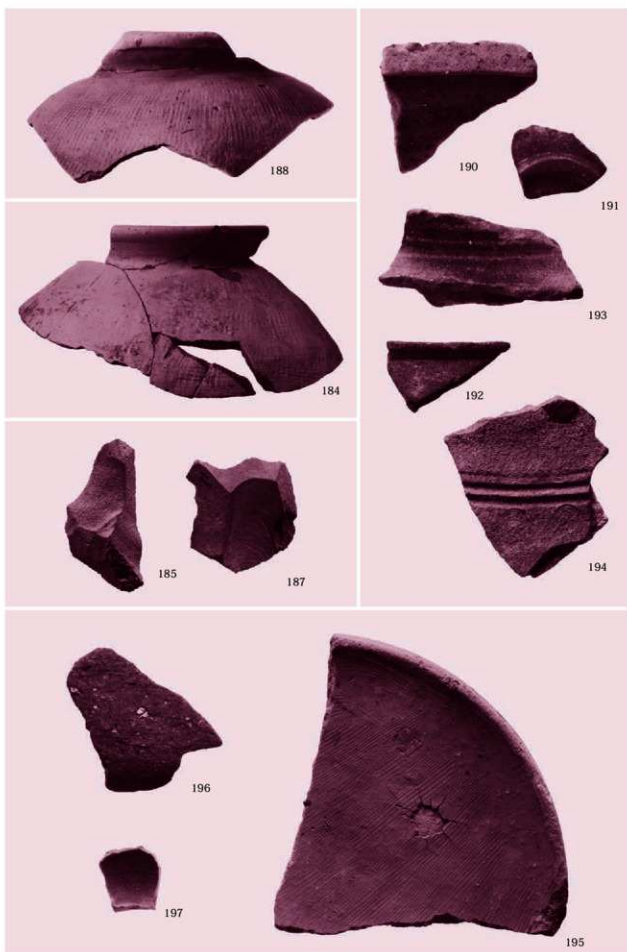












報告書抄録

ふりがな	みやぞのいせき							
書名	宮園遺跡Ⅴ							
副書名	大阪府営堺宮園住宅第3期高層住宅（建て替え）新築工事に伴う発掘調査							
シリーズ名	大阪府埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	2024—2							
編著者名	白河巳板子（編）・大澤 嶺							
編集機関	大阪府教育委員会							
所在地	〒 540-8571 大阪府大阪市中央区大手前二丁目 TEL 06-6941-0351							
発行年月日	2025年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	面積 (㎡)	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡 番号	° ′ ″	° ′ ″			
みやぞのいせき 宮園遺跡	おおさかふ 大阪府 さかいへ 堺市 なかとみやぞのちやう 中区宮園町	27142	487	34° 31′ 37″	135° 29′ 25″	20220701～ 1130（22012） 20230419～ 0623（23003）	1068㎡ （22012） 534㎡ （23003）	府営住宅 建て替え
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
宮園遺跡	田畑・その他	奈良時代 鎌倉時代 室町時代	ビット・土坑・溝		土師器、須 恵器、黒色 土器、瓦器、 瓦質土器			
要約	本書は、宮園遺跡において行われた発掘調査の成果を報告するものである。調査では古墳時代から近世までの遺構を検出し、土地利用の変遷を把握することができた。特に古墳時代の土坑や平安時代の粘土探掘土坑を検出し、粘土探掘土坑内からは完形も含む土師器甕が出土したことに注目される。また平成28・29年度・令和2年度の報告と同様に中世の粘土探掘土坑を多数検出し、これまでの調査に追隨する成果を得ることができた。							

大阪府埋蔵文化財調査報告 2024-2

宮園遺跡Ⅴ

—大阪府宮園宮園住宅第3期高層住宅(建て替え)新築工事に伴う発掘調査—

発 行 大阪府教育委員会

〒540-8571 大阪市中央区大手前二丁目

TEL 06-6941-0351(代表)

発行日 令和7年3月31日

印 刷 株式会社 中島弘文堂印刷所

〒537-0002 大阪市東成区深江南二丁目6番8号